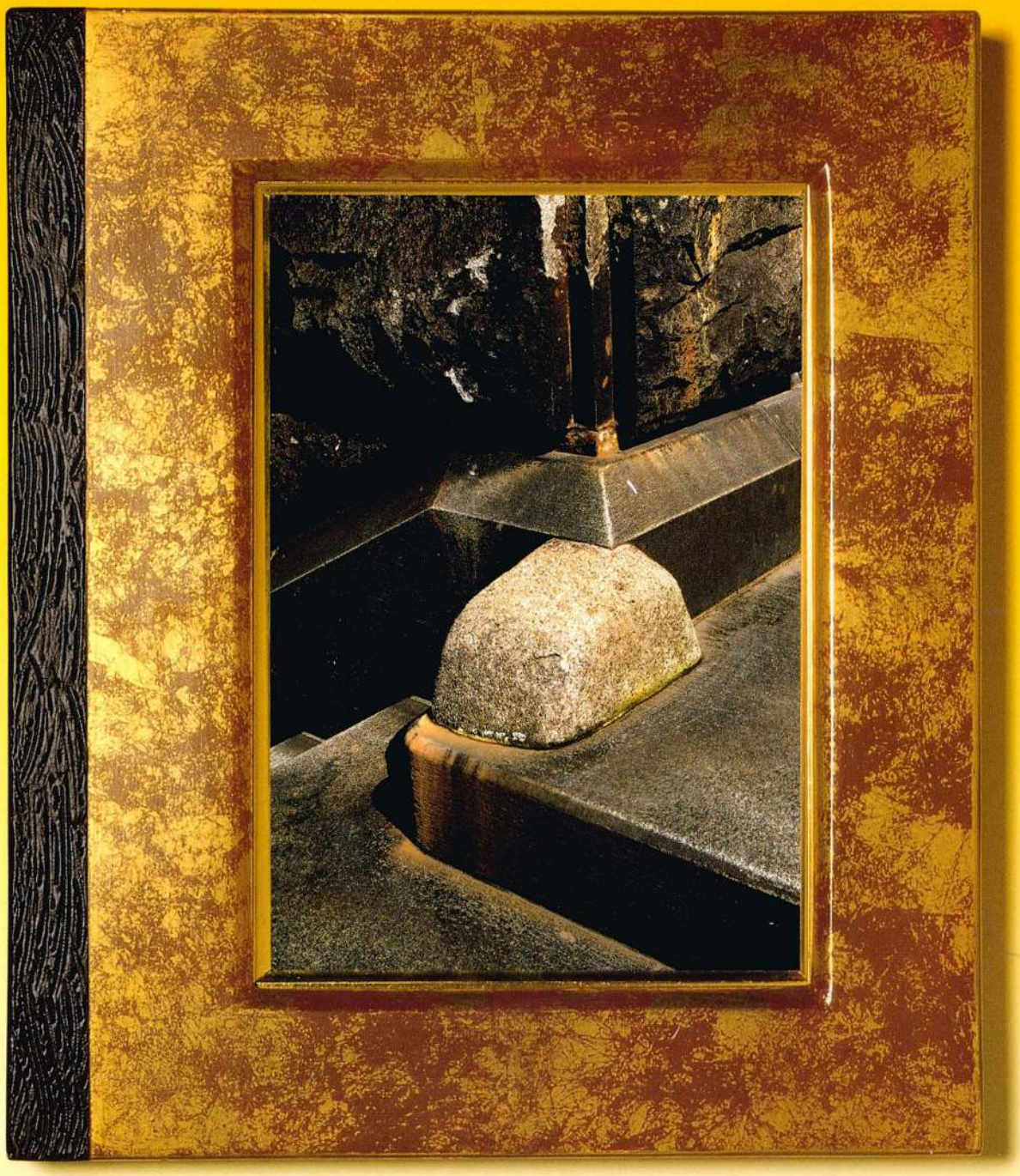
Vol.74 通巻851号　平成5年3月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN0912-8182

建築と社会

1993
3

ARCHITECTURE AND SOCIETY

特集　東海の美術館・博物館



日本建築協会

大阪ガス

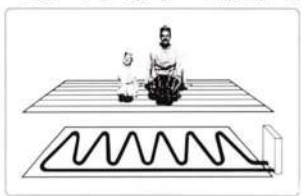
◎新居に床がある限り、床暖房はカンタンです。

近い将来、新居を計画してる方と、
遠い将来だけど、予定はしてるぞって方に、お伝えします。
これからのおうち暖房は、ガス温水床暖房がいいですよ。
ぜひ、よーく知って欲しいのですよ。
みんなが思ってる以上に、身近なモノなのですよ。



そのぬくもりは、日なたぼっこみたいなんです。

床の下にお湯をめぐらせてあったためる温水床暖房は、頭寒足熱の健康的な暖房です。しかも、皮ふ内の温点に直接作用する遠赤外線効果で、からだの芯までポカポカに。寒い冬の日も、日だまりみたいなお部屋で過ごせるんですね。



その燃費は、ホントは安あがりなんです。

とはいうものの、ガス代が気になるわって声に、ズバリお答えします。1時間でわずか※約17円、1カ月でも※約3,050円。お部屋を効率よくあったためる温水床暖房ならではの、うれしい燃費です。これなら冬中使い続けられますね。

※1時間当たり＝1日6時間連続運転した場合ひと月当たり＝1時間当たりのガス代×6時間×30日6畳洋室、外気温5℃（湿度60%）室温18℃ガス119.42円／㎥（大阪ガス実測値）

その工事は、おおげさに考えなくて大丈夫。

家を建てる前に計画しておけば、とってもスムーズに設置できますよ。洋室から和室まで、床材も豊富に揃ってます。設置にかかる費用もそんなにおおげさな値段ではありません。ホントです。まずは大阪ガスに、声をかけてください。

Traditional & New
NOOK
Floor Heating for Amenity Life

ガス温水床暖房

会告

監事並びに本部所属評議員の当選

平成５年２月24日開催の通常総会において、監事並びに本部所属評議員の選挙を執り行いましたところ、下記の方々が当選されました。

●監事（１名）

牧田　顯治君（安井建築設計事務所）

●本部所属評議員（21名）

片田　俊彦君（大阪府建設監理協会）
鶴田　昭一君（大林組）
山形　政昭君（大阪芸術大学）
伊藤　俊夫君（松村組）
内村　俊一君（大日本土木）
白石　静二君（鴻池組）
宗澤　修郎君（西松建設）
杉山　慎一君（三井建設）
中川　公善君（鉄建建設）
飛岡　宏佳君（安藤建設）
岩出　正次君（岩出建設）
森田　　勇君（モリタ建設）
荒巻　恭士君（きんでん）
岩橋　貞雄君（八千代電設工業）
高岸　宗吾君（近畿工業）
臼井　　弘君（須賀工業）
川瀬甲子雄君（扶桑管工業）
福谷　守弘君（朝日工業社）
恩庄　二郎君（大阪化工）
永原　義夫君（王建工業）
小西信一郎君（コニシ）

名誉正会員10名が推挙される

去る２月24日開催された本会通常総会において、次の方々が名誉正会員に推挙されました。

本会に対する永年のご支援、ご協力に対し深く感謝申し上げるとともに、今後のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

●新名誉正会員

石倉　千満氏　小林　得志氏
亀岡　二郎氏　後川　春雄氏
工藤　雅三氏　高橋　保夫氏
玉木　一次氏　中川　　匠氏
山田　一義氏　山根正次郎氏

日本建築協会新入会者ご斡旋お願い

本会は大正６年３月創立以来、建築法規の法制化に努めたほか、わが国初の住宅博覧会の開催、四会連合工事請負契約約款の制定など、今日に至るまで、建築界をリードするとともに、一般社会との結びつきを深めてまいりました。また、建築界の総合団体として常に建築関係各部門の連繋と調整に当たり、相互の親睦、共存共栄に意を注ぎ、会誌「建築と社会」の発行や、各種見学会、講習会など実務に直結した諸種の事業活動を行っております。

これらの事業をますます発展させるため、会員増強運動を展開して会勢の伸展をはかりたく、新入会者のご斡旋をお願い申し上げます。事務局は、電話06-348-0635です。

けいはんなプラザ・住友ホール

関西文化学術研究都市「文化学術研究交流施設」

見学会

建設が進む関西文化学術研究都市（けいはんな都市）は、ようやくその全体像を現してきました。「けいはんなプラザ」は、〈けいはんな都市〉のセンター施設〝文化学術研究活動を支える知的交流の核〟と位置づけされる複合施設です。

施設は、交流・研究・教育・情報関連及びサポート施設で構成されています。交流施設は、別子銅山開坑300年を記念して住友20社が寄贈するコンベンションセンター・住友ホール（1,000席のホール、展示場、会議室など）をはじめ、研究情報センター、レストラン、銀行、郵便局、店舗等のほかに、70室規模のホテル（けいはんな都ホテル）が含まれています。また研究促進施設として別棟には、エレクトロニクス系からクリーンルームなど重装備なものまで３段階に設定された約22,000㎡のレンタル用研究実験室があります。

既に開所したものを含め精華地区の研究所群が並ぶ精華大通りに面しては、〝日時計〟モニュメントのある広場を配し、けいはんなプラザの諸施設を相互に関連づける動線の要として中央にアトリウムロビーを設け、広場とアトリウムロビーが一体となって交流プラザの機能を果たすような構成としています。

更に北側敷地には、実験研究室、ホテル、ショッピングセンターなどが２期計画として予定されています。

（日建設計）



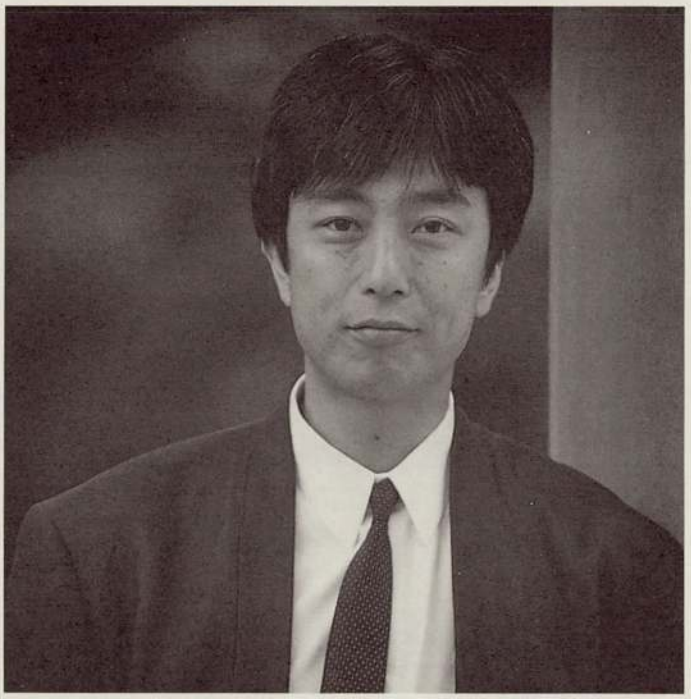
●建築概要

所在地　京都府相楽郡精華町光台1-7
建築主　㈱けいはんな
　　住友グループ20社
設計監理　日建設計
施工　A　大林・前田・奥村・鴻池・淺沼JV
　　B　竹中・熊谷・フジタ・錢高・青木・森本JV
　　C　鹿島・住友JV
構造規模　SRC、B1、13F、P1
敷地面積　51,440㎡
建築面積　9,337㎡
延床面積　40,569㎡
最高高さ　60.0m（ヘリポート面63.7m）
工　期　1991年４月～1993年３月

日　時　1993年**4**月**15**日㈭
　　13:00～16:00
講　師　中井　進／日建設計設計部長
定　員　60人
　　※申込者多数の場合は抽選
集　合　現地
　　京都府相楽郡精華町光台1-7
　　※近鉄京都線「山田川」駅より奈良交通バス「ATR」停下車すぐ
参加費　会員1,000円、一般1,500円
申　込　４月８日㈭までに、ハガキ、FAX、電話でお申し込み下さい。
　　1)催し名（けいはんなプラザ見学会）、2)氏名、3)会員・一般の別、4)勤務先、5)参加証送付先、6)電話番号をお知らせ願います。
　　※参加証を４月９日㈮に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　〒530 大阪市北区梅田1-1
　　大阪駅前第３ビル21階
　　FAX348-0634 TEL348-0633

竹山聖講演会「建築を学ぶことができるか?」

日　時　1993年 5月21日(金)
　　18:30〜20:30
会　場　イトーキ・クリスタルホール
　　(大阪市中央区淡路町1-6 イトーキ大阪ニューオフィスギャラリー9F)
　　＊地下鉄「北浜」駅から5分
定　員　100人(申込多数の場合は抽選)
参加費　会員 500円、一般 1,000円
申　込　5月14日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　1)催し名(竹山聖講演会)、2)氏名、3)会員・一般の別、4)勤務先、5)参加証送付先、6)電話番号、をお知らせ願います。
　　＊参加証を5月17日(月)に発送します。
申込先　(社)日本建築協会事業課
　　〒530 大阪市北区梅田1-1
　　大阪駅前3ビル21階
　　FAX.348-0634　Tel.348-0633



竹山聖氏は、「OXY乃木坂」「D-HOTEL大阪」「TERRAZZA」といった話題作を次々と世に送られている若手建築家のホープです。また、昨年4月から母校の京都大学助教授として教育活動も始められました。

「沈黙をもって街に対峙したい」と言われる竹山氏の建築は、加算的表現の商業建築が氾濫する現代の都市にあって、そのスカイラインを鮮やかに切り裂く「強度」を持っています。また近作では特に「無為の時間の空間化」「余白の空間」をテーマとして扱われ、建築の中に人々が「生の豊かさ」を感得できるような「無目的」な空間を挿入することが試みられています。これは、都市が本来「他者との交流の装置」であり、建築は都市の一部分として人と他者との新しい出会いを助ける「出会いの形式」である、とする氏の信念に基づくものでしょう。

◇……◇

今回の講演会では、TERRAZZA以降の最新作のスライドを通して竹山氏の建築観をご披露いただくと共に、その建築観を培った氏の個人的体験とその一般化のプロセスを語っていただきます。そしてさらにプロフェッサーアーキテクトの立場から若い社会人や学生へのメッセージとして、「建築を学ぶことができるか?」つまり本来「行為」である建築を知識や情報として学べるのか、という問題へとお話を発展させていただきたいと思います。

当日は、会場からの質問なども積極的にお受けする予定です。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

竹山　聖(たけやま　せい)
建築家・京都大学助教授
1954年大阪生まれ
77　京都大学工学部建築学科卒業
79　東京大学大学院修士課程修了
　　設計組織アモルフ創設
84　東京大学大学院博士課程修了
92-　京都大学工学部建築学科助教授
主な作品・著書
1984　MARUYO代官坂
87　OXY乃木坂
89　D-HOTEL大阪
　　箱根強羅花壇
90　緑が丘の棲処
91　下鴨の住宅
　　TERRAZZA
92　STAIRWAY TO HEAVEN
93　西新宿ホテル(予定)
　　周東町コンサートホール(予定)
1990　作品集「竹山　聖」六耀社



TERRAZZA
所在地　東京・神宮前
敷地面積　1,732㎡
建築面積　1,310㎡
延床面積　6,880㎡
規　模　地上5階、地下4階
設計期間　1988年6月〜1989年10月
施工期間　1990年1月〜1991年12月

主催　(社)日本建築協会
　　若い会員の集い小委員会
　　横田隆司、米井　寛、芦田智之
　　龍野豪利、内仲　毅、佐々木晴子
　　増田昌彦、松隈　章、廻はるよ
会場提供　㈱イトーキ

建築と社会

1993 3 1917年創刊 第74集／通巻852号

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

〈今月の表紙〉東出清彦

中之島の大阪府立図書館、正面階段の部分。階段石の上に、丸味を帯びたセメントの塊がある。基壇の上部で頭を打たないように、足止めにつくられたようだ。90年前、この重文を設計した野口孫市が見れば仰天するだろう。今、見ていると石もセメントも長年の雨や風や硫黄分に蝕まれて、却ってどこか趣きがある。本来なら目障りにすぎないものが、妙に存在感をもった。

■特集予告
4月号／劇場の設備(仮称)
5月号／環境—限りある自然と建築とのかかわり

会　長　佐野正一
副会長　金多　潔・薬袋公明
　　市川　宏・鴻池藤一
　　三品哲夫

編集委員会（平成4年度）
■編集理事
井上　豊
金井　弘次
川島　繁二
小島　雄
須賀　好富
竹中　錬一
深江　實
松村　慶三
⊙清神宏至朗
若山　繁
■編集顧問
東　孝光
■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
梅村　宏尚
河端　秀直
小浦　久子
鈴木　克彦
田中　直人
林　輝行
松川　敏正
山尾　弘子
横関　真紀
○吉村　英祐
☆建築計画系
石山　道男
磯村千恵子
上杉　秀隆
江副　敏史
菅野　忠司
○北村　潤
黒川　明彦
※佐藤不二男
塚本　史郎
刃金　国男
山本　匡
吉羽　逸郎
☆インテリア・住宅系
大森　智子
大橋眞由美
加藤　力
角方　利幸
神谷　剛
北浦かほる
駒田　哲男
中村　孝之
※西川　純一
○福田　由利
★構造分科会
和泉　一義
岡本　達雄
亀井　功
黒木　安男
竹野　富夫
築谷　明也
○二宮　利治
西　邦弘
西村　泰志
馬場　研介
養輪　幸男
★設備分科会
石沢　重治
遠藤　進
大田　克彦
○梶井　宏修
河津　隆之
伊達　正雄
田ノ畑好幸
村上幸三郎
★施工材料分科会
有光　利治
○植田　実
加藤　眞
小椎八重猛
志水　史典
村上　信直
★法令分科会
乾　康雄
○岩田　純一
樫田　攻
熊田　典彦
高見　成志
中島　弘志
■作品作風小委員会
遠藤　公介
小笠原絵理
尾崎　久純
岡本　隆
川上比奈子
桜井　俊郎
田中　均一
富田　昌義
藤城　義丈
※前川　治彦
前田　幸宏
○松田　善弘
松村　衡
水川　尚彦
宮地雄一郎
■会員企画小委員会
伊藤　郁郎
※稲木　裕子
大沢　智弘
グレッグ・ホール
小板橋鉄雄
※佐伯由紀子
佐野　洋
坂田　耕一
高田　光雄
○高橋　麗子
塚口　明洋
増渕　昌利
松石　千秋
森本　幸治
山嵜　章子
■広告企画小委員会
※池渕　俊男
上井　善一
尾崎　英直
勝　一弘
衣川　徳好
○佐野　寛志
原田　常介
藤田　孝吉
山下　修司
■支部担当編集委員
(京都)井手　正己
(中国)平本　俊秋
(東海)中島　一
(関西)黒田征四郎

⊙印 委員長　○印 副委員長と幹事
※印 同代行

印　刷　平成5年3月20日
発　行　平成5年3月25日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　電　06－348－0635
　　振替口座 大阪1-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
　　電　06－351－5428㈹
　　サン総合印刷株式会社
　　電　06－454－1481㈹
　　日本電植株式会社
　　電　06－352－7502
定　価　980円（本体価格951円・送料共 消費税29円）

CONTENTS

特集●　東海の美術館・博物館

［作品］　名古屋大学シンポジオン/中部電力旭名東営業所/愛知県海部総合庁舎　27
愛知芸術文化センター/名古屋港水族館/名古屋市緑スポーツセンター
三重県老人休養ホーム「芙蓉荘」/清水市立中央図書館/JR東海太閤ビル
名古屋短期大学新研究管理棟/住総名古屋ビル
金城学院大学ランドルフ記念講堂/ホテルプリシード名古屋
東海銀行徳川町家族寮/錦SISビル/坂種栄ビル/岡谷不動産滝川町ビル
豊田工機厚生年金基金会館/ダイワ親和寮・ダイワ名古屋事務所
小牧ロイヤルホテル/山善ロジス西日本/オークマ可児工場
メイテック神戸テクノセンター/東京第一ホテル魚津/瀬戸信用金庫本店
［東海のsketch］　新建築作品4点 —— 82
［本文］　特集東海の美術館・博物館●中島　一 —— 83
愛知芸術文化センター
複合型文化施設について●横山和博 —— 84
愛知芸術文化センターの設計について●進藤　繁 —— 86
愛知芸術文化センターの施工●茂木文夫 —— 88
愛知県美術館●村田真宏 —— 90
海の博物館
そこで仕事をするものにとっての「海の博物館」の建築●平賀大蔵 —— 92
海の博物館の設計について●内藤　廣 —— 94
岐阜市歴史博物館
岐阜市歴史博物館の建設と運営について●白水　正 —— 96
岐阜市歴史博物館の設計について●日置朝生 —— 98
静岡県立美術館
日本の美術館の過去と未来の狭間●立花義彰 —— 100
静岡県立美術館の設計について●高木滋生 —— 102

会告　監事並びに本部評議員の当選　1
名誉会員10名が推挙される
けいはんなプラザ・住友ホール見学会
竹山　聖講演会「建築を学ぶことができるか?」

作品作風　国立南和歌山病院　4
星光日動火災ビル
太陽生命神戸西ビル

Gallery　語りかけるSCENE-ファサード11景●田中啓文　10

書評　人生の風景に見た建築的なるもの—田中　喬著「建築家の世界」●伊從　勉　12

ブックステーション　短評3冊●伊藤郁郎・稲木裕子　13

新建材紹介コーナー　超高速・超フレキシブル駐車システム●松本　章　15

GBRCニュース　打放しコンクリートの色・光沢度—測定例と今後の課題●河津龍大　16

法令コーナー　確認申請のOA化に対応した規則改正●岩田純一　19

INFORMATION　「創造博物館—まちと建築の未来展」—4月から11シリーズで—　25
高松　伸建築展—サンフランシスコで—.　イスラームのタイル展.　〈京都・色彩トーク〉2.
RM構造施工管理マニュアル講習会.　神戸建築探訪—5月のラリー.　第4回公共建築賞の公募

建築の眼　JAZZYな住環境●加藤晃規　26
好きこそものの上手なれ●玉井龍男
逆さ眼鏡と未足●隅谷康彦
建設業に於ける時短●得田芳宏

デザインコンクール　第2回大阪府公共建築設計コンクール　104

設備の頁　自力水力制御によるリニア給水装置●大西慎次郎　106

構造の頁　アンボンド平鋼ブレースの設計●福山国夫・峰　隆俊　108

月報　平成5年1月　109

追悼　水谷穎介さんのこと●藤田邦昭　110

全景北西面

全景東面



作品
作風

設計■
厚生省保健医療局整備課

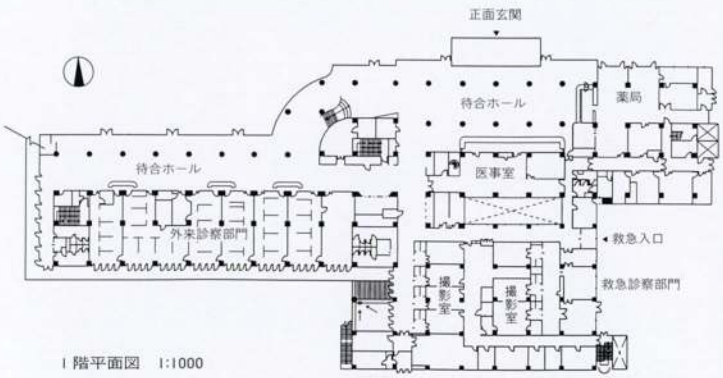
監理■
近畿地方医務局

施工■
清水建設・東海興業共同企業体

国立南和歌山病院

国立田辺病院と国立白浜温泉病院の２つの病院を統合し、和歌山県域を主たる診療圏として、がん・救急医療などの高度な総合的診療および医療従事者の研修を行う新しい病院が開設された。
建設敷地は、田辺市新庄町の小高い丘の上で、周辺に団地・保養所・老人ホーム等があり、恵まれた診療環境を備えている。また、西側の緑深い斜面の先には田辺湾が広がり、ナショナルトラスト運動で自然環境保全法人第１号となった自然豊かな「天神崎」も望め、素晴らしい景勝を展開している。建物のデザインは、このような環境に馴染むよう配慮した。
全体を通じて、高度な総合診療施設としての機能を備えることはもとより、医療施設の「アメニティ：快適環境」を高めることに重点を置いて計画を進めた。避難を考慮した外周をめぐるバルコニーのラインを波打たせ南紀の波と水平線をイメージさせている。また、海に向かって敷地をセットバックさせることにより、海を見る装置として建築を演出している。玄関前のデッキ、２層吹抜けの外来ホール、病棟のデイルームや病室のどこからでも海を眺望できるよう計画した。
海を意識できる環境作りは、人々の健康回復に一役買うことができるものと考えている。また、人々がこの地の海に親しみ、自然を保護していく機運を高める助けになればと願っている。

（建築専門官　青島　弾/厚生省保健医療局国立病院部）



１階平面図　1:1000

所在地 ―― 和歌山県田辺市新庄町滝内
敷地面積 ―― 50,934.15㎡
建築面積 ―― 6,982.12㎡
延床面積 ―― 25,726.08㎡
構造規模 ―― RC、B1F、6F、P2
工　　期 ―― 1988年12月～1992年８月
最寄駅 ―― JR紀勢本線紀伊田辺駅
撮　　影 ―― 藤尾 哲也


１階待合ホール


２階外来診察部門（待合ホール）


病棟・食堂


３階手術室


朝日生命
興亜火災

作品
作風

設計監理 ■
大林組

施工 ■
大林組・清水建設・高松建設共同企業体

星光日動火災ビル

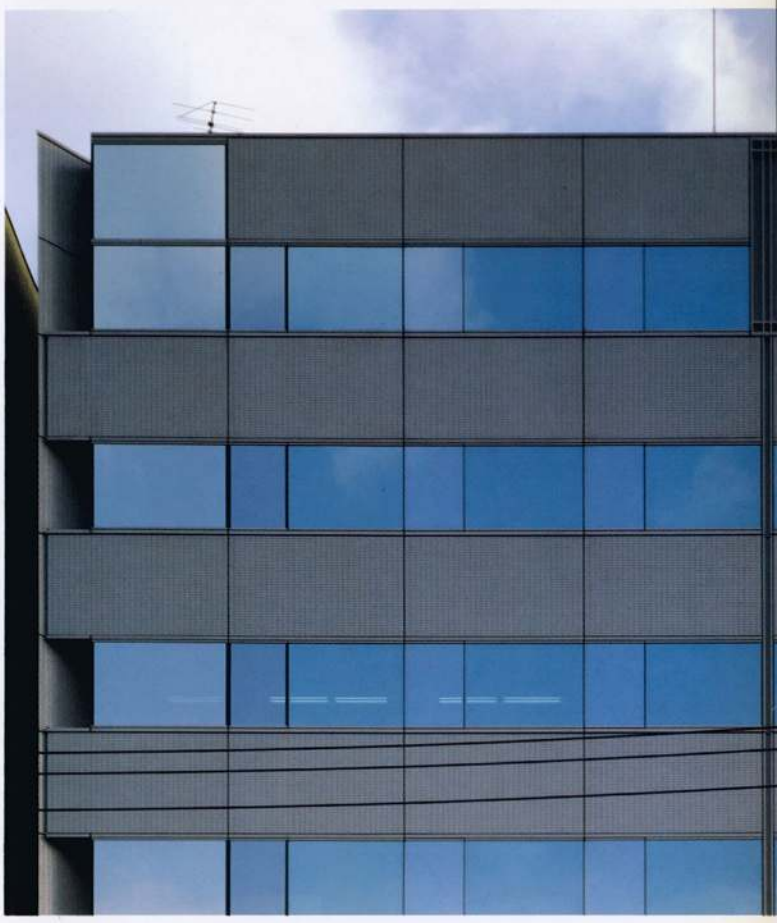
十三のメインストリートに面して建つこのオフィスビルは、ビル管理会社の社内研修施設と損害保険会社の支店からなる共同ビルである。発注者からはオーソドックスな横連窓デザインを、との要請を受けていた。私達はこの場所でオフィスワーカーが誇りをもって働くことができて、来訪者にとっても好ましい企業イメージの媒体となるビルの姿を求めた。それはオフィスビルの外観としてポピュラーなスタイルの横連窓デザインに対して、新たな命を吹き込む取り組みでもあった。

青空を映し込むミラーガラスの採用、ユニークなスカイラインを形成する左右上端のカーテンウォール、シンメトリーを強調するセンタースリットの採用によって、横連窓にリズムと飛翔感を与え、端正でオリジナルな姿を創り出した。玄関ホールでは壁の上方に間接照明と鏡面パネルの天井を組み合わせてビルの品格を高めるように努めた。このブルーグレーのクールな外観のビルが快適なビジネスの場であり続けるとともに、十三の街並の景観向上に貢献することを願っている。

(山田宗彦・加藤進一/大林組)

所 在 地 ——— 大阪市淀川区新北野1-8-17
敷地面積 ——— 559.89㎡
建築面積 ——— 494.86㎡
延床面積 ——— 3,885.26㎡
構造規模 ——— SRC、8F、PI
工　　期 ——— 平成3年7月－平成4年9月
最 寄 駅 ——— 阪急十三駅
撮　　影 ——— 島　修一、山本富實成







外観南面

作品
作風

設計施工 ■
大林組神戸支店

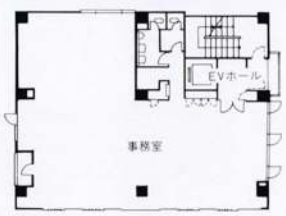
太陽生命神戸西ビル

太陽生命神戸西ビルは、神戸西地区の営業拠点として、須磨区の市街地中心部に建て替えられた支社ビルで、このオフィスで働く人や、訪れる人々に魅力とやすらぎを提供するために「快適な環境づくり」をテーマとして設計された。

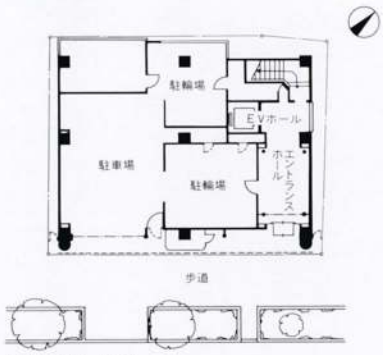
造形はシンメトリーで端正なファサードとし、生保会社に求められる安定感・安心感を表現した。外装はラスタータイル・アルミパネル・熱反ガラスで構成し、街路樹のあるやさしい街並に、高感度な雰囲気を対比させた。

平面構成は、1階がエントランスホールと駐車場・駐輪場、2階が営業室、3～6階は事務室・研修室・休養室等で、容積率の制限から、6階は北側でセットバックをさせ南側正面ファサードを整えた。内部のデザインは、2階以上の業務諸室への導入部としてのエントランスホールと営業室に重点を置き、スケール感・色調・照明に気を配りながら清潔感のあるやさしい雰囲気に仕上げた。

（小田修一／大林組神戸支店）



3階平面図



1階平面図　1:500

所在地 ——— 神戸市須磨区大田町3丁目1-4
敷地面積 ——— 266.66㎡
建築面積 ——— 222.40㎡
延床面積 ——— 1,194.93㎡
構造規模 ——— RC、6F、P1
工　期 ——— 平成3年8月～平成4年7月
最寄駅 ——— 山陽電車板宿駅
撮　影 ——— 川元　斉


エントランスホール


1階エレベーターホール


2階営業室

gallery

語りかけるSCENE

—ファサード11景—

設計

田中啓文

「建築」の数だけ、ファサードは生まれ、それは立ち上がったその時より、通り過ぎる人々の、日常の風景の中に織り込まれる。時にファサードは、その「建築」の機能や役割といった束縛から解き放たれて自立し、それそのものの有様で、都市にたたずむ。

様々な開口部、内外の関係をコントロールするエレメントの数々、透けたフレーム。それらの形態、色彩、テクスチャーは、光と影の動きと相まって、季節や時間の移ろいを映し出し、自然に、人の感性に語りかける。

「建築」が紡ぎ出す、そんな「SCENE」をひとつひとつ、集積していきたい。少しでも都市を、表情豊かにするために。

田中（たなか）啓文（ひろふみ）

1977　早稲田大学理工学部建築学科卒業

1986　田中啓文建築研究所設立

1989　㈱田中啓文総合建築研究所に組織改組



COLOSSEO



S.Y.BLDG.—1



S.Y.BLDG.—4



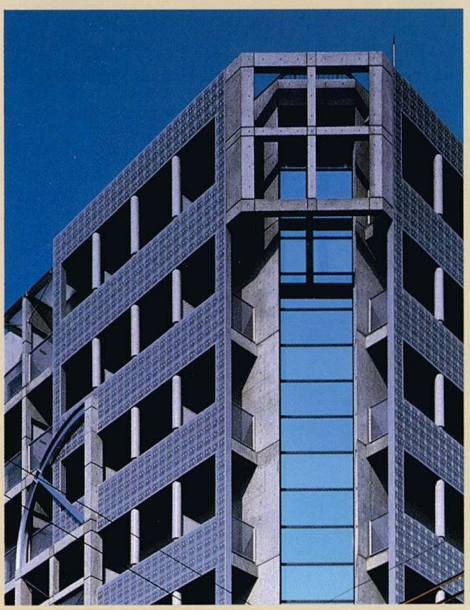


S.Y.BLDG.—3

撮　影—中島崇夫

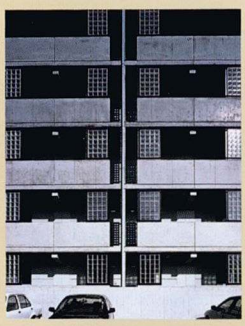
企画編集—前川治彦(作品作風小委員会)





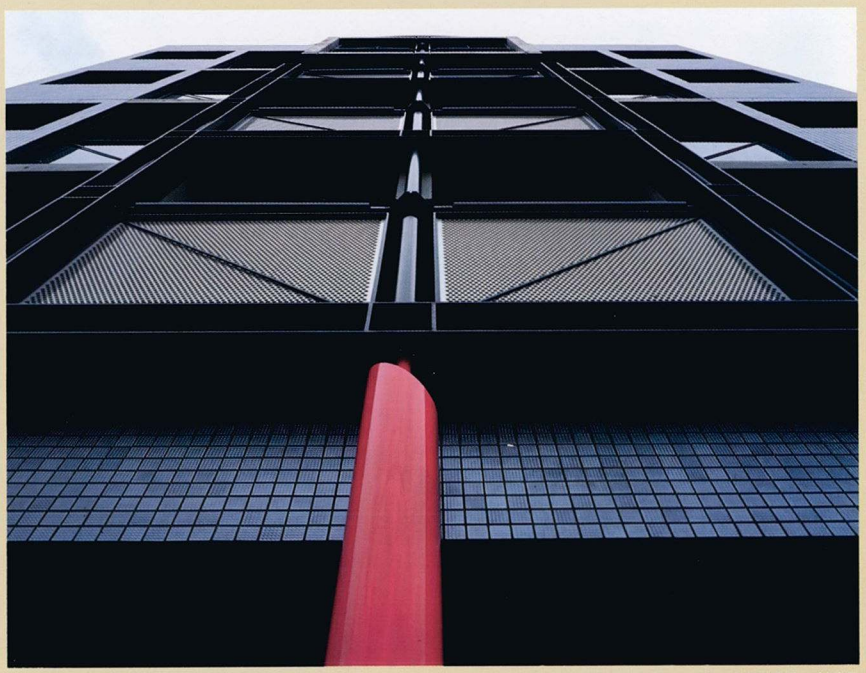


CROSSOVER





Y—COURT HONTAMON



Y—COURT NOE

書評

人生の風景に見た建築的なるもの

伊従　勉



建築家の世界
住居・自然・都市
田中　喬 著
ナカニシヤ出版　1992年4月20日刊
A5変判　484頁　4,800円

建築という場所には二つの背景がある。ひとつは、それがひとつの風景を取り集めていること、もうひとつは、人のあり方としての「姿勢」が建築化されたものであること。普通、人は建築をこのようには見ない。図としての建物の物的構成に気を取られ、これらの二つの背景は、文字通り背後に退いてしまう。決して完全に忘れ去られるわけではないが、気づかれない。この背景の構造の方から、建築的な現象の初発を見守るのがここに紹介する著作である。

かつて京都東山山麓にあったある建物のことから、話をはじめよう。コンクリート二階建ての「ロの字」型平面のその建物は、交通激しい前面道路に対しては大壁面を建てて閉じ、中庭を囲んでは回廊が巡る平面をしていた。道路と大壁の間には、大きな楠が工事前から立っており、大きく道路に突き出したキャノーピーから建物に出入りする人々を見守るようであった。中庭には、建設工事に伴って欅が植えられ、築後20年以上を経たとき、大きく涼しげで閑寂とした影を落とすまでに育った。大木と建物と人が織りなすその小世界は、静寂の一時を提供する場所であった。この建物のたたずまいは、東山山麓にあってこの二つの木々に対するひとの異なったあり方を建築的に見事に「写し」た（本書でも使用される人と建築のあり様に関わるキーワード）ものであった（欅に対する予測的な意味づけは、当然ながら、設計者の自覚的な狙いである）、というのが、著者の前著における見解であった（『建築術の実戦－京都の場合』、ナカニシヤ出版、1989、8頁）。

この建物を利用していたある俳句の会の方々が、この建物の存続が危機に頻したとき寄せられた穏やかではあるがきっぱりとした取り壊しに対する反対の意志表明は、未だに評者の記憶に残っている。建築家はコンクリートと石と緑に拠りながら、東山山麓の風景を自覚的にこの詩的な空間として見定め取り集めた。その場所に集まった俳人たちは、日常のなかからその日常の根底を見据えようとする詩的瞬間をこの場所で生きることにおいて、その場所の成り立ち（詩情）に響き合うものがあることに気付いたのだと思われる。故あって取り壊されたこの建物の跡に、上述の二本の木々だけは養生されて未だに立っている。が、実に痛々しく、頼りなげに立っている。

事物的には以前と同じ木々ではあるが、かつてあった建物と人が生きて経験したあの木々ではない。かつて人が与えた配慮と信頼（その事物的な写しが建物であった）を受けることもなくなったその木々は、枯れない程度に養生をされているだけである。そう、かつてそのもとで人が生きえたあの小世界（場所）が消えてしまったのである。

このような人の生きる場所としての建築の初発は、建物を作ることや必要を満たすこと、日々の暮らしに追われている日常の目には見えてこず、自覚されない。が、風景の中の何物かが決定的に失われたときになにがしかの欠落感に訴えてくる。人と建物と木々が結びえたかつての小世界は、仮想的にもせよそこで自分が生きる風景を生み出そうとする一人の建築家の建築的所作なしにはありえなかった。すると、この建築家の初発の視線は、丁度、人の生きる風景を詩に詠む詩人の視線に重なる。詩歌の捕らえる詩人の身心と風景の結び目（としての場所）は、その風景を自覚的に生きる一人の詩人の詩作なしには存在しない。いずれも、ある風景の中で起こる人生の出来事の自覚的な形象化なのである。逆に言えば、詩歌自体が既にして風景の創造でもある。

詩と建築の初発におけるこの照応はそのまま、本書の第Ⅰ章から３章の主題である。しかし、いわゆる事物的な建築的事柄が扱われる訳ではなく、「人のいる風景」の出来事としての詩作のなかに現われる、既にして建築的な事柄、即ち、人と風景が一元の状態での原型的なトポグラフィーが、良寛や茂吉の詩が詠まれた風景を通して丁寧に探索される。詩の方が、そして詩こそが夾雑物なしに端的に風景を開くものである。著者による詩の読解は、徹頭徹尾建築的である。しかし、そこに著者の奥深い人柄ばかりか、詩という簡潔な発語が開く（日本人のルサンチマンを形成している）世界の豊穣な構築性に読者は改めて驚くことにもなるだろう。詩作は、詩人が生きることに二重化する生きることの自覚の営為であるが、そのことが、すでにして構成的であり、広義の建築的なことである、と言われているところに、本書の主要な方法論上の論点が示されている、と思われる。この「構成的」ということがらが読者には分かりにくいかも知れない。日常の自然的態度においては、人が眼差しているものは、「眼差されているもの」とは意識されておらず、端的にそこに不変に実在すると信憑されているが、この自然的な態度を捨てて、「私が眼差している」ということに関心を向けると、「私」、「もの」と「眼差し」は相関的な項であることが見えてくる。「もの」の意味はこの相関的な出来事の中で構成されていることが見えてくる。勿論、歴史文化的な地平を伴ってである。しかし、この意味が作動するためには、一人の人間がこの「もの」を眼差している場所、という初発の事態が生起していなくてはならない。現象学的な態度（眼差しを二重化させる営為）は、理性的な反省を媒介にこのような意味構成の現場「いま、ここ」を掘り起こしてくるが、そこに止まりながら何事かより直接的に見守り抒べる詩人の風景の構築性を、著者はいわんとしている。最終的には事物的な構成にまで立ち至る建築的なことがらも、この初発の構築性から、事態の「内側から」始まって建ち上げられるものだということ、そして、その初発の事態を捉える特権的方途が詩的発語なのであることを、この建築家は決然と「建築的に」確認しているのである。

詩的な文学ジャンルがあり、技術的な建築ジャンルが別にあり、建築家が余技として詩を読解しているのではない。哲学的な方法を駆使して、解釈しているのでもない。人生の場所の現象の構築的なることを、その初発から辿り直そうとしているのである。しかも、その場は、構造化されて生み出された風景と自覚的存在としての人の自己形象とその自覚の行為さえもが刻印されている、様々な眼差しの交錯する「劇場」なのである。俳優は外的要因なしに感情（表現）を生み出すために、あらゆる感情の「引き出し」を用意しておく訓練をする、という。この比喩に合わせて言えば、建築家は、物的構築なしにでも風景の意味（分節）構造を嗅ぎ分け、身体的な姿勢と風景の構造の感応関係のあらゆる「引き出し」を用意するべく訓練しておかなくてはならないことになる。どのようにであろうか。それには、この本が開く「世界」に是非一度入ってみていただきたい。

（いより　つとむ／京都大学人間・環境学研究科助教授）

BOOK STATION
ブック・ステーション

吉村順三を囲んで

吉村順三
宮脇　檀
六角鬼丈
藤森照信
中村好文

●

TOTO出版
1992.8.10刊
B5変判　155頁　2,400円



本書は、ギャラリー「間」での吉村順三展を記念して企画された、公開座談会をまとめたものである。吉村氏は、出席者の一人である中村好文氏によると「寡黙で、自身の建築論をとうとうと披露するというタイプ」ではないらしい。そこを、立て板に水を流すが如くの宮脇檀氏が司会進行役となり、核心をはぐらかせがちな吉村氏の作品に対しての思い入れや建築論などをあるときは鋭く突き、あるときはユーモアで包んで座談会は進行していく。解説付きの作品スライドや、吉村氏のディテール図面・スケッチも収録されており、宮脇氏の軽快なしゃべりによって吉村順三のすべてが楽しく読める。　(Y.I)

現代・世界の建築家100人

ドローイング＆スケッチ

ビル・レーシー 編
鈴木博之 監訳
吉富久美子 訳

●

同朋舎出版
1992.8.20刊
A4変判　272頁　8,000円



描きなぐってようにみえる1枚のスケッチは実に雄弁である。それぞれのスケッチには、作家のイメージの原点・思考の過程、情熱・主張・苦しみ・悩みにいたる様々な真実が凝縮されており、1本の線、表現の仕方にまでその作家の性格・特徴がにじみでている。この本には20世紀後半を代表し、世界に活躍する100人の建築家が取り上げられ、その代表的な作品のスケッチが紹介されている。それぞれに全く異なる方法でのイメージの表現は、編者の巧みで適切な解説によっていっそう興味深いものとなっている。それぞれを丹念になが め、そこに込められた作家の意図を探るには推理小説の謎解きにも似た楽しさがあるが、一方、読み手はそれらを推し量る力量を問われることにもなり、〝心してこの本に向かねば〟、そんな気にさせる本である。　(I.I)

石と建築

材料と工法

武井吉一・中山　實 著

●

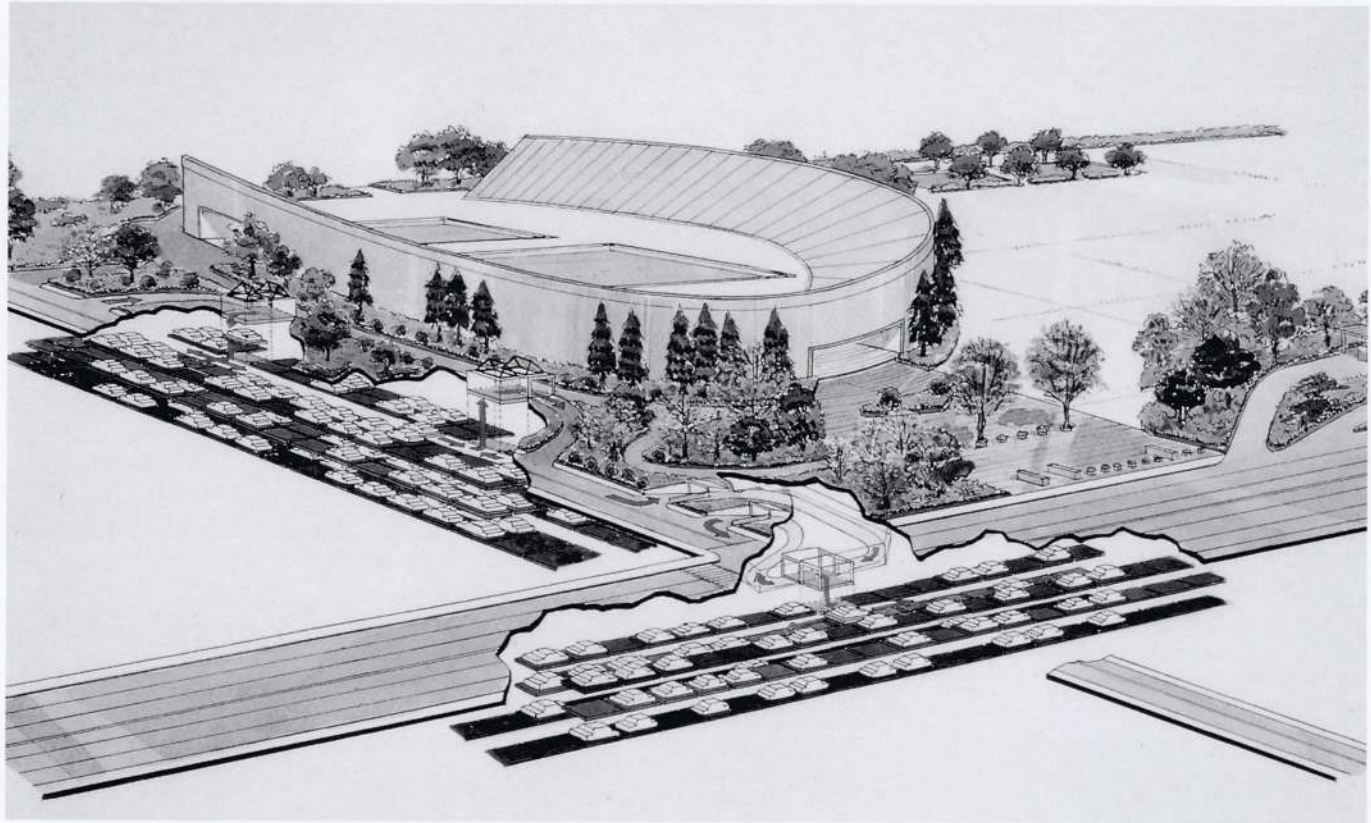
鹿島出版会
1992.10.10刊
B5判　168頁　4,326円



石材は今でも量感や質感をかもしだす高級材料の一つであることには違いないが、きわめて気軽に用いられるポピュラーな材料にもなってきた。しかし一方では、かっては国内にもふんだんにあった石材が年々減ってきて、今ではその多くを輸入に頼ることにもなっている。それほど頻繁に用いられる石であるが、使い手は実際この石のことをどれほど良く知って使っているだろうか。最近の商業建築やインテリア素材において石材が容易に使われ、またその模様替え等で簡単に壊され捨てられているのをみると哀しくなる。石が長い長い時間をかけて造られた地球・生物の貴重な財産と考えるとそう粗末には扱えないと思うのだが。この本をよく読んで石を充分に理解し、活きた使い方をして欲しいものである。　(I.I)

担当：会員企画小委員会／伊藤郁郎・稲木裕子

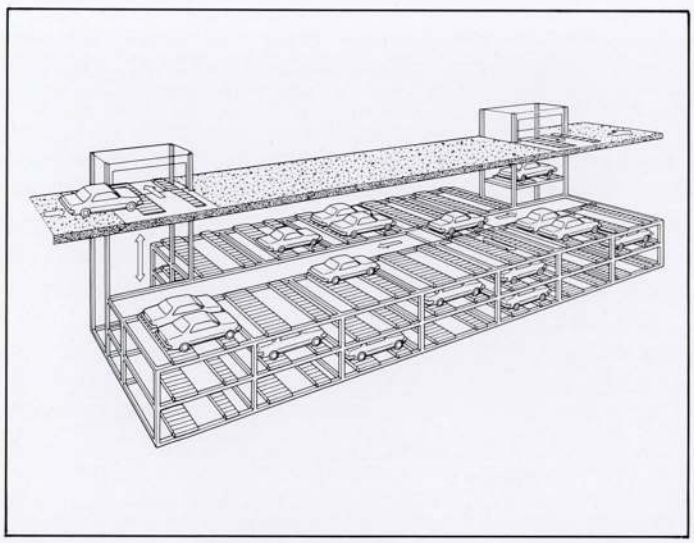
あなたの設計図が、都市を変える。



超高速・超フレキシブル駐車システム

HEX(平面往復方式)

建設大臣認定 第611号



■連続入庫、連続出庫の所要時間は従来機種の3分の1。

HEXは、パレットレスの駐車システムです。
エレベータ、運搬台車、格納スペースへのクルマの移動は全てコンベアで行います。パレットを使用しませんので、運搬台車は軽量化され、移動スピードは300m/minを実現。更に連続入庫、出庫とも1台当たりの所要時間は30秒強と、従来機種の3分の1になりました。

■完全自由設計。

HEXは、4台駐車を基本ユニットとし、3台ユニット、2台ユニットと併せてタテ、ヨコ、上下に組合せて設計する超フレキシブルタイプ。ビル、公園、道路地下など、あらゆる変形の土地にも対応します。1組の出入口で、140台までの駐車がOK。ユニット数を増やすことにより、超大型駐車場が実現します。また台車の位置、数も自由に設定できます。

■人車完全分離により高い安全性を確保。

クルマの乗り降りは駐車装置の外で行うため、人は装置内に一切入る必要がありません。クルマは入口から出口まで完全自動搬送しますので、設備内での排気ガスの心配はありません。したがって、全ての面で安全性に優れています。

日立造船

東京/東京都千代田区一ツ橋1-1-1 〒100 ☎03(3217)8518(ダイヤルイン)
大阪/大阪市此花区西九条5-3-28 〒554 ☎06(466)7557(ダイヤルイン)

新建材紹介コーナー 203

日本建築協会建材委員会

超高速・超フレキシブル駐車システム

HEX（平面往復方式）

日立造船株式会社
大阪 大阪市此花区西九条5-3-28☎554
TEL.(06)466-7557(ダイヤルイン)
東京 東京都千代田区一ツ橋1-1-1〒100
TEL.(03)3217-8518(ダイヤルイン)

①―― はじめに

地価の高騰、建設用地の不足にともない、また交通量の増大に反して駐車場面積の不足は益々深刻になつてきており、収容率、スピード性、安全性など、より優れた駐車場整備が急がれている。

このような状況下で日立造船㈱は、次世代の機械式立体駐車装置として「ハイパークHEX型」(建設大臣認定611号) という新機種を発売している。これは日立造船㈱が、昭和58年より多くの実績をもつエレベータースライド方式(平面往復式)立体駐車装置の技術を基に、より高速化、大規模化を図って開発したものである。

この収容効率と円滑性(車の入・出庫のスピード)に優れたシステムは今後、大型ビル、駅前開発、公園・道路の地下または大規模な地上の駐車場などに対しても非常に有効と考えられ、多様化する時流と社会のニーズにも応えられるものとして注目されている。

②―― システムの特長（図－１参照）

(1)省スペースとフレキシブルな配置

- 車１台当りの必要スペースは、自走式駐車場の1/2以下、走行(移送)台車１レーンに対し、片側ダブル(２台)駐車を採用しているため収容効率が高い。
- １ユニット約100～140台であるが、これを複数自由に配置することにより更に大規模な駐車場にも対応可能。
- スペースの形状に合わせ、幅、長さ、高さ(駐車層数)、入出庫口の配置などバリエーションに富んだ設計が可能であり、用途により上部・中間・下部乗入れのいずれも計画できるため地下式・地上式・半地下式駐車場にも可能。(図－２参照)

(2)スピーディーな入出庫

- 従来のパレット方式に比べ、スラットコンベヤー方式などの採用により１台当たりの平均処理時間を飛躍的に向上させている。

	HEX	パレット式
連続入庫間隔	31～37秒/台	68秒/台
連続出庫間隔	37～40秒/台	78秒/台
連続入出庫間隔	45～62秒/台	123秒/台
	(100～140台収容)	(46台収容)

- 高速化達成の要因

スラットコンベヤー方式(パレット無し)のため空パレットの呼び出し、返納のロスタイムの廃止、各装置のスピードアップ化(垂直搬送リフト90m/分、移送台車300m/分、スラットコンベヤー30～45m/分) また、各機械装置(リフト、移送台車、スラットコンベヤー等) を分離し、同時並行動作を可能にしている。さらに入・出庫ステージをリフトの外部にそれぞれ設け、ドライバーの乗降時間が、リフトの作動時間を妨げない構造となっている。

(3)安全性と利便性

- ゆったりした入・出庫ステージが設けられており、従来のようにリフト室内に直接入る必要がない。また多少の斜め駐車も機械による自動修正が可能。
- 車の動線と、人の動線が完全に分離できるため、接触事故等の心配がない。
- 降車及び乗車場所が集中化できるので、利用者にとって目的地までの歩行距離の短縮と安心感が得られ、防災・防犯の管理も限られた範囲だけでよい。
- 駐車室内はエンジン停止後、機械により自動的に収納されるため、排気ガスによる汚染もなく、室内照明など地下自走式に比べても最小限ですむため、電力の節減がはかれる。

③―― おわりに

従来、利用客の多いデパート、スーパー、公的駐車場などは、事故の心配がない、利用客の待ち時間感覚がない、などの理由で自走式駐車場が独壇場の感すらあった。しかし近年、機械式駐車装置の発展は日進月歩で素晴らしく、上記の問題等にも十分対応できる駐車装置があらわれつつある時代と思われる。最近公的機関でも機械式駐車場採用の動きがあり、防災、防犯、人と車の事故、いたずら、排ガスの問題など機械式駐車場には多くの優れた点があり、今後、基本計画段階において検討・考慮に入れる時代にきていると思われる。

松本 章／建材委員

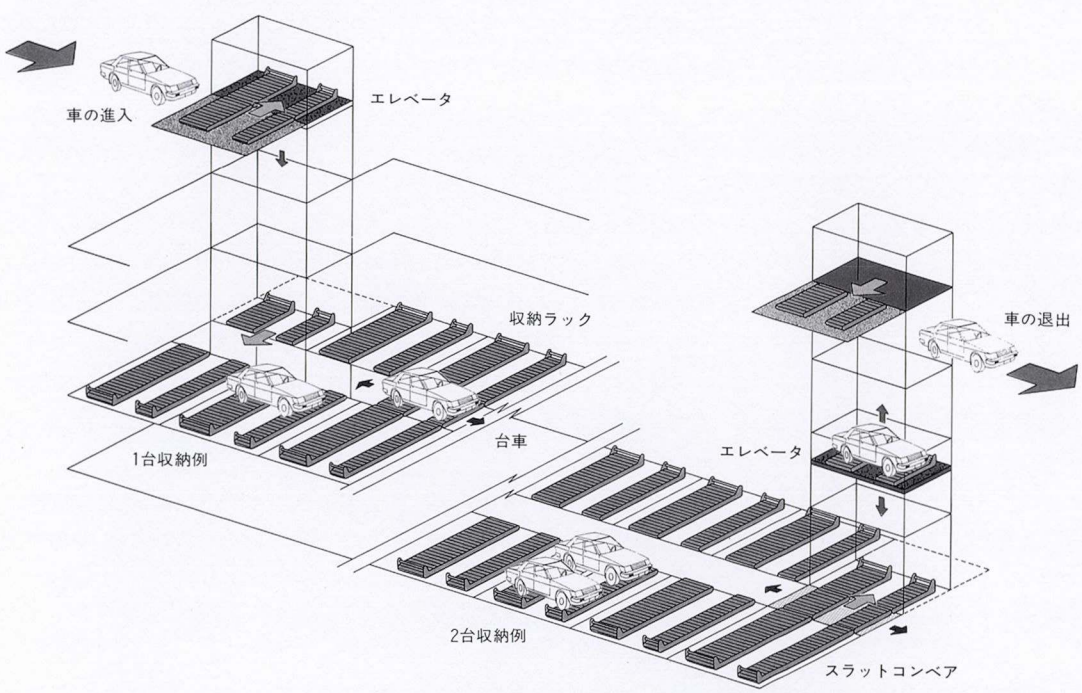


図１　ハイパークHEX型システム概念図



図２　基本ユニットの組合せ例

打放しコンクリートの色・光沢度 ――測定例と今後の課題――

1.はじめに

コンクリート建築物の多くは、美観上や躯体保護のため、塗材、タイル、パネル等の仕上げ材料を施す場合が多い。これらの仕上げ材料の色とテクスチャーは多種多様であり、自由に選択出来る。一方、コンクリート表面が実質的に仕上げ材を兼ねる打放し工法は、その表面に自然な風合いを醸し出し、仕上げ材を使用しないので資源・環境にも優しいという利点をもつ反面、色調の選択幅が狭く、また不均一になり易いという欠点も併せ持つ。

当試験所材料試験室では、既設の打放しコンクリート建築物の色および光沢度を測定をする機会を得たので、その結果について報告するとともに、今後の打放しコンクリートの色・光沢度等の表面性状の評価の課題について述べる。

2.測定対象建物

測定対象建物は、兵庫県西宮市の打放しコンクリート建築物であり、平成３年６月～４年１月にコンクリート打設を行い、平成４年５月に竣工したものである。施工した業者によれば、コンクリートの調合などは一般的なものであったが、打放しということで打設のための検討を充分行い、試験打設をも実施して色調も含めた高い表面精度を得ることに努めた。しかしながら、出来上がったコンクリート表面には、目視で確認できる色、光沢度の違いや、同一部分での色ムラが発生していた。

3.測定方法

測定位置を表１に示す。色については携帯型測色計にてX、Y、Zの三刺激値を測定し、この値を基に色度座標(x、y)およびマンセル値(H／VC)を算出した。また、光沢度については、携帯型光沢度計にて85°光沢度を測定した。なお、各測定位置の測定範囲は約0.1㎡で、この範囲中の測定点数は、それぞれ12点とした。

4.測定結果

①色測定

・視覚により認識された色の違いは測定結果に現れており、測色計により打放しコンクリートの表面色の違いを定量化することは可能であった。

・測定された色相(H値)は、4R～8GYと広範囲であったが、彩度(C値)はすべて３以下であり、無彩色に近いものであった。

(結果一覧を表２に、代表的な測定例を図1-1～図1-4に示す)

②光沢度測定

・視覚により認識された光沢度の違いは測定結果にも現れており、打放しコンクリートの表面光沢度の違いを光沢度計で定量化することは可能であった。

・各測定範囲内での測定値は比較的安定したものであったが、測定位置間でのばらつきは大きく、平均値で2.4%～34.1%の範囲に分布していた。

(結果一覧を表１および図２に示す)

表１　測定位置の概要

測定位置番号	概　　要	目視による特徴
No.1	３階北側内壁	同一壁面における低光沢部分(No.１)と高光沢部分(No.２)
No.2	同　　上	
No.3	２階北側階段ソデ壁	同一そで壁における表面(No.３)と裏面(No.４)
No.4	同　　上	
No.5	２階北側外壁	同一外壁における上部(No.５)と下部(No.６)および下部の屋内面(No.７)
No.6	１階北側外壁	
No.7	同上内壁	
No.8	２階テラス西側外壁	同一壁面における上部(No.８)と下部(No.９)
No.9	同　　上	
No.10	１階講堂西側内壁	同一壁面における屋内面(No.10)と屋外面(No.11)
No.11	１階講堂西側外壁	
No.12	地下１階北側内壁	同一壁面における淡色部(No.12)と濃色部(No.13)
No.13	同　　上	
No.14	地下１階西側内壁	他の部分に比べ色ムラ(濃淡)が著しい部分

5.今後の課題

①材料の影響

一部では着色材(顔料)を用いたカラーコンクリートの利用も行われている。また、コンクリート本来の色（白～黒の無彩色）のコントロールの要望も大きい。今後は使用する材料（セメント、骨材、混和材、型枠等）による色やテクスチャーの違いを定量化する研究も必要である。

②施工の影響

特に色ムラに関しては、バイブレーターの掛け具合や打ち込み方法等の影響が大きいとされる。この問題は打設に追われる現場では、特に標準化が難しいと思われる。なるべく施工の要因が表面色に反映されない工法（もしくは材料）を開発する必要がある。

③経時変化

一般的にコンクリートは、打設後の経過時間とともに白くなるといわれ、色のコントロールにおいては含水率との関係や、どの時期

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391 FAX.06-872-0784
業務時間 9:00～17:15(土曜休業)

表2 色および光沢度測定結果一覧(平均値)

測定位置番号	X	Y	Z	x	y	H	V	C	85°光沢度
No.1	38.7	39.6	40.7	0.325	0.333	3.6Y	6.8	0.9	2.4
No.2	36.3	37.2	38.7	0.324	0.331	4.4Y	6.6	0.9	10.8
No.3	39.8	40.7	42.8	0.323	0.330	3.5Y	6.8	0.8	22.5
No.4	38.8	39.6	40.7	0.326	0.333	2.7Y	6.8	1.0	17.0
No.5	25.0	26.0	25.9	0.325	0.338	9.8Y	5.6	1.1	13.9
No.6	33.9	34.9	33.3	0.332	0.342	4.8Y	6.4	1.3	5.5
No.7	41.2	42.1	43.1	0.326	0.333	3.1Y	6.9	1.0	5.3
No.8	25.1	25.9	24.6	0.332	0.343	5.6Y	5.6	1.2	19.3
No.9	33.8	34.7	35.2	0.326	0.335	4.9Y	6.4	1.0	19.8
No.10	39.1	40.1	41.4	0.324	0.333	4.5Y	6.8	0.9	34.1
No.11	33.6	34.5	33.6	0.331	0.339	4.3Y	6.4	1.2	17.1
No.12	39.0	40.1	42.3	0.321	0.331	6.2Y	6.8	0.9	13.6
No.13	20.7	21.2	21.4	0.329	0.335	4.4Y	5.1	1.1	24.4
No.14	27.8	27.8	28.3	0.333	0.332	8.2YR	5.8	1.5	14.7

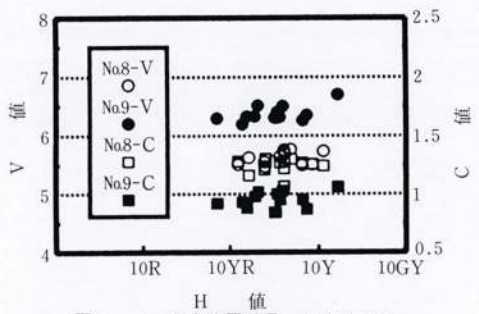


図1－1 測定位置番号－8および9

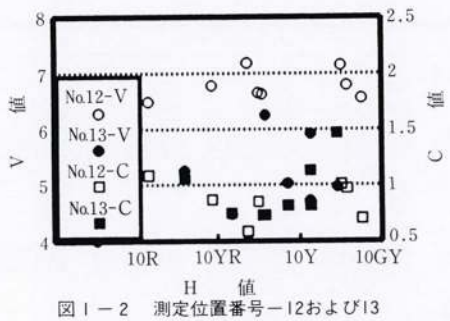


図1－2 測定位置番号－12および13

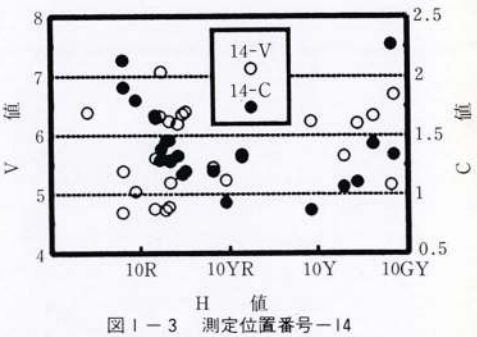


図1－3 測定位置番号－14

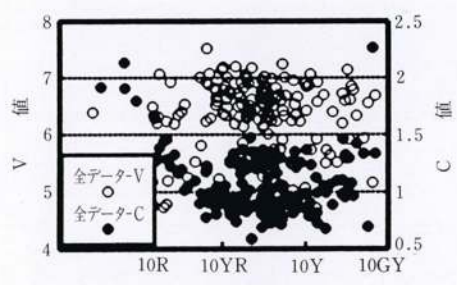


図1－4 全測定点

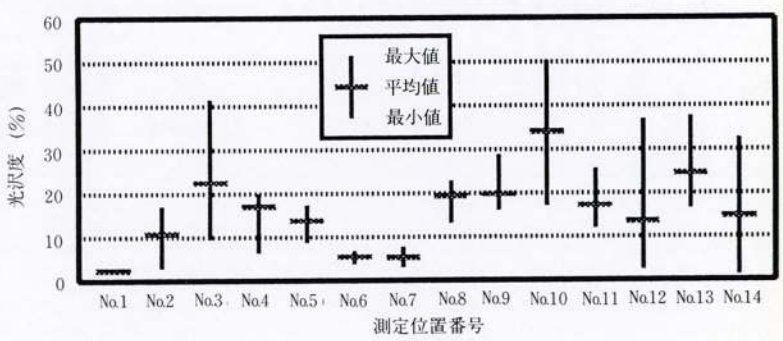


図2 光沢度測定結果一覧

に色の基準を置き以降の色変化（汚れなどを含む）を推定するかということも重要な課題である。

④測定手法

色および光沢度の測定は、今回実施した方法と同様「スポット測定」が一般的である。しかし、この方法は広範囲測定を行うには不向きであり、今後は近年いくつかの報告がある「画像処理」を利用した測定が適していると思われる。また、色以外の特性（光沢度、表面粗さ、含水率等）についても、合理的な測定手法の開発が必要であろう。

⑤評価手法

機器による測定値を人の感覚と結び付けるため、感覚的な尺度を設け、これにより許容値の設定等を行うことが、評価上有効であろう。

（材料試験室 河津 龍大）

INAX



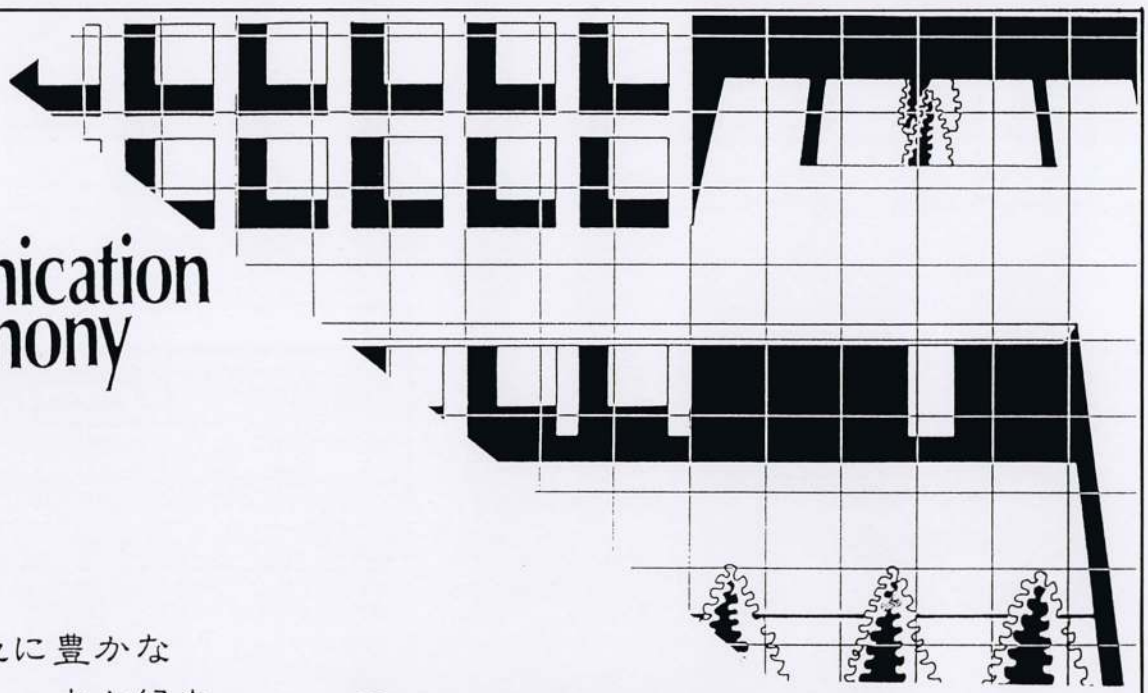
パシフィコ横浜に選ばれたタイル。

会議センター、ホテル、展示場がひとつになった世界最大級のコンベンション施設「パシフィコ横浜」。純白に統一されたタイルが、大海原を走るヨットの帆をイメージさせます。新しい時代を表現する新しいビル外装。INAXは、体温のある街づくりをコンセプトに、つねに高品質のタイルを生みだしています。人と街の調和を考えたヒューマン・アメニティ。それがINAXのテーマです。

やっぱり、タイルはINAX。

株式会社INAX 名古屋支店 〒460 名古屋市中区錦一丁目16番20号 グリーンビルディング ☎052-201-1717
岐阜営業所 〒500 岐阜県岐阜市薮田1丁目100番地 第2岐阜県ビル ☎0582-76-1717 三重営業所 〒514 三重県津市栄町1丁目202番地 大同生命・瀧澤ビル ☎0592-26-1737
名古屋営業所 〒461 名古屋市東区東桜1丁目4番16号 ☎052-971-1731 三河営業所 〒444 愛知県岡崎市康生通南3丁目5番地 住友生命岡崎第2ビル ☎0564-24-3613
名古屋ショールーム 〒460 名古屋市中区錦一丁目16番20号 グリーンビルディング ☎052-201-1715 営業時間:A.M.10:00～P.M.6:00 休館日:年末年始・夏休み 5月第三日曜日
岐阜ショールーム 〒500 岐阜県岐阜市薮田1丁目100番地第2岐阜県ビル ☎0582-76-1711 営業時間:A.M.10:00～P.M.6:00 休館日:年末年始・夏休み
津ショールーム 〒514 三重県津市栄町1丁目202番地大同生命瀧澤ビル ☎0592-26-1715 営業時間:A.M.10:00～P.M.6:00 休館日:年末年始・夏休み

C&H Communication & Harmony



6th taikei

大地に豊かな
水と緑を～
環境造って40年

太啓建設株式会社

本　　社　愛知県豊田市東梅坪町10丁目3番地3
TEL(0565)31-1271 FAX34-2523 〒471

名古屋支店　愛知県名古屋市北区古径町4番地
TEL(052)991-5186 FAX916-2480 〒462

法令コーナー

編集委員会法令分科会

277 確認申請のOA化に対応した規則改正

建築確認のOA化に関する開発は平成元年度から始まり、足掛け4カ年が経過した。この1月26日付けで公布され、2月15日施行の建築基準法施行規則の改正をもって、その制度的対応がなされた。

今回は、この制度の内容、さらに、4月1日からフロッピィディスク申請を受け付ける体制を整えた大阪府と府下の特定行政庁の対応について、「フロッピィディスクによる申請」と「用紙による申請」の、パンフレットによる紹介をする。

建築基準法規則改正の内容

今回の改正規則の内容について、その概要等を箇条書に分けると、次のようになる。

① 一般によく使われているフロッピィディスク(以下「FD」という)を申請FDとして使えるようにしたこと(2HD、5インチ・3.5インチ)、および、そのFDへの申請データの記録方式が様式として規定されたこと(MS-DOS形式で記録されたアスキーファイル)である。

② 現規則では、B5サイズを基本とした12号までの用紙の様式規定であったが、改正規則では、FDの様式規定として13号様式から26号様式までが追加された。これによりFDのデータフォーマットが定められた。

③ FDの様式と用紙の様式とを申請項目単位で完全対応させることにより、用紙とFDとの相互の互換性をもたせ、どちらで申請してもよいように改正された。

④ 確認申請書は、そのカテゴリーの違い(人

「フロッピィディスクによる申請」パンフレット

確認申請の手続きが変わります

建築基準法施行規則の改正により、確認申請書の一部をフロッピィディスクで申請することとなります

フロッピィディスクによる申請は、大阪府所管区域は平成5年4月1日から実施する予定です。また、府下特定行政庁の区域は同年10月1日から、大阪市の区域は平成6年度から実施する予定です。

1 申請方法

(1) 確認申請書(建築物)の場合の申請図書の標準的な組合せは次のようになります。

正本 ① 処理申込カード(大阪府の場合)
② 確認申請書(建築物)(第1面をプリントアウトした用紙に押印したもの)及び(第2～5面をプリントアウトした用紙)
③ 法第12条第3項報告事項指示内容控え他
④ 委任状
⑤ 法第5条の2の規定による工事監理者選定届
⑥ その他必要な書類(許認可等の写)
⑦ 付近見取図(A4サイズとしたもの)
⑧ 建築工事届(第1面をプリントアウトした用紙に押印したもの)
⑨ 建築計画概要書(A3二つ折りサイズ1枚ミシン目付で1～2面……大阪市を除く)
⑩ 図面等及び構造計算書

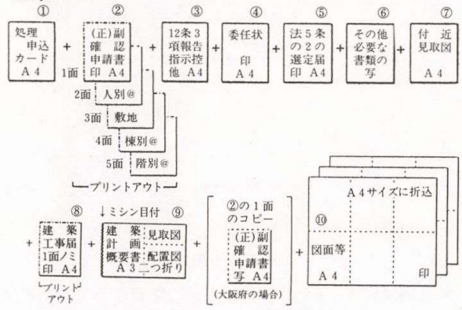
副本 ① 確認申請書(建築物)……すべて正本②のコピーでよい(印も写でよい)
② 法第12条第3項報告事項指示書他
③ 委任状……正本のコピーでよい
④ 法第5条の2の規定による工事監理者選定届……正本のコピーでよい
⑤ その他必要な書類(許認可等の写)……正本のコピーでよい
⑥ 付近見取図(A4サイズとしたもの)……正本のコピーでよい
⑦ 図面等及び構造計算書……正本のコピーでよい
⑧ フロッピィディスク(以下「FD」という)(紙ケースまたはプラスチックケースにいれたもの1枚でよい)

注1 申請に使用する用紙の内、処理申込カード(大阪府の場合)及び建築計画概要書は、色・紙質、裏面印刷部分、ミシン目等があり専用用紙となりますので、原則として、販売しているものに限ります。
注2 その他必要な書類は従来通りとします。
注3 図面等は、原則として、A4サイズの折込となります。

(2) FD申請を行うために必要な機器等
①パーソナルコンピューターが必要です。
ア.本体:16ビット、または、32ビットのパーソナルコンピューター(実装メモリー640キロバイト以上)で使用できます。(詳しくは各メーカーにお問い合わせ下さい。)
イ.周辺機器:プリンター(PCPR201モード)
マウス
ハードディスク(2メガバイト以上のあきが必要です。)
ハンディスキャナー(付近見取図読み取り用です。)
ウ・OS:MS-DOS、Ver3.1以上
エ.申請用FD:5インチ、3.5インチの2HD、または、2HCのものであればどれでも使用できます。
②「申請書作成プログラム」が必要です。
このソフトは平成5年4月から㈱大阪建築士事務所協会及び㈱大阪府建築士会より販売される予定です。

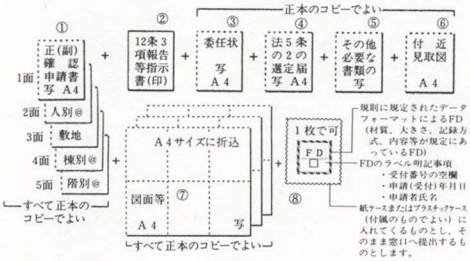
2 FD申請の場合の図書の組合せ
【確認申請書(建築物)の場合】

正本



注1：確認申請書の第2面(建築主等が複数の場合)、第4面(棟数が複数の場合等)及び第5面(階数が3以上の場合等)は、必要に応じて枚数が増えます。
注2：大阪府の場合、正本は確認後、確認申請書等〔上図の①～⑨〕と図面等〔上図の①～⑨以外〕とを分離して保管しますので、それぞれ別々に製本し、かつ、ヒモ等で一体化して下さい。また、図面等の表紙として確認申請書〔正本②の1面〕のコピーをつけて下さい。なお、図面等には、構造計算書、土地境界に関する明示の指令書や図面、住宅金融公庫関係の図面等が含まれます。

副本



注3：○の数字は綴じる順序を示します。

3 その他の運用
当分の間、次のとおり運用します。

(1) 確認申請書について(規則第11条の3第1項の表は欄別記第13号様式)
正本及び副本には確認申請書第2面から第5面までのコピーを添付するものとします。
(2) FDの枚数について(規則第11条の3)
添付に必要なFDは1枚とします。
(3) 配置図について(規則第11条の3第1項の表は欄別記14号様式)
配置図データを入力していないFDでもよいものとします。(できるだけデータ入力を行うようご協力をお願いします。)
(4) 付近見取図について(規則第11条の3第2項)
付近見取図データを入力していないFDでもよいものとします。(できるだけデータ入力を行うようご協力をお願いします。)
(5) 建築計画概要書について(規則第1条第1項別記第1号の2様式、同第11条の3第1項の表は欄別記第13、14号様式)
専用用紙の添付を要するものとします。この場合の第1面(文字部分)及び第2面(付近見取図及び配置図)は、コピーしたものを貼り付けてよいものとします。配置図については寸法を明記するものとします。
(6) 添付図書である配置図について(規則第1条第1項の表い欄)
添付を要するものとします。
配置図には、明示すべき事項が従来に加えて「土地の高低」及び「建築物の各部分の高さ」が追加されていますので、次の基準で記入するものとします。ただし、その他の図面等に記入されている場合はこの限りではありません。
①「土地の高低」とは、地盤面から道路の路面の中心までの高さをいいます。また、道路が2以上ある場合は各道路毎の高さをいいます。
②「建築物の各部分」とは、高低差が生じる位置をいいます。
③「各部分の高さ」とは地盤面からの高さをいいます。
④「地盤面」とは建築基準法施行令第2条第1項第6号に規定するものをいいます。
(7) FDラベルについて(規則第11条の6)
ラベルには、上から順に、受付番号の記入欄(番号は受付時に記入)、受付年月日及び申請者氏名を記入するものとします。



3.5インチ



5インチ

「FD申請」にご協力をお願いします。

「用紙による申請」パンフレット

確認申請書の様式が変わります

建築基準法施行規則の改正により、確認申請書の様式及びサイズが、**平成5年2月15日から**、変わります。

1　変更の概要

(1) 従来の確認申請書、確認通知書、建築計画概要書、建築工事届等、確認申請に関する用紙はすべてB5サイズでしたが、新様式ではすべてA4サイズになります。
(2) 確認申請書は従来1枚でしたが、新様式では1セット5枚になります。
(3) その他、次に掲げる申請書等の様式とサイズもすべて新しくなります。
・確認申請書(昇降機、工作物、準用工作物等)、工事完了届、仮使用承認申請書等
(4) 「処理申込カード」の添付が必要となります。この裏面に関係機関意見欄があります。(大阪府の場合)
(5) 処理申込カード、建築計画概要書及び建築工事届は専用用紙となります。
(6) 用紙は従来ルートで販売しております。

2　申請方法

確認申請書(建築物)の場合の申請図書の標準的な組合せは次のようになります。

正本
(1)処理申込カード(大阪府の場合)
(2)確認申請書(建築物)(A4サイズ5枚1セットで1～5面)
(3)第12条第3項報告事項指示内容控え他
(4)委任状
(5)法第5条の2の規定による工事監理者選定届
(6)その他必要な書類(許認可等の写)
(7)付近見取図
(8)建築工事届(A4サイズ1枚ミシン目付で1～4面)
(9)建築計画概要書(A3二つ折りサイズ1枚ミシン目付で1～2面……大阪市を除く)
(10)図面等及び構造計算書

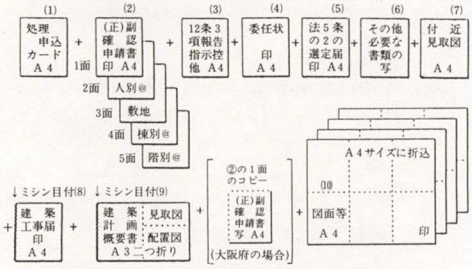
副本
(1)確認通知書 ※注2
(2)確認申請書(建築物)……すべて正本のコピーでよい(印も写でもよい)
(3)法第12条第3項報告事項指示書他
(4)委任状……正本のコピーでよい
(5)法第5条の2の規定による工事監理者選定届……正本のコピーでよい
(6)その他必要な書類(許認可等の写)……正本のコピーでよい
(7)付近見取図(A4サイズ)……正本のコピーでよい
(8)図面等及び構造計算書……正本のコピーでよい

注1　申請に使用する用紙の内、処理申込カード(大阪府の場合)、建築計画概要書及び建築工事届は、色・紙質、裏面印刷部分、ミシン目等があり専用用紙となりますので、原則として、販売しているものに限ります。
※注2　副本の(1)確認通知書は、当分の間、添付が必要です。
注3　その他必要な書類は従来通りとします。ただしA4サイズとします。
注4　図面等は、原則として、Aサイズの折込となります。

3　用紙申請の場合の図書の組合せ

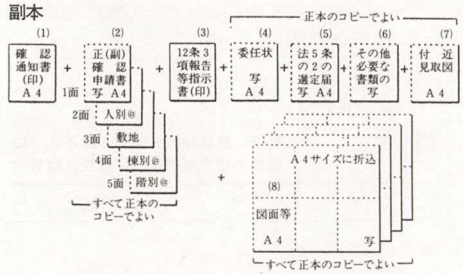
【確認申請書(建築物)の場合】

正本



注1　確認申請書の第2面(建築主等が複数の場合)、第4面(棟数が複数の場合等)及び第5面(階数が3以上の場合等)は、必要に応じて枚数が増えます。
注2　大阪府の場合、正本は確認後、確認申請書等〔上図(1)～(9)〕と図面等〔上図(1)～(9)以外〕を分離して保管しますので、それぞれ別々に製本し、かつ、ヒモ等で一体化して下さい。また、図面等の表紙として確認申請書〔正本(2)の1面〕のコピーをつけて下さい。なお、図面等には構造計算書、土地境界に関する明示指令書と図面、住宅金融公庫関係の図面等が含まれます。

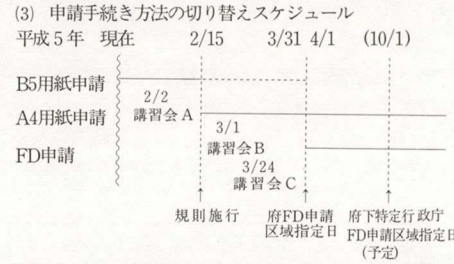
副本



注：(　)の数字は綴じる順序を示します。

4　その他の運用

(1) 建築計画概要書について(規則第1条第1項　別記第1号の2様式)
専用用紙となります。この場合の配置図と付近見取図は、コピーを貼り付けてもよいものとします。
(2) 添付図書である配置図について(規則第1条第1項の表い欄)
配置図には、明記すべき事項が従来に加えて「土地の高低」及び「建築物の各部分の高さ」が追加されていますので、次の基準で記入するものとします。ただし、その図面等に記入されている場合はこの限りではありません。
①「土地の高低」とは、地盤面から道路の路面の中心までの高さをいいます。また、道路が2以上ある場合は各道路毎の高さをいいます。
②「建築物の各部分」とは、高低差が生じる位置をいいます。
③「各部分の高さ」とは地盤面からの高さをいいます。
④「地盤面」とは建築基準法施行令第2条第1項第6号に規定するものをいいます。
(3) 申請手続き方法の切り替えスケジュール



講習会A……規則改正内容及びその運用についての講習会
講習会B……FD申請の方法及びその運用についての第1回講習会
講習会C……FD申請の方法及びその運用についての第2回講習会
注:「FD申請」とは申請書の一部をフロッピィディスクに替えて申請することをいいます。

FD申請は別のパンフレットをご覧下さい

お願い
「用紙申請」の場合は受付窓口が混雑することが予想されますので、「FD申請」していただきますようご協力をお願いします

別、敷地、棟別、階別)により分類され、さらに申請項目も再検討された。

⑤ 以上により、従来からある12号までの用紙の様式は、結果的には枚数が増え、申請内容も一部の項目が追加され、併せて、用紙もA4サイズに変更となった。

⑥ 今回の改正の対象となった申請書の様式は、建築基準法に規定されている**申請書関係すべて**である。

その種類を挙げると次のとおりである。

■確認申請
・建築物の建築確認(1条1項)……1号様式、1号の2様式……
・建築設備を含む建築確認(1条4項)……1号様式、1号の2様式、2号様式のうちの昇降機以外の建築設備、または昇降機の概要欄……
・建築設備の建築確認(1条5項)……2号様式昇降機用……
・建築設備の建築確認(1条5項)……2号様式昇降機以外の建築設備……
・法88条1項工作物の建築確認(昇降機以外の建築設備)(3条1項)……5号様式……
・法88条1項工作物の建築確認(昇降機)(3条1項)……2号様式昇降機用……
・法88条2項工作物の建築確認(製造施設等)(3条2項)……5号の2、5号の3様式……
・工作物を含む建築物の建築確認(3条3項)……1号様式、2号のうちの昇降機以外の建築設備または昇降機の概要欄、および5号様式のうちの概要欄……

■確認通知等
・確認通知書(2条1項)……3号様式……
・適合しない旨の通知書(2条2項)……3号の2様式……
・期限内に確認できない旨の通知書(2条3項)……4号様式……
(以上の通知は準用規定による工作物の場合も同様となる)

■工事完了届(4条)……6号様式……
(以上の通知は準用規定による工作物の場合も同様となる)

■検査済証(4条)……7号様式……
(以上の通知は準用規定による工作物の場合も同様となる)

■仮使用承認申請(特定行政庁用)(4条の3の1項)……7号の2様式……
■仮使用承認申請(建築主事用)(4条の3の3項)……7号の3様式……
■仮使用承認通知(4条の3の3項)……7号の4様式……
■建築工事届(8条1項)……9号様式……
■建築物除却届(8条1項)……10号様式……

従来の各種届出である建築主名義変更、施工者届、敷地の形状変更等、各特定行政庁の細則で定められた様式は、現段階ではFDに替えて申請することができるようにはなっていないが、用紙のサイズはB5からA4サイズとなるので、注意を要する。

⑦ FD申請可能区域を特定行政庁が指定する。

大阪府の所管区域全域は4月1日に、府下特定行政庁のそれぞれの区域は10月1日に、また、大阪市の区域は平成6年度にそれぞれ指定する予定である。

⑧ 上記⑦の区域内では、申請書の一部をFDに替えて申請することができる。

この規定によると、「用紙による申請」も「FDによる申請」も申請項目の相互に互換性をもたせたことから、どちらでも申請することができることになっているが、これはある一定規模以下の建築

物であればだれでもが申請可能なようにという法的な面がベースとなっているからである。

したがって、確認業務に関する事務処理の合理化のためにも、**申請者側のハード整備に要する一定の期間の後は、速やかに「FD申請」に移行していくよう指導する予定である。**

⑨ 様式そのものの特徴

今までの申請様式に比べて、一つの申請単位で捉えると枚数は多くなった。これは、はんこを必要とする申請項目だけを第１面の様式として集約したこと(結果的には、従来に比べてみると、建築計画概要書の建築主印と副本の設計者印が省略されたこととなり、はんこの面では合理化がなされている)、および、原則として、１行に１申請項目という形に整理されていること等の理由からであり、いわゆるコンピューターによるプリントアウトしやすい形の様式となっているからである。したがって、手書きには少し馴染みにくい様式であると思われる。しかし、「申請書作成プログラム」を使うことによりプリントアウトしたものでも様式に合致しているので、「FD申請可能区域」を指定していない場合でも「用紙による申請」も可能となる。ただし、大阪府の場合は一部指定用紙となっているので注意を要する。

「フロッピィディスクによる申請」

「フロッピィディスクによる申請」のパンフレットに、その内容を示す。

「用紙による申請」

「用紙による申請」のパンフレットに、その内容を示す。

改正規則の一部

建築基準法施行規則の一部を改正する条文の一部を掲載する。

なお、規則改正に伴う記入例は、４月号のこのコーナーで掲載する。

＊

以上のような内容で、建築確認のOA化の第一歩を踏み出すので、設計者の皆さまには積極的に「フロッピィディスクによる申請」を行っていただくようご理解と協力をお願いする。

岩 田 純 一
大阪府建築部建築指導課審査第二係長

建築基準法施行規則の一部を改正する省令条文(抄)

(条文中のゴチック部分は改正部分)

(確認申請書の様式)

第一条　建築基準法(以下「法」という。)第六条第一項(法第八十七条第一項において準用する場合を含む。第四項において同じ。)の規定による確認の申請書は、別記第一号様式による正本及び副本に、それぞれ、法第六条第一項第四号に掲げる建築物については次の表の(い)項に掲げる図書を、同項第一号に掲げる建築物については(い)項及び(ろ)項に掲げる図書を、同項第二号及び第三号に掲げる建築物については(い)項、(ろ)項及び(は)項に掲げる図書(用途変更の場合においては(は)項に掲げる図書を、建設大臣があらかじめ安全であると認めた構造の建築物又はその部分に係る場合においては(は)項に掲げる図書のうち建設大臣の指定したものを除く。)を添えたもの並びに別記第一号の二様式による建築計画概要書とし、これらの図書のほか、さらに、法第三十五条の二の規定により内装の制限を受ける建築物又は内装の制限を受ける調理室等を有する建築物については(に)項に掲げる図書を、法第五十二条第三項の規定の適用により、その延べ面積の敷地面積に対する割合が同項の規定の適用がないとした場合における同条第一項及び第二項の規定による限度を超えるものである建築物については用途変更の場合を除き(ほ)項に掲げる図書を、法第五十六条の二第一項の規定により日影による高さの制限を受ける建築物については用途変更の場合を除き(へ)項に掲げる図書を添えたものとする。ただし、(い)項、(ほ)項又は(へ)項に掲げる図書は併せて作成することができる。

図書の種類		明示すべき事項
(い)	付近見取図	略
	配置図	縮尺、方位、敷地の境界線、敷地内における建築物の位置、申請に係る建築物と他の建築物との別、擁壁、井戸及び**し尿浄化槽の位置、土地の高低、建築物の各部分の高さ**並びに敷地の接する道路の位置及び幅員
	略	略
	し尿浄化槽の見取図	**し尿浄化槽の形状**、構造及び大きさ
(ろ)～(へ)	略	**略**

２～９　略

(確認通知書の様式)

第二条　法第六条第三項(法第八十七条第一項又は法第八十七条の二第一項において準用する場合を含む。)の規定による確認の**通知**は、**別記第三号様式による通知書に第一条の申請書の副本を添えて行う**ものとする。

２　法第六条第四項(法第八十七条第一項又は法第八十七条の二第一項において準用する場合を含む。**次項**において同様とする。)の規定による適合しないことを認めた旨の通知は、**別記第三号の二様式**による通知書に**第一条**の申請書の副本及びその添付図書を添えて行うものとする。

３　略

(仮使用の承認の申請等)

第四条の三　略

2･3　略

４　特定行政庁又は建築主事は、法第七条の三第一項第一号の規定による仮使用の承認をしたときは、**別記第七号の四様式又は第七号の五様式による仮使用承認通知書に第一項又は前項の仮使用承認申請書の副本を添えて**、申請者に通知するものとする。

(フレキシブルディスクによる手続)

第十一条の三　特定行政庁が指定した区域内においては、次の表の(い)欄に掲げる申請書、届出書又は届出については、(ろ)欄に掲げる書類又は図書に代えて、(は)欄に掲げる様式により当該書類又は図書に明示すべき事項を記録したフレキシブルディスクによることができる。

(い)	(ろ)	(は)
第一条第一項の申請書	別記第一号様式の第二面から第五面までによる書類	別記第十三号様式
	第一条第一項の表の(い)項に掲げる図書のうち配置図及び別記第一号の二様式による建築計画概要書の第二面による書類のうち配置図	別記第十四号様式
	別記第一号の二様式による建築計画概要書の第一面による書類	別記第十五号様式
第一条第四項の申請書	別記第一号様式の第二面から第五面までによる書類及び別記第二号様式中の「昇降機の概要の欄」又は「建築設備の概要の欄」に記載すべき事項を記載した書類	別記第十三号様式
	第一条第一項の表の(い)項に掲げる図書のうち配置図及び別記第一号の二様式による建築計画概要書の第二面による書類のうち配置図	別記第十四号様式
	別記第一号の二様式による建築計画概要書の第一面による書類	別記第十五号様式
第一条第五項の申請書	別記第二号様式の第二面による書類	別記第十六号様式
第三条第一項の申請書(令第百三十八条第二項第一号に掲げるものを除く。)	別記第五号様式の第二面による書類	別記第十七号様式
第三条第一項の申請書(令第百三十八条第二項第一号に掲げるものに限る。)	別記第二号様式(昇降機用)の第二面による書類	別記第十六号様式(昇降機用)
第三条第二項の申請書	別記第五号の二様式の第二面による書類	別記第十八号様式
	第三条第二項に掲げる図書のうち配置図及び別記第五号の三様式による築造計画概要書の第二面による書類のうち配置図	別記第十九号様式
	別記第五号の三様式による築造計画の概要書の第一面による書類	別記第二十号様式
第三条第三項の申請書	別記第一号様式の第二面から第五面までによる書類、別記第二号様式中の「昇降機の概要の欄」又は「建築設備の概要の欄」に記載すべき事項を記載した書類及び別記第五号様式中の「工作物の概要の欄」又は別記第二号様式(昇降機用)中の「昇降機の概要の欄」に記載すべき事項を記載した書類	別記第十三号様式
	第一条第一項の表の(い)項に掲げる図書のうち配置図及び別記第一号の二様式による建築計画概要書の第二面による書類のうち配置図	別記第十四号様式
	別記第一号の二様式による建築計画概要書の第一面による書類	別記第十五号様式
第四条の届出書	別記第六号様式の第二面及び第三面による書類	別記第二十一号様式
第四条の三第一項の仮使用承認申請書	別記第七号の二様式による仮使用承認申請書の第二面による書類	別記第二十二号様式

第四条の三第三項の仮使用承認申請書	別記第七号の三様式による仮使用承認申請書の第二面による書類	別記第二十三号様式
第八条第一項の建築物を建築しようとする旨の届出	別記第九号様式の第二面及び第三面による書類	別記第二十四号様式
第八条第一項の建築物を除却しようとする旨の届出	別記第十号様式の第二面による書類	別記第二十五号様式
第八条第二項の建築物を建築しようとする旨の届出及び建築物を除却しようとする旨の届出	別記第九号様式の第二面から第四面までによる書類	別記第二十四号様式
第十一条の二第一項の届出	別記第十二号様式の第二面による書類	別記第二十六号様式

2　前項の区域内においては、第一条第一項若しくは第四項又は第三条第二項若しくは第三項の申請書については、次の各号に掲げる付近見取図に代えて、当該図書に明示すべき事項を記録したフレキシブルディスクによることができる。

一　第一条第一項の表の(い)項に掲げる図書のうち付近見取図又は別記第一号の二様式による建築計画概要書の第二面による書類のうち付近見取図

二　第三条第二項の表に掲げる図書のうち付近見取図又は別記第五号の三様式による築造計画概要書の第二面による書類のうち付近見取図

（フレキシブルディスクの構造等）

第十一条の四　前条第一項及び第二項のフレキシブルディスクは、次の各号の一に該当するものでなければならない。

一　工業標準化法（昭和二十四年法律第百八十五号）に基づく日本工業規格（以下「日本工業規格」という。）X六二一一号（昭和六十一年）に適合する百三十ミリメートルフレキシブルディスクカートリッジ（両面に磁束反転密度一ラジアン当たり一万三千二百六十二磁束反転で記録するものに限る。）

二　日本工業規格X六二二三号（昭和六十二年）に適合する九十ミリメートルフレキシブルディスクカートリッジ

（フレキシブルディスクへの記録方式）

第十一条の五　第十一条の三第一項のフレキシブルディスクへの記録は、建設大臣が定めるところにより、次の各号に掲げる方式に従ってしなければならない。

一　トラックフォーマットについては、前条第一号のフレキシブルディスクに記録する場合にあっては日本工業規格X六二一三号（昭和六十一年）に、同条第二号のフレキシブルディスクに記録する場合にあっては日本工業規格X六二二四号（昭和六十三年）又は日本工業規格X六二二五号（平成二年）に規定する方式（建設大臣が定めるものを除く。）

二　ボリューム及びファイル構成については、日本工業規格X〇六〇五号（平成二年）に規定する方式

2　第十一条の三第二項のフレキシブルディスクへの記録は、建設大臣が定めるところにより、日本工業規格X四〇〇四号（平成元年）に規定する方式に従ってしなければならない。

（フレキシブルディスクのラベル）

第十一条の六　第十一条の三第一項及び第二項のフレキシブルディスクには、日本工業規格X六二一一号（昭和六十一年）又は日本工業規格X六二二三号（昭和六十二年）に規定するラベル領域に、次に掲げる事項を記載した書面をはり付けなければならない。

一　申請者の氏名

二　申請年月日

（図書の閲覧等）

第十一条の七　法第九十三条の二の規定により建設省令で定める図書は、別記第一号の二様式による建築計画概要書又は第十一条の三第一項若しくは第二項のフレキシブルディスクに記録されている当該建築計画概要書に明示すべき事項（当該フレキシブルディスクに記録されている事項が特定行政庁の使用に係る電子計算機に記録されている場合にあっては、当該電子計算機に記録されている事項のうち当該建築計画概要書に明示すべき事項を含む。）を記載した書類（当該建築計画概要書に明示すべき事項のうち一部の事項が当該フレキシブルディスク又は特定行政庁の使用に係る電子計算機に記録されている場合にあっては、当該書類及び当該一部の事項以外の事項を記載した建築計画概要書）とする。

2　法第八十八条第二項において準用する法第九十三条の二の規定により建設省令で定める図書は、別記第五号の三様式による築造計画概要書又は第十一条の三第一項若しくは第二項のフレキシブルディスクに記録されている当該築造計画概要書に明示すべき事項（当該フレキシブルディスクに記録されている事項が特定行政庁の使用に係る電子計算機に記録されている場合にあっては、当該電子計算機に記録されている事項のうち当該築造計画概要書に明示すべき事項を含む。）を記載した書類（当該築造計画概要書に明示すべき事項のうち一部の事項が当該フレキシブルディスク又は特定行政庁の使用に係る電子計算機に記録されている場合にあっては、当該書類及び当該一部の事項以外の事項を記載した築造計画概要書）とする。

3　略

第十三号様式（第十一条の三関係）

```
/*建築主等の概要*/
                #11000
/* 1.建築主 */
                #11010,;
                "[氏名のフリガナ]",;
                "[氏名]",;
                "[郵便番号]",;
                "[住所]",;
                "[電話番号]"
/* 2.代理者 */
                #11020,;
                "[一級建築士、二級建築士又は木造建築士の別を示す記号]",;
                "[建築士の登録を受けた機関を示す記号]",;
                "[建築士の登録番号]",;
                "[氏名]",;
                "[一級建築士事務所、二級建築士事務所又は木造建築士事務所の別を示す記号]",;
                "[建築士事務所の登録を受けた機関を示す記号]",;
                "[建築士事務所の登録番号]",;
                "[建築士事務所名]",;
                "[郵便番号]",;
                "[所在地]",;
                "[電話番号]"
/* 3.設計者 */
                #11030,;
                "[一級建築士、二級建築士又は木造建築士の別を示す記号]",;
                "[建築士の登録を受けた機関を示す記号]",;
                "[建築士の登録番号]",;
                "[氏名]",;
                "[一級建築士事務所、二級建築士事務所又は木造建築士事務所の別を示す記号]",;
                "[建築士事務所の登録を受けた機関を示す記号]",;
                "[建築士事務所の登録番号]",;
                "[建築士事務所名]",;
                "[郵便番号]",;
                "[所在地]",;
                "[電話番号]"
/* 4.建築設備に関し意見を聴いた者 */
                #11040,;
                "[氏名]",;
                "[勤務先]",;
                "[郵便番号]",;
                "[所在地]",;
                "[電話番号]"
/* 5.工事監理者 */
                #11050,;
                "[一級建築士、二級建築士又は木造建築士の別を示す記号]",;
                "[建築士の登録を受けた機関を示す記号]",;
                "[建築士の登録番号]",;
                "[氏名]",;
                "[一級建築士事務所、二級建築士事務所又は木造建築士事務所の別を示す記号]",;
                "[建築士事務所の登録を受けた機関を示す記号]",;
                "[建築士事務所の登録番号]",;
                "[建築士事務所名]",;
                "[郵便番号]",;
                "[所在地]",;
                "[電話番号]"
/* 6.工事施工者 */
                #11060,;
                "[氏名]",;
                "[建設業の許可をした機関を示す記号]",;
                "[建設業の許可番号]",;
                "[営業所名]",;
                "[郵便番号]",;
                "[所在地]",;
                "[電話番号]"
/* 7.備考 */
                #11070,;
                "[備考]"
/*建築物及びその敷地に関する事項*/
                #12000
/* 1.地名地番 */
                #12010,;
                "[地名地番]"
/* 2.都市計画区域の内外の別 */
                #12020,;
                "[都市計画区域の内外の別を示す記号]"
/* 3.防火地域 */
                #12030,;
                "[防火地域、準防火地域又はその他の区域の別を示す記号]"
/*※4.その他の区域、地域、地区、街区 */
                #12040,;
                ""
/* 5.道路 */
                #12050,;
                "[幅員]",;
                "[敷地と接している部分の長さ]"
/* 6.敷地面積 */
                #12060,;
                "[敷地面積]",;
                "[用途地域を示す記号]",;
                "[建築基準法第52条第１項の規定による建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合]",;
                "[建築基準法第53条第１項の規定による建築物の建築面積の敷地面積に対する割合]",;
                "[敷地に建築可能な延べ面積を敷地面積で除した数値]",;
                "[敷地に建築可能な建築面積を敷地面積で除した数値]",;
                "[備考]"
/* 7.主要用途 */
                #12070,;
                "[用途の区分を示す記号]",;
                "[具体的な用途の名称]"
/* 8.工事種別 */
                #12080,;
                "[工事種別を示す記号]"
/* 9.建築面積 */
                #12090,;
                "[申請部分の建築面積]",;
                "[申請以外の部分の建築面積]",;
                "[合計の建築面積]",;
                "[建築面積の敷地面積に対する割合]"
/*10.延べ面積 */
                #12100,;
                "[建築物全体の床面積のうち申請部分]",;
                "[建築物全体の床面積のうち申請以外の部分]",;
                "[建築物全体の床面積の合計]",;
```

```
                "[自動車車庫等の部分の床面積のうち申請
                部分]",;
                "[自動車車庫等の部分の床面積のうち申請
                以外の部分]",;
                "[自動車車庫等の部分の床面積の合計]",;
                "[住宅の部分の床面積のうち申請部分]",;
                "[住宅の部分の床面積のうち申請以外の部
                分]",;
                "[住宅の部分の床面積の合計]",;
                "[延べ面積]",;
                "[延べ面積の敷地面積に対する割合]"
/*11.建築物の数*/
                #12110,;
                "[申請に係る建築物の数]",;
                "[同一敷地内の他の建築物の数]"
/*12.工事着手予定年月日*/
                #12120,;
                "[工事着手予定年月日]"
/*13.工事完了予定年月日*/
                #12130,;
                "[工事完了予定年月日]"
/*14.その他必要な事項*/
                #12140,;
                "[その他必要な事項]"
/*.建築物別概要*/
                #13000
/* 1.番号*/
                #13010,;
                "[番号]"
/* 2.用途*/
                #13020,;
                "[用途の区分を示す記号]",;
                "[具体的な用途の名称]"
/* 3.工事種別*/
                #13030,;
                "[工事種別を示す記号]"
/* 4.構造*/
                #13040,;
                "[構造種別を示す記号]",;
                "[具体的な構造の名称]"
/* 5.耐火建築物*/
                #13050,;
                "[耐火建築物、簡易耐火建築物又はその他
                の建築物の別を示す記号]"
/* 6.屋根*/
                #13060,;
                "[屋根]"
/* 7.外壁*/
                #13070,;
                "[外壁]"
/* 8.軒裏*/
                #13080,;
                "[軒裏]"
/* 9.居室の床の高さ*/
                #13090,;
                "[居室の床の高さ]"
/*10.階数*/
                #13100,;
                "[地階を除く階数]",;
                "[地階の階数]",;
                "[昇降機塔等の階の数]"
/*11.高さ*/
                #13110,;
                "[最高の高さ]",;
                "[最高の軒の高さ]"
/*12.床面積*/
                #13120,;
                "[階]",;
                "[当該階の申請部分の床面積の合計]",;
                "[当該階の申請以外の部分の床面積の合
                計]",;
                "[当該階の床面積の合計]",;
                #13125,;
                "[申請部分の床面積の合計]",;
                "[申請以外の部分の床面積の合計]",;
                "[床面積の合計]"
/*13.便所の種類*/
                #13130,;
                "[便所の種類]"
/*14.建築設備の種類*/
                #13140,;
                "[建築設備の種類]"
/*15.確認の特例*/
                #13150,;
                "[建築基準法第６条の２第１項の規定によ
                る確認の特例の適用の有無を示す記号]",;
                "[適用があるときは、建築基準法施行令第
                13条の２各号に掲げる建築物の区分を示す
                記号]",;
                "[建築基準法施行令第13条の２第１号又は
                第２号に掲げる住宅に該当するときは、当
                該住宅に係る型式指定番号]"
/*16.その他必要な事項*/
                #13160,;
                "[その他必要な事項]"
/*17.備考*/
                #13170,;
                "[備考]"
/*建築物の階別概要*/
                #14000
/* 1.番号*/
                #14010,;
                "[番号]"
/* 2.階*/
                #14020,;
                "[階]"
/* 3.柱の小径*/
                #14030,;
                "[柱の小径]"
/* 4.横架材間の垂直距離*/
                #14040,;
                "[横架材間の垂直距離]"
/* 5.階の高さ*/
                #14050,;
                "[階の高さ]"
/* 6.居室の天井の高さ*/
                #14060,;
                "[居室の天井の高さ]"
/* 7.用途別床面積*/
                #14070,;
                "[用途の区分を示す記号]",;
                "[具体的な用途の名称]",;
                "[当該用途に供する床面積]"
/* 8.その他必要な事項*/
                #14080,;
                "[その他必要な事項]"
```

（注意）

１．記録に当たっての一般的注意事項

① ［　］内の項目に対応する事項については、″　　″で囲まれた部分に記録してください。

② ［　］で囲まれた部分以外の部分で様式中に「/」、「＊」、「#」、「"」、「,」、「;」、「.」若しくは数字で示されている文字又は［　］で囲まれた部分で記号若しくは数字で記録することとされている文字については、日本工業規格X0201号（昭和51年）で定められている文字を用い、その他の文字については、日本工業規格X0208号(平成２年）で定められている文字(「▲」、「▼」を除く。)を用いてください。ただし、日本工業規格X0208号（平成２年）で定められている文字を用いることとされている部分について当該文字以外の文字を用いようとするときは、日本工業規格X0208号（平成２年）で定められている漢字に置き換えて記録し、又はその読みを平仮名で記録し、それらの前に「▲」を、後ろに「▼」を付してください。

③ 長さ、高さ等についてはミリメートルの単位で表した数値を、面積については平方メートルの単位で表した数値を記録してください。

④ ここに記録できない事項で特に確認を受けようとする事項は、紙面に記載して添えてください。

⑤ その他については、第一号様式の（注意）１．に準じて記録してください。

２．建築主等の概要関係

① 建築主が２以上のときは、１欄は代表となる建築主について記録し、７欄の次に次のように欄を設け、他の建築主についてそれぞれ必要な事項を記録してください。

```
/*建築主追加欄*/
                #11200,;
                "[氏名のフリガナ]",;
                "[氏名]",;
                "[郵便番号]",;
                "[住所]",;
                "[電話番号]"
                #11200,;
                "[氏名のフリガナ]",;
                "[氏名]",;
                "[郵便番号]",;
                "[住所]",;
                "[電話番号]"
```

② ２欄、３欄及び５欄の一級建築士、二級建築士又は木造建築士の別を示す記号は、一級建築士のときは「00101」を、二級建築士のときは「00102」を、木造建築士のときは「00103」を、資格を有していないときは「00100」を記録してください。

③ ２欄、３欄及び５欄の建築士の登録を受けた機関を示す記号は、建築士が一級建築士のときは「00200」を、二級建築士又は木造建築士のときは「002」に続けて次の表の記号（以下「都道府県知事コード」という。）を記録してください。

都道府県知事	記号	都道府県知事	記号
北海道知事	01	滋賀県知事	25
青森県知事	02	京都府知事	26
岩手県知事	03	大阪府知事	27
宮城県知事	04	兵庫県知事	28
秋田県知事	05	奈良県知事	29
山形県知事	06	和歌山県知事	30
福島県知事	07	鳥取県知事	31
茨城県知事	08	島根県知事	32
栃木県知事	09	岡山県知事	33
群馬県知事	10	広島県知事	34
埼玉県知事	11	山口県知事	35
千葉県知事	12	徳島県知事	36
東京都知事	13	香川県知事	37
神奈川県知事	14	愛媛県知事	38
新潟県知事	15	高知県知事	39
富山県知事	16	福岡県知事	40
石川県知事	17	佐賀県知事	41
福井県知事	18	長崎県知事	42
山梨県知事	19	熊本県知事	43
長野県知事	20	大分県知事	44
岐阜県知事	21	宮崎県知事	45
静岡県知事	22	鹿児島県知事	46
愛知県知事	23	沖縄県知事	47
三重県知事	24		

④ ２欄、３欄及び５欄の一級建築士事務所、二級建築士事務所又は木造建築士事務所の別を示す記号は、事務所が一級建築士事務所のときは「00301」を、二級建築士事務所のときは「00302」を、木造建築士事務所のときは「00303」を、建築士事務所に属していないときは「00300」を記録してください。

⑤ ２欄、３欄及び５欄の建築士事務所の登録を受けた機関を示す記号は、「004」の次に都道府県知事コードを続けて記録してください。

⑥ ６欄の建設業の許可をした機関を示す記号は、許可をした機関が建設大臣のときは「00500」を、都道府県知事のときは「005」の次に都道府県知事コードを続けて記録してください。

⑦ 建築物の名称又は工事名が定まっているときは、７欄の次に次のように欄を設け、必要な事項を記録してください。

```
/*建築物の名称又は工事名*/
                #11210,;
                "[名称のフリガナ]",;
                "[名称]"
```

⑧ その他については、第一号様式の（注意）２．②から④までに準じて記録してください。

３．建築物及びその敷地に関する事項関係

① ２欄の都市計画区域の内外の別を示す記号は、建築物の敷地が都市計画区域外にあるときは「00700」を、都市計画区域内にあるときは「00701」を記録してください。ただし、建築物の敷地が都市計画区域の内外にわたる場合においては、当該敷地の過半の属する区域について記録してください。

② ３欄の防火地域、準防火地域又はその他の区域の別を示す記号は、建築物の敷地が防火地域内にあるときは「00601」を、準防火地域内にあるときは「00602」を、その他の区域にあるときは「00603」を記録してください。

なお、建築物の敷地が防火地域、準防火地域又はその他の区域のうち２以上の地域又は区域にわたる場合においては、一の地域又は区域について記録し、14欄の次に次のように欄を設け、他の地域又は区域についてそれぞれ必要な事項を記録してください。

```
/*防火地域追加欄*/
                #12200,;
                "[防火地域、準防火地域又はその他の区域
                の別を示す記号]"
                #12200,;
```

"[防火地域、準防火地域又はその他の区域の別を示す記号]"

③　6欄の用途地域を示す記号は、建築物の敷地が用途地域の指定のない区域にあるときは「00900」を、第一種住居専用地域にあるときは「00910」を、第二種住居専用地域にあるときは「00920」を、住居地域にあるときは「00930」を、近隣商業地域にあるときは「00940」を、商業地域にあるときは「00950」を、準工業地域にあるときは「00960」を、工業地域にあるときは「00970」を、工業専用地域にあるときは「00980」を記録してください。

また、建築物の敷地が、2以上の用途地域、建築基準法第52条第1項第1号から第5号までに規定する延べ面積の敷地面積に対する割合の異なる地域若しくは区域又は同法第53条第1項第1号から第4号までに規定する建築面積の敷地面積に対する割合の異なる地域若しくは区域（以下「用途地域が異なる地域等」という。）にわたるときは、一の用途地域が異なる地域等について記録し、14欄の次に次のように欄を設け、他の用途地域が異なる地域等についてそれぞれ必要な事項を記録し、最後に敷地面積の合計を記録してください。

```
/＊敷地面積追加欄＊/
                #12210,;
                "[一の用途地域が異なる地域等にある敷地の面積]",;
                "[用途地域を示す記号]",;
                "[建築基準法第52条第1項の規定による建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合]",;
                "[建築基準法第53条第1項の規定による建築物の建築面積の敷地面積に対する割合]"
                #12210,;
                "[一の用途地域が異なる地域等にある敷地の面積]",;
                "[用途地域を示す記号]",;
                "[建築基準法第52条第1項の規定による建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合]",;
                "[建築基準法第53条第1項の規定による建築物の建築面積の敷地面積に対する割合]"
                #12215,;
                "[敷地面積の合計]"
```

④　7欄の主要用途の区分を示す記号は、別紙の表の用途の区分に従い対応する記号を記録し、具体的な主要用途の名称は、主要用途をできるだけ具体的に記録してください。

⑤　8欄の工事種別を示す記号は、工事種別が新築のときは「01601」を、増築のときは「01602」を、改築のときは「01603」を、移転のときは「01604」を、用途変更のときは「01605」を、大規模の修繕のときは「01606」を、大規模の模様替のときは「01607」を記録してください。

また、工事種別が2以上にわたるときは、一の工事種別について記録し、14欄の次に次のように欄を設け、他の工事種別についてそれぞれ必要な事項を記録してください。

```
/＊工事種別追加欄＊/
                #12220,;
                "[工事種別を示す記号]"
                #12220,;
                "[工事種別を示す記号]"
```

⑥　12欄の工事着手予定年月日及び13欄の工事完了予定年月日の日付は、次の例のように、「02」に続けて、年、月及び日の数字（数字が一けたのときは数字の前に「0」を付けた数字）を記録してください。

(例)　工事着手予定年月日が平成4年10月1日の場合

```
/＊12.工事着手予定年月日＊/
                #12120,;
                "02041001"
```

⑦　建築基準法第6条第7項の場合又は同条第1項第1号から第3号までに掲げる建築物の計画に同法施行令第146条第1項第2号に掲げる建築設備に係る部分が含まれる場合においては、14欄の次に次のように欄を設け、必要な事項を記録してください。

⋮

(⑦の以下事項、⑧、⑨は略)

⋮

4．建築物別概要関係

①　2欄の用途の区分を示す記号は、別紙の表の用途の区分に従い対応する記号を記録し、具体的な用途の名称は用途をできるだけ具体的に記録してください。

②　建築物の用途が2以上のときは、17欄の次に次のように欄を設け、他の用途についてそれぞれ必要な事項を記録してください。

```
/＊用途追加欄＊/
                #13200,;
                "[用途の区分を示す記号]",;
                "[具体的な用途の名称]"
                #13200,;
                "[用途の区分を示す記号]",;
                "[具体的な用途の名称]"
```

③　3欄の工事種別を示す記号は、(注意) 3．⑤に準じて記録し、工事種別が2以上にわたるときは、一の工事種別について記録し、17欄の次に次のように欄を設け、他の工事種別についてそれぞれ必要な事項を記録してください。

```
/＊工事種別追加欄＊/
                #13210,;
                "[工事種別を示す記号]"
                #13210,;
                "[工事種別を示す記号]"
```

④　4欄の構造種別を示す記号は、木造は「02401」を、組積造は「02402」を、補強コンクリートブロック造は「02403」を、鉄骨造は「02404」を、鉄筋コンクリート造は「02405」を、鉄骨鉄筋コンクリート造は「02406」を、無筋コンクリート造は「02407」を、その他の構造は「02499」を記録してください。

具体的な構造の名称は、構造種別を示す記号を「02499」としたときに記録してください。

また、建築物の構造について2以上の構造とするときは、4欄は主たる構造について記録し、17欄の次に次のように欄を設け、他の構造についてそれぞれ必要な事項を記録してください。

```
/＊構造追加欄＊/
                #13220,;
                "[構造種別を示す記号]",;
                "[具体的な構造の名称]"
                #13220,;
                "[構造種別を示す記号]",;
                "[具体的な構造の名称]"
```

⑤　5欄の耐火建築物、簡易耐火建築物又はその他の建築物の別を示す記号は、建築物が建築基準法第2条第9号の2に規定する耐火建築物のときは「0250l」を、同条第9号の3イに規定する簡易耐火建築物のときは「02502」を、同号ロに規定する簡易耐火建築物のときは「02503」を、その他の建築物のときは「02599」を記録してください。

⑥　12欄の階は、次の例のように、地上の階については「F」に続けて階の数を、地下の階については「B」に続けて階の数を、階数に算入されない昇降機塔等の部分については「P」に続けて昇降機塔等の部分の階の数を記録してください。

(例)　地上3階の場合　F3　地下2階の場合　B2

なお、建築物の階の数が2以上のときは、次のように、最上階から順に必要な事項を記録してください。

```
/＊12.床面積＊/
                #13120,;
                "[階]",;
                "[当該階の申請部分の床面積の合計]",;
                "[当該階の申請以外の部分の床面積の合計]",;
                "[当該階の床面積の合計]"
                #13120,;
                "[階]",;
                "[当該階の申請部分の床面積の合計]",;
                "[当該階の申請以外の部分の床面積の合計]",;
                "[当該階の床面積の合計]"
                #13125,;
                "[申請部分の床面積の合計]",;
                "[申請以外の部分の床面積の合計]",;
                "[床面積の合計]"
```

⑦　15欄の建築基準法第6条の2第1項の規定による確認の特例の適用の有無を示す記号は、確認の特例の適用がないときは「03600」を、確認の特例の適用があるときは「03601」を記録し、建築基準法施行令第13条の2各号に掲げる建築物の区分を示す記号は、同条第1号の建築物に該当するときは「03701」を、同条第2号の建築物に該当するときは「03702」を、同条第3号の建築物に該当するときは「03703」を、同条第4号の建築物に該当するときは「03704」を記録してください。

⑧　その他については、第一号様式（注意）4．①、②、⑥、⑦、⑨、⑩及び⑭に準じて記録してください。

5．建築物の階別概要関係

①　2以上の階があるときは、それぞれの階について次のように必要な事項を記録してください。ただし、木造の場合は3欄から8欄まで、木造以外の場合は5欄から8欄までの記録内容が同じときは、それぞれの階について記録する事項を併せて記録することができます。

```
/＊建築物の階別概要＊/
                #14000
/＊ 1.番号＊/
                #14010,;
                "[番号]"
/＊ 2.階＊/
                #14020,;
                "[階]"
/＊ 3.柱の小径＊/
                #14030,;
                "[柱の小径]"
/＊ 4.横架材間の垂直距離＊/
                #14040,;
                "[横架材間の垂直距離]"
/＊ 5.階の高さ＊/
                #14050,;
                "[階の高さ]"
/＊ 6.居室の天井の高さ＊/
                #14060,;
                "[居室の天井の高さ]"
/＊ 7.用途別床面積＊/
                #14070,;
                "[用途の区分を示す記号]",;
                "[具体的な用途の名称]",;
                "[当該用途に供する床面積]"
/＊ 8.その他必要な事項＊/
                #14080,;
                "[その他必要な事項]"
```

```
/＊ 2.階＊/
                #14020,;
                "[階]"
/＊ 3.柱の小径＊/
                #14030,;
                "[柱の小径]"
/＊ 4.横架材間の垂直距離＊/
                #14040,;
                "[横架材間の垂直距離]"
/＊ 5.階の高さ＊/
                #14050,;
                "[階の高さ]"
/＊ 6.居室の天井の高さ＊/
                #14060,;
                "[居室の天井の高さ]"
/＊ 7.用途別床面積＊/
                #14070,;
                "[用途の区分を示す記号]",;
                "[具体的な用途の名称]",;
                "[当該用途に供する床面積]"
/＊ 8.その他必要な事項＊/
                #14080,;
                "[その他必要な事項]"
```

②　2欄は、(注意) 4．⑥に準じて記録してください。ただし、木造の場合は3欄から8欄まで、木造以外の場合は5欄から8欄までの記録内容が同じで、それぞれの階について記録する事項を併せて記録するときは、次のように、記録内容が同じとなる階の範囲について必要な事項を記録してください。

```
/＊ 2.階＊/
                #14020,;
                "[記録内容が同じとなる階の範囲のうち最も上の階]",;
                "[記録内容が同じとなる階の範囲のうち最も下の階]"
```

③　7欄の用途の区分を示す記号は、別紙の表の用途の区分に従い対応する記号を記録し、具体的な用途の名称は用途をできるだけ具体的に記録してください。

なお、一の階が2以上の用途に供されている場合は、一の用途に供されている部分について記録し、8欄の次に次のように欄を設け、他の用途に供されている部分についてそれぞれ必要な事項を記録してください。

```
/＊用途別床面積追加欄＊/
                #14200,;
                "[用途の区分を示す記号]",;
                "[具体的な用途の名称]",;
                "[当該用途に供する床面積]"
                #14200,;
                "[用途の区分を示す記号]",;
                "[具体的な用途の名称]",;
                "[当該用途に供する床面積]"
```

④　その他については、第一号様式の（注意）5．②及び③に準じて記録してください。

「創造博物館ーまちと建築の未来展」ー4月から11シリーズで

「アーキテクチュア・フェア KOBE」のイベントとして三つの展覧会が、“うつりかわり展”“未来展”“体験展”の構成で企画されている。

まず“未来展”が、4月のフェア開幕から9月の閉幕まで、「創造博物館ーまちと建築の未来展」として2週間ごとにテーマを変え11のテーマのもとに開催される。日本建築協会後援。

オープニングは「建築散歩 in KOBE—教えて！建築ヒストリー」。神戸の洋風建築の始まり、欧米住宅建築様式との比較、神戸ゆかりの建築家を紹介し、神戸建築のルーツを探ろうとするもの。主催は神戸市ほか。

会期　1993年 4 月 2 日(金)〜 5 月 9 日(日)
10：00〜19：00



会場となる神戸郵船ビル

会場　神戸郵船ビル・東館（神戸市中央区海岸通1-1-1　JR元町駅下車）

高松伸建築展ーサンフランシスコで

高松伸氏のアメリカでの初の展覧会が、3月から約3カ月間、サンフランシスコ近代美術館で開催されている。

高松氏の過去のプロジェクトからとくに4つを選び、それらを軸にすべての仕事を見せる構成となっており、ドローイング、スケッチ、モデルはもとより、CGやハイビジョン立体映像による展示が行われる。

と　き　1993年 3 月 4 日(木)〜 6 月 6 日(日)
月曜日休館（火・水・金-10：00〜17：00、木-10：00〜21：00、土・日-11：00〜17：00）

ところ　サンフランシスコ近代美術館
401 Van Ness Avenue San Francisco

入場料　大人4ドル（毎週木曜日17：00以降と、毎月第1火曜日は入場無料）

詳細は、高松伸建築設計事務所（TEL075-621-6002）へ問い合わせられたい。

〈京都・色彩トーク〉2

京都の色彩問題をみんなで語り合う場〈京都・色彩トーク〉（主催：街の色研究会・京都）は、今回は“京都の夜景”をとりあげる。参加費無料。

日　時　1993年 4 月 3 日(土)　13：00〜16：30
会　場　佛教大学四条センター（京都・四条烏丸）
テーマ　京都の夜景を考える

1．総論「街のあかり」／村上幸三郎氏（ライティングデザイナー）
2．報告「京都の夜景の現状」／渡辺康人氏（カラーデザイナー）
3．提案「京都の夜景づくり—三条通りを例にして」／伊吹　弘氏（インテリアデザイナー）
4．討議「京都の街のあかりを考える」／討議司会・島久洋氏（社会心理学者）

詳細は、街の色研究会・京都（京都市東山区本町15-784三竹園美術文庫内．TEL、075-561-6241）へ。

イスラームのタイル展

12〜18世紀に主に現イラン各地の窯で焼かれたラスター彩の動植物や文字文のタイルをはじめ、細密画の影響を受けた物語絵のタイル、壺や水注、皿鉢、そして幻の赤・イズニクのチューリップ柄のタイルなど約180点が、INAXギャラリーで展示されている。展示の監修は、タイル研究家の山本正之氏。入場無料。

と　き　1993年 3 月 10 日(水)〜5月 24 日(月)
10：00〜18：00　会期中無休

ところ　INAX大阪ショールーム2階
大阪市西区新町1-7-1



ラスター彩文字タイル
—12世紀カシャーン（現イラン）—

RM構造施工管理マニュアル講習会

鉄筋コンクリート組積造（RM構造と呼ぶ）は、官・学・産共同研究「日米共同組積造耐震研究」の成果により誕生した。

このRM構造の健全な普及のため、アールエム建築推進協議会はRM建築工事施工管理者を対象としたRM構造施工管理マニュアルの講習会、および施工管理技術者資格検定試験を、大阪市、福岡市（6月3日）、東京都（6月30日）で実施する。日本建築協会後援。

■大阪会場

日　時　1993年 4 月 19 日(月)　9：30〜17：00
会　場　建設交流館（大阪市西区立売堀2-1-2）
参加費　15,000円（主催・後援団体会員）
講　師　馬場明生氏（建設省建築研究所）
井上芳生氏（住宅・都市整備公団東京支社）
ほか1〜2名。

申込先　アールエム建築推進協議会事務局（TEL 03-3798-4961、FAX 03-3798-4922）へ「講習会案内」を請求すること。

神戸建築探訪ー5月のラリー

〈アーキ☆ラリー〉　5月の行先は下記のとおり。ウォーク・ラリーは原則として参加費無料。バス・ラリーは参加費1回約3000円、定員約160名。参加申し込みは、神戸市民生協（〒650 神戸市中央区江戸町92 TEL 078-391-2372）へ往復ハガキで。

■ウォーク・ラリー

5 月 5 日（祝）山手住宅地と灘の酒蔵めぐり—御影・住吉周辺コース（小原流芸術参考館、白鶴美術館、菊正宗酒造博物館）

5 月 22 日(土)　六甲山リゾート建築めぐり—六甲山上コース（風の教会、竹中工務店六甲山荘）

■バス・ラリー

5 月 16 日(日)、19 日(水)　神戸で活躍する建築家コース—安藤忠雄とその建築（六甲オリエンタルホテル、風の教会、JUN、モロゾフ）

5 月 26 日(水)、29 日(土)　すまいの歴史と現代コース—歴史的民家と現代住宅（旧ハッサム邸、箱木千年家、六甲アイランド住宅群）

第4回公共建築賞の公募

㈳営繕協会は、第4回公共建築賞を実施する。公共建築の総合的水準の向上に寄与することを目的とした公共建築賞は、昭和63年から隔年に実施されているもので、地域社会への貢献や施設の管理保全という視点からも評価を行うため、竣工後3年以上経過したものを対象としている。

●対象建築物

国、地方公共団体・政府、これに準ずる機関が実施した建築物、その他公共性の高い建物で、昭和61年4月から平成2年3月の間に竣工したもの．

●表彰対象者

事業者・建築主・施設管理者、設計者、施工者

●賞の種類

(1)公共建築賞：3部門について建築物各1点
①行政施設　②文化施設　③生活施設
(2)公共建築賞・特別賞：優れた特徴をもつ建築物
(3)優秀賞：優れた建築物20点程度

●応募要領

応募申込は、営繕協会会員でない場合は、営繕協会正会員の推薦を必要とする。応募締切は1993年6月10日(木)。応募資料提出先は、応募する建築物が所在する地域の営繕協会地区事務局へ。

●第4回公共建築賞審査委員会

高階秀爾（国立西洋美術館長）—委員長—、尾島俊雄（早稲田大学教授）、木村治美（エッセイスト・共立女子大学教授）、鈴木博之（東京大学教授）、谷口吉生（建築家）、丹保睦敬（東京都）、横田満人（建設大臣官房官庁営繕部）

●表彰

第一次、二次審査を経て、1994年5月下旬に発表。

●問合先

㈳営繕協会　TEL 03-3234-6265

建築の眼

JAZZYな住環境

シンガポールの住宅整備水準は高いことで有名である。実際にH.D.B.(ハウジング・ディベロップメント・ボード)を訪れ、その作品を見ると、確かに評判通りだ。住都公団にあたるH.D.B.は約7,000人もの職員を抱え、教科書どおりのニュータウンをつくり、30年間で約67万戸のフラットを供給してきた。260万人の人口と淡路島程度の面積(620㎢)の都市国家としてその成果に驚かざるを得ない。

造り始めのものと最新の団地の違いを見たくなり、アン・モ・キオ団地とビシャン団地を訪れた。前者はほぼ20年が過ぎ、画一的な形態が残るものの、街が成熟してアジア的な界わい性があった。新しいビシャン団地はこの種の賑やかさはなく、そのかわりピカピカの景観があり、建物のフォルムや色彩にJAZZYな様相がつきまとっていた。柱棟が細かく分節され、勾配屋根が付けられ、ファサードにもアジア的な色が溢れていた。

一方はJAZZYなアクティビティをもち、他方はJAZZYな形態をみせてくれたのである。H.D.B.の若い建築家達はどちらを評価するのか聞くつもりでいたが、おりからオーチャード通りをライトアップするクリスマス電飾に心を奪われて、そのまま帰ってきてしまった。しかし、今でも気になるコントラストなのである。

加藤晃規　大阪大学工学部環境工学科助教授

好きこそものの上手なれ

受験シーズンもたけなわ。子弟の結果に一喜一憂の諸兄も多いと思う。最近、小学校・中学校の試験問題を大人の出演者に解答してもらうテレビ番組が人気を呼んでいる。社会の第一線で活躍している彼らの迷答には思わず笑ってしまうものの、小中学生がこんなに難しいものを解いているのかと答えられない自分に情けなさを感じることも多い。現役の小中学生時代は少しは自信をもっていたのに解らない。が一方で番組が病みつきになってしまう何かがあるようである。先日読んだある本に、次のようなことが書いてあった。世の中の多くの人は数学を苦手とする人が多いが、数学的な面白さが私たちの身の回りには多くある。ただ多くの人は、その事実に気がつかない。いったん興味をもって取り組めば、その面白さにのめり込み好きになるものだ。そうした魅力が数学にはあると。

建築も技術の複雑化、高度化、多様化などによりものづくりの過程で担当者個人の理解を超える部分が多くなっている。ブラックボックス化し踏みこめない部分が多くなるほど人の興味は薄れて行くのではないだろうか。「好きこそものの上手なれ」で次第に衰えていく思考力に鞭打って新しいもの、面白いものに積極的にトライして行きたいものだ。

玉井龍男　建設省近畿地方建設局営繕部建築課長

逆さ眼鏡と未足

新聞に興味深い記事が、掲載されていた。「逆さ眼鏡」と、「未足」で、二つの記事を要約すると、逆さ眼鏡は、天と地が反転して見える眼鏡で、この眼鏡を着用しつづけると、徐々に上は上、下は下に見え始める。世の中が、まっとうに見える正立の世界を求めて、脳は涙ぐましい努力をするおかげで、人間は、ある程度まで、逆さまの世界に順応する。未足の方は、三菱総合研究所が、1993年のキーワードとして、発表した造語で、不足はしていないが満足できない状況を表わす言葉で、このキーワードを手がかりに、四つの分野で予測している。例えば、消費の分野では、消費者は、物を買う喜びを失っているので、企業は、価格や、品質、材能のバランスがとれた商品を開発する必要がある。との内容になる。この二つの記事は、相互に関連なく、別の日に掲載されていたものであるが、逆さ眼鏡の記事を、バブル経済最盛期を、比喩しているものとして読むと面白い。バブルの時期は、知らず知らずのうちに逆さ眼鏡を着用し、脳に涙ぐましい努力をしいて、反転の世界を、正立の世界として、見る風潮があり、未足を満足として、ことたれりとする状況であった。バブル崩壊した今、逆さ眼鏡をはずし、反転の世界を正立の世界、未足と満足を見きわめる時である。

隅谷康彦　大建設計取締役大阪事務所所長

建設業に於ける時短

社団法人建設業協会が昨年末に、労働時間短縮を率先して推進する事を宣言した。これは「生涯を託せる、やりがいのある建設業」の実現をめざすためである。

さて、各社の作業所での週休２日の現状はと言えば、大阪建設業協会が昨年７月～９月にかけて実施した調査では、月１回以上完全休務している作業所の割合は前回の調査より上昇したとは言え４割余りである。ただ第２・第４土曜日の完全休務率が他の土曜日に比して高い割合となっており、官民一体となって取り組んでいる「４週６休」への推進効果が現れていると考えられる。週休２日制が実施できない理由の最多に「契約工期が短い」があげられており、その他の理由に作業員の所得低下、協力業者の土休体制の不整備等があるが、協力業者の団体である近畿建設躯体工事業協同組合なども、４週６休及び週休２日制に向けて協同することを申し合わせており、その成果の上ることを期待している。

しかし労働時間短縮を図るためには、生産性の向上・工期の確保と発注時期・積算時に於ける発注者の理解・日給制作業員の収入の確保など、業界・発注者・監理者一体となって取り組まねばならない様々の問題が残されており、GNP２割を占める産業の将来の担い手確保のためにも真剣で地道な取り組みが要求されている。

得田芳宏　村松組取締役大阪本店建築部長

特集・東海の美術館・博物館

作品

名古屋大学シンポジオン
中部電力㈱旭名東営業所
愛知県海部総合庁舎
愛知芸術文化センター
名古屋港水族館
名古屋市緑スポーツセンター
三重県老人休養ホーム「芙蓉荘」
清水市立中央図書館
JR東海太閤ビル
名古屋短期大学新研究管理棟
住総名古屋ビル
金城学院大学ランドルフ記念講堂
ホテルプリシード名古屋
東海銀行徳川町家族寮
錦SISビル
坂種栄ビル
岡谷不動産滝川町ビル
豊田工機厚生年金基金会館
ダイワ親和寮・ダイワ名古屋事務所
小牧ロイヤルホテル
山善ロジス西日本
オークマ株式会社可児工場
メイテック神戸テクノセンター
東京第一ホテル魚津
瀬戸信用金庫本店

東海Sketch

新建築作品4点

論文

愛知芸術文化センター
複合型文化施設について／横山和博
愛知芸術文化センターの設計について／進藤　繁
愛知芸術文化センターの施工／茂木文夫
愛知県美術館／村田真宏
海の博物館
そこで仕事をするものにとっての「海の博物館」の建築／平賀大蔵
海の博物館の設計について／内藤　廣
岐阜市歴史博物館
岐阜市歴史博物館の建設と運営について／白水　正
岐阜市歴史博物館の設計について／日置朝生
静岡県立美術館
日本の美術館の過去と未来の狭間／立花義彰
静岡県立美術館の設計について／高木滋生

本特集企画・日本建築協会東海支部
特別編集委員会

委員長：中島　一
委　員：今津清直　岩田正弘　小宮三辰
後藤利秋　寺本英一　中谷孝司
野口良一　畑中圭助　林　金之
廣瀬敏郎　福田泰造　桝林宏二
松本壮一郎　森口雅文　森田富士男
盛田輝勇　（50音順）

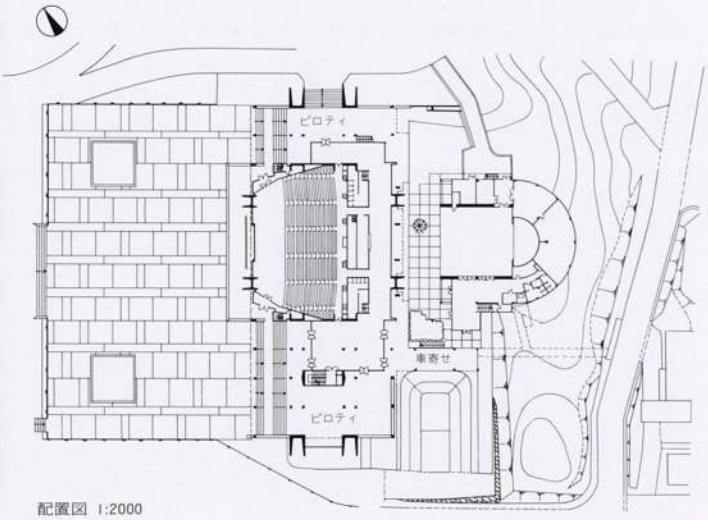


名古屋大学シンポジオン

設計施工　竹中工務店名古屋支店



全景鳥瞰　キャンパス東から西を望む

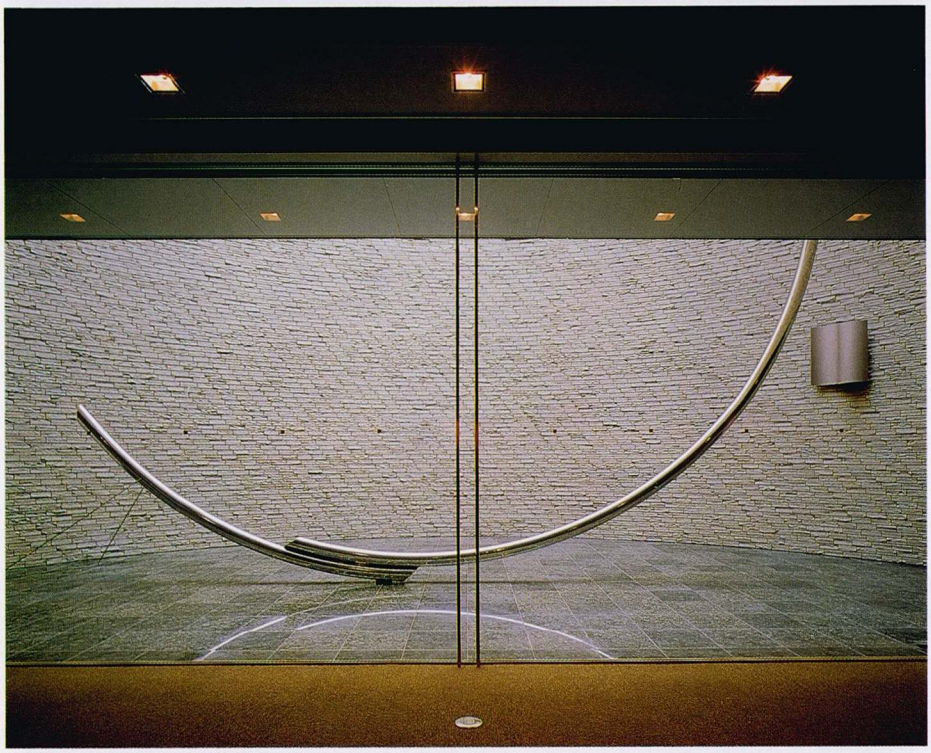


配置図 1:2000





夕景　中庭よりシンポジオンホールを望む

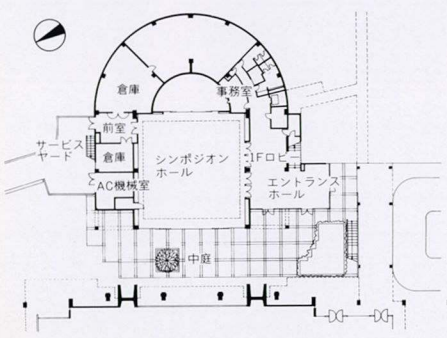


ライトコート　彫刻「円・景」今井瑾郎

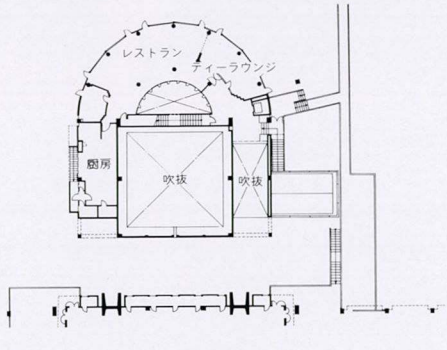
この建物は、名古屋大学創立50周年記念事業として企画され、教育と研究に携わる教職員や学生、同窓生の交流の場を創る目的で計画された。
昭和35年に東山キャンパスの中心的な施設として竣工した豊田講堂と一体的な利用をはかるという条件があり、竣工後30年という時間を経過した講堂とのデザインの調和・統合をはかることが、今回の設計の重要なテーマであった。
東山キャンパスの中央部を東西に走るグリーンベルトは東になだらかに登るスケールの大きな外部空間となっているが『都市のゲート』をデザインモチーフとした建築、豊田講堂が配置されることにより、その空間は秩序づけられている。今回の建物は、その講堂の重要なデザイン要素となっているピロティから外部空間への連続性を重視した配置とした。
外観のデザインは、コンクリート打放しのフレームを対置させて豊田講堂と調和をはかりつつ、モザイクタイル貼りのシリンダーのフォルムに転換していくことで、豊田講堂竣工後の30年の時の流れを形態的に表現した。また、そのシリンダーのフォルムは樹木の緑の中に優しく包み込まれるよう配置することにより、周辺に残された雑木林との親密な関係をつくりだしている。
建物は、ホール、レストラン、ゲストルームの三要素で構成され、1階には豊田講堂と連携の必要なホールを、東側の道路レベルにある2階にはレストラン、静粛さを要求されるゲストルームは3階に配置し、明快な機能分離をはかっている。
※シンポジオンとは、古典ギリシャ語で「酒を汲みかわし、親愛な雰囲気の中で知的交流をはかること。あるいは、その場所」を、意味することから命名された。

（西本　博、嶋　俊己／竹中工務店）

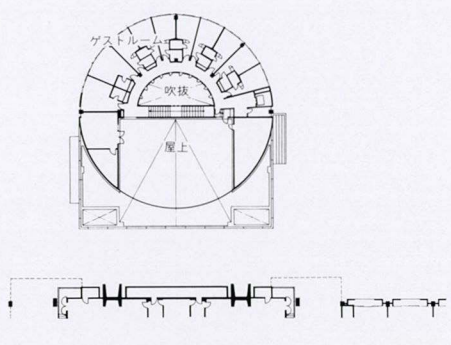
所 在 地　名古屋市千種区不老町
敷地面積　390,077.76㎡
建築面積　890.47㎡
延床面積　1,530.37㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　1991年3月～1992年1月
最 寄 駅　地下鉄東山線本山駅
彫　　刻　今井瑾郎
撮 影 者　車田　保　青山賢三



1階平面図　1:1200



2階平面図



3階平面図



レストラン



南面外観ディテール



シンポジオンホール



外観遠望

中部電力㈱旭名東営業所

設　計　伊藤建築設計事務所
監　理　中部電力名古屋支店工務部建築課
施　工　竹中・大林・前田・安藤共同企業体
　　電　　気　トーネック・中央・東光共同企業体
　　空調・衛生　高砂・三機・川崎共同企業体

所 在 地　尾張旭市庄南町２丁目１－10
敷地面積　9,000㎡
建築面積　2,837㎡
延床面積　17,770㎡
構造規模　SRC、一部S、B2F、7F
工　　期　1990年９月～1992年６月
最 寄 駅　名鉄バス四軒家西口駅
撮　　影　SS名古屋

名古屋市東部の名東区・守山区と、尾張旭市、長久手町をサービスエリアとする中部電力の営業所で、名古屋市名東区に隣接した尾張旭市に建設された。

施設は住民に対する公共サービス機能・オフィス機能、電力所の通信、制御機能をかね備えたもので、建物前面には地域に開放された広場を設け、構内は緑化にもつとめ、周辺の環境整備に腐心した。

公共へのサービス施設として設けられたショールームは広場に接し、吹抜のある開放的なスペースとしている。その他、主婦を対象とした料理教室・庭園、散策路を眺望する食事コーナー、地域の人々が会合・講習等に利用できる多目的室や、書画等の展示ギャラリーを設け、地域の人々の積極的な利用を期待している。

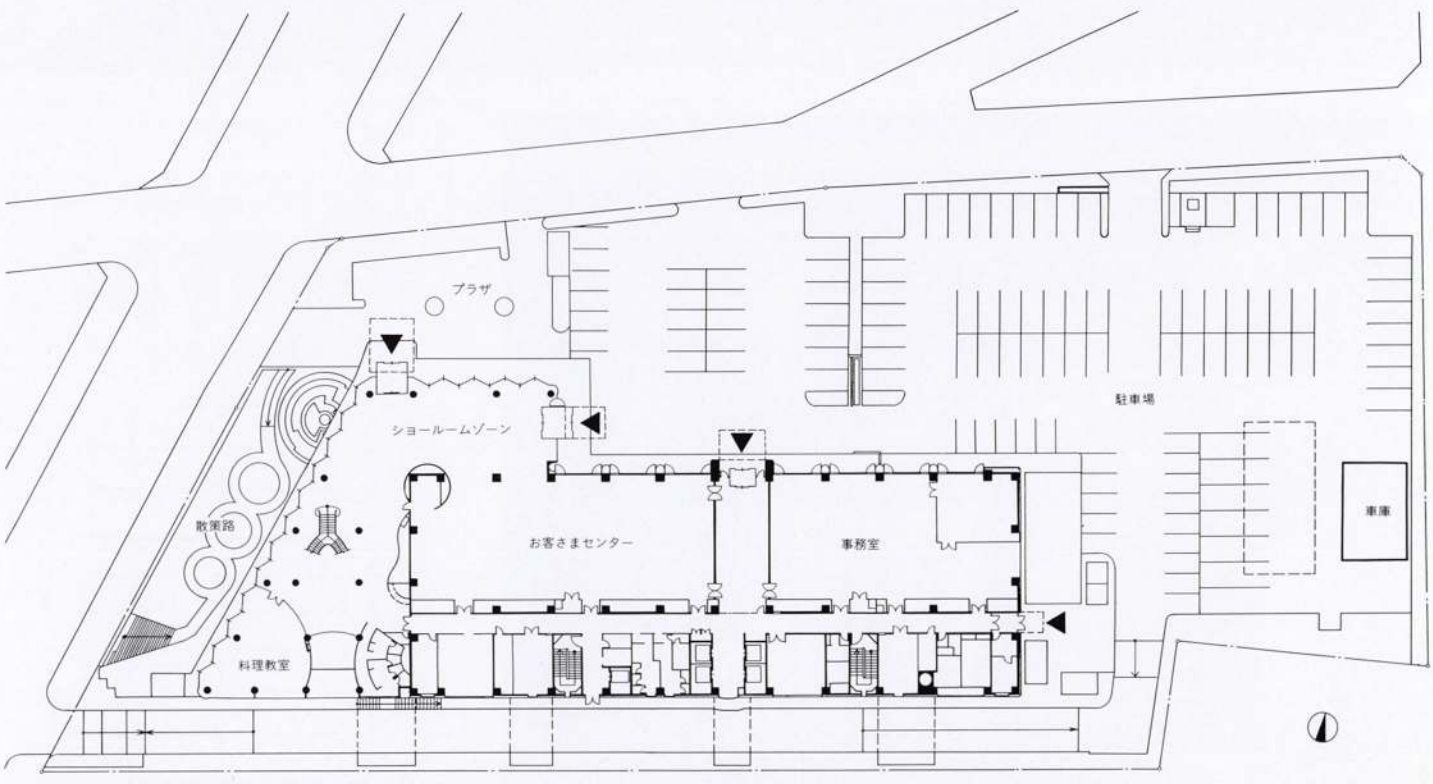
オフィス部分は敷地の高低差を生かし、地下１階の駐車場レベルを西側道路に合わせ、南側に車道を設けることで、人と社有車との動線を明解に区分している。オフィスは北面させ、眺めがよくて均一な採光と落ちついた良好な執務スペースとしている。リフレッシュコーナーは南面させ、太陽がふりそそぐよう全面ガラスで、各階に設けられている。オフィスは変化に対応できるスペースを実現するために、15m×69mの無柱空間とし、床は全面的にOAフロアーを採用し、将来にわたるOA化対応を可能としている。薄紫色をベーシックカラーとする色彩計画や、ニューオフィスにふさわしい家具の選定とあいまって、執務環境の質の向上をはかっている。

外観は、周辺の住宅地や丘陵地に調和を図るため灰赤紫色のタイルと横ラインのデザインで大規模な建物の威圧感をなくしている。

（岡田満弘/伊藤建築設計事務所）



外観南西面

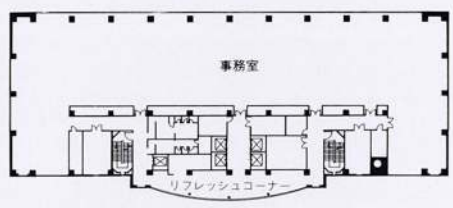


配置・1階平面図　1:1000

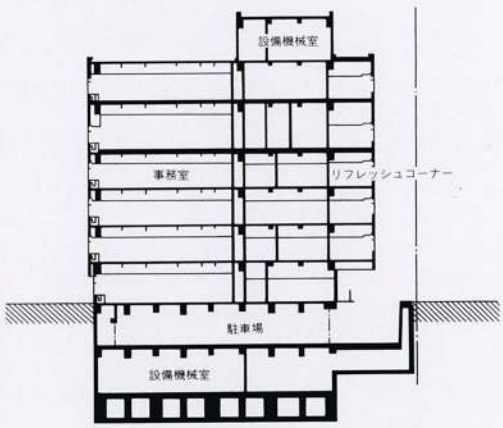
外観北東面



ショールームゾーン外観夜景



基準階平面図　1:1200



断面図



ショールームゾーン階段



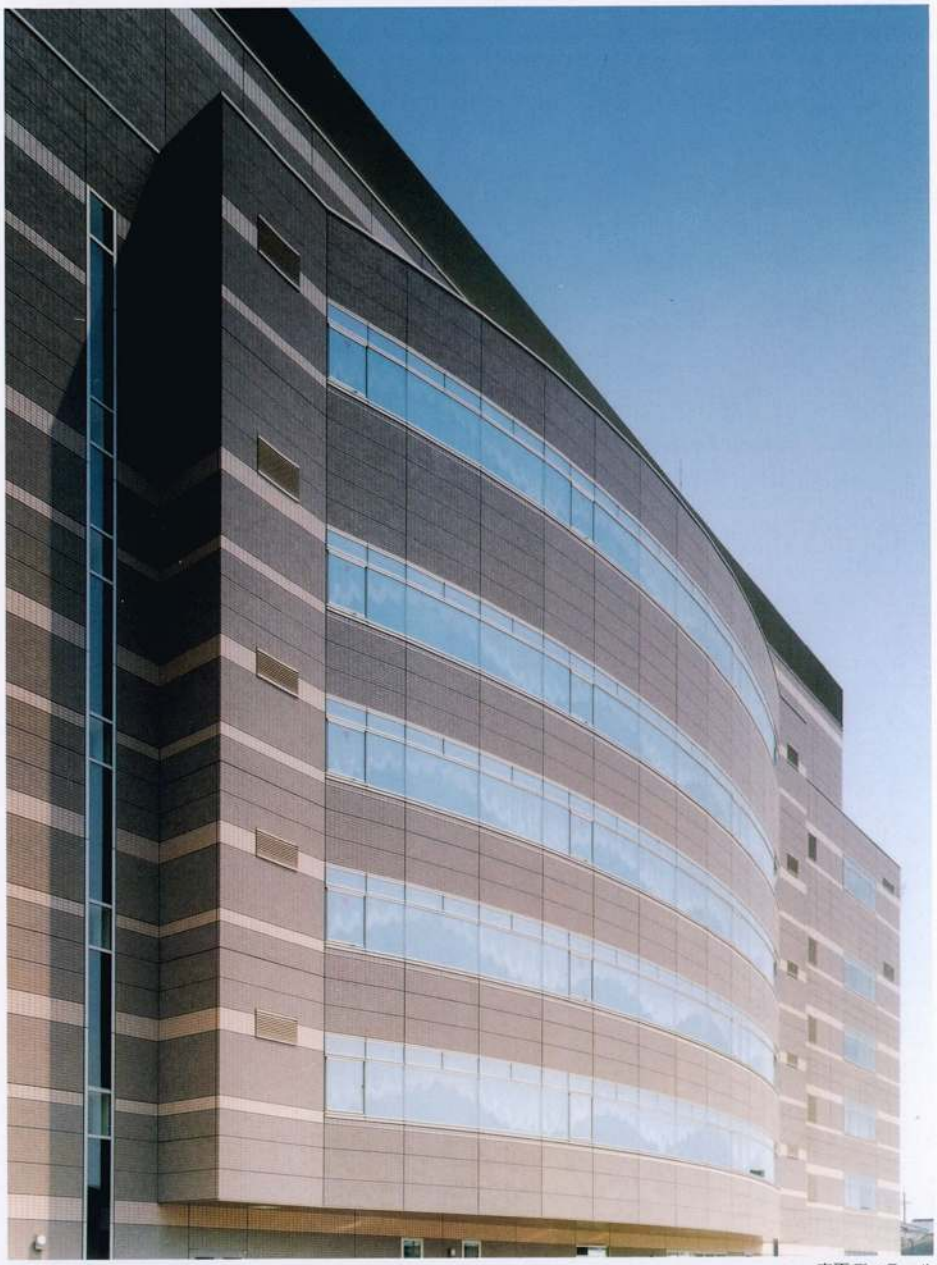
ショールーム前庭



リフレッシュコーナー



事務室



南面ディテール



ショールーム

外観南東面

光庭



愛知県海部総合庁舎

設計監理　愛知県建築部営繕課
　　伊藤建築設計事務所
施　　工　清水・河村建設共同企業体
　　空　調　太平・ホッタ建設工事共同企業体
　　電　気　東和電気工事
　　受変電　中立電機
　　管　　シブヤパイピング工業
　　昇降機　三精輸送機
　　電　話　朝日電気工業

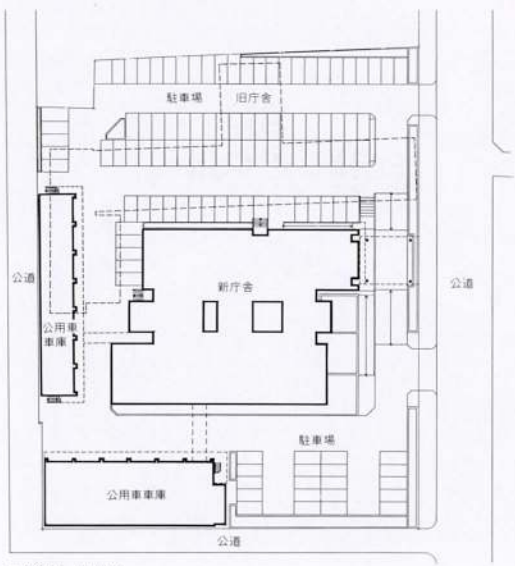

全景鳥瞰(撮影：SS名古屋)

愛知県の地方事務所の合同庁舎で、県西部に広がる海抜0m地帯を含む海部・津島地方の1市12町村を管轄区域としている。昭和37年に建設された旧庁舎は、業務の拡大と共に増改築を繰り返してきたが、老朽が著しく、手狭まとなったため、全面改築された。今回の改築は他の地方事務所に先がけて行われたもので、今後の改築の指針となるものである。
改築に際しては、旧庁舎を使用しながら新庁舎を建設し、新庁舎竣工後、旧庁舎を解体撤去して、駐車場を整備する段階的改築とした。新庁舎は、近隣の居住環境を阻害することのない様にできるだけ低層とし、各階の床面積を大きくして、建物全体として事務室等の有効面積を広く確保し、効率の良い建物とした。センターコア形式とし、コアの南北に執務スペースを設け、階段とエレベーターを一組にして東西両端に配置し、縦横の明解な動線を確保した。事務室は使いやすくフレキシビリティのある大部屋形式とし、開放感があり、県民が利用し易いものとした。一人当たりの事務室面積は旧庁舎時の1.5倍以上の約8㎡を確保し、業務の拡大や事務処理のOA化にも対応できるものとした。
近年は治水事業の整備により、冠水の危険性はなくなったと言われているものの、非常時には、重要拠点施設となるため、エネルギー機器を公用車車庫の2階にまとめ、災害時にも充分機能を発揮できるよう配慮した。
(鈴木慶智/伊藤建築設計事務所)

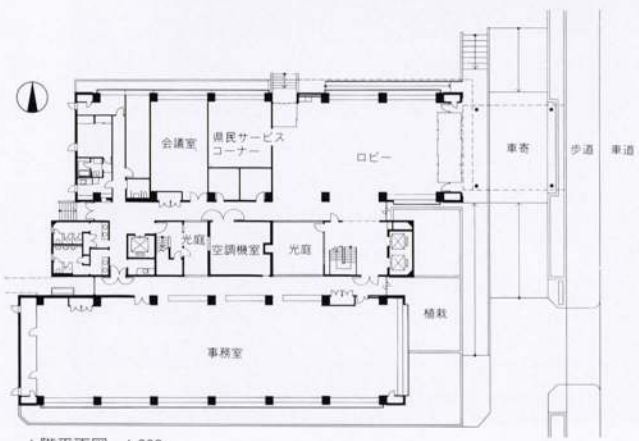

エントランスホール


事務室

所 在 地　愛知県津島市西柳原町地内
敷地面積　5,775.7㎡
建築面積　1,767.92㎡
延床面積　8,001.11㎡
構造規模　SRC、6F、PI
工　　期　平成2年12月～平成4年12月
最 寄 駅　名古屋鉄道津島線津島駅
撮　　影　加藤敏明



配置図　1:1500



1階平面図　1:800

錦通りより全景



南面夜景



フォーラムⅠ

愛知芸術文化センター

設　計　A & T 建築研究所
監　理　愛知県建築部営繕課　A & T 建築研究所
施　工　大成建設・大林組・鹿島・清水建設・鴻池組・
　　戸田建設・矢作建設工業・小原建設・大井建設
　　共同企業体

計画地は名古屋の中心部、栄にある。名古屋の主要な都市軸である「緑・文化」と「業務・情報」の２軸の交点にあり、都市的で象徴的な立地にあるといえる。都心の核となるべき位置に、芸術文化を象徴し、新しい文化ゾーンを創り出す建築として、全体構成、外部の形態は、都市的な規模とスケールをもたせ、単純で明快な型とした。

愛知芸術文化センターは、美術館と芸術劇場、文化情報センターの３つの大きな施設と、全館を使っての国際会議機能をもっている。複合した施設と機能をまとめてゆく空間として２つのフォーラムを計画した。地上２階から地上12階迄のフォーラムⅠと、地下２階から地上２階迄のフォーラムⅡの、２つのアトリウム空間である。

芸術劇場は、３つのホールと、２つのリハーサル室で構成されている。大ホールは、我が国で始めての本格的なオペラを上演できる規模と機能を持つ劇場となる。コンサートホールは、シューボックスの音の良さと、アリーナ型式のもつ、舞台と客席の一体感を併せもっている。小ホールは、演劇や舞踊などの現代舞台芸術のための実験小劇場である。

美術館は建物の上層階にあり、屋上庭園と一体となっている。自然光による展示室があり、外部空間をとり込んだ回遊動線を持っている。6,000㎡の展示スペース、2,000㎡の収蔵スペースは国内の公立美術館として、最大級の規模といえる。　（進藤　繁／A&T建築研究所）

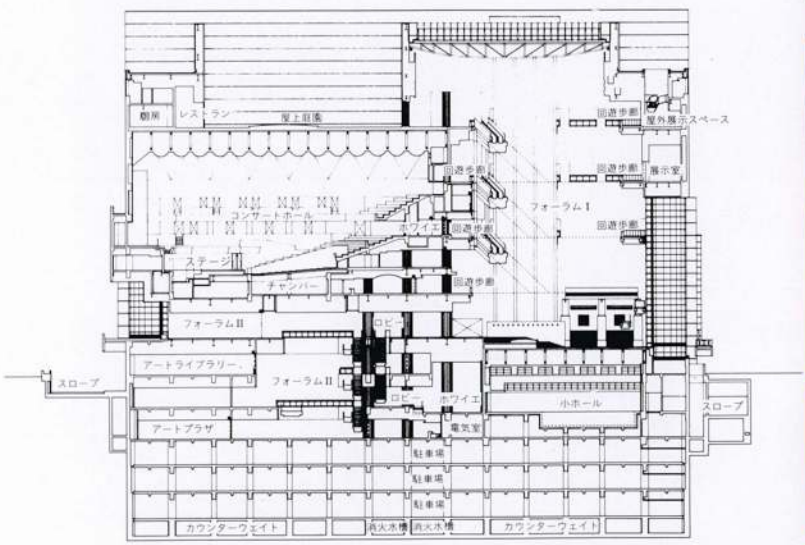
所 在 地　愛知県名古屋市東区東桜１丁目13-2
敷地面積　24,911.17㎡
建築面積　12,113.26㎡
延床面積　109,062.07㎡
構造規模　SRC、B5F、12F、PI
工　　期　1989年３月～1992年６月
最 寄 駅　地下鉄東山線栄駅
撮　　影　増田彰久


コンサートホール


8階ギャラリー　エントランスロビー


10階展示室


12階アートスペース



断面図　1:1200

東面外観

東北面外観



東面２階プラザ

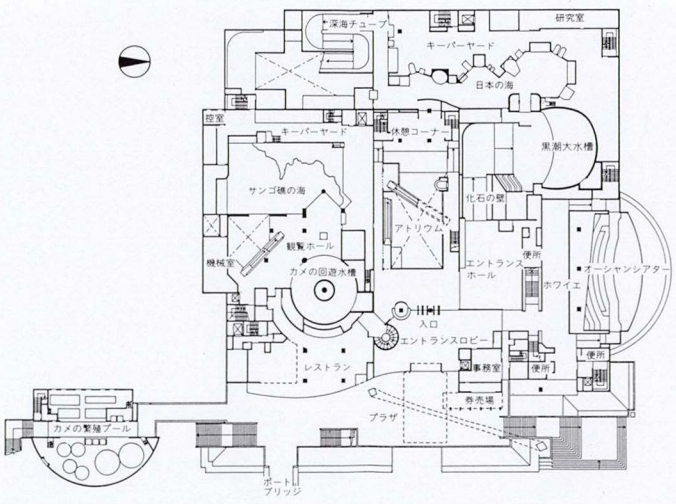
名古屋港水族館

設　計　名古屋港管理組合計画部・大建設計名古屋事務所
監　理　名古屋港管理組合建設部・大建設計名古屋事務所
施　工　鹿島・大成建設・五洋建設・名工建設J.V.

この水族館の敷地として親水公園として整備が進み、海洋博物館を持つ「ポートビル」や、南極観測船「ふじ」が係留されている名古屋港ガーデン埠頭が、５つの候補地の中から決定され、生物を単に展示するにとどまらず、繁殖機能を持った施設として「海を通じて地球の未来を考える」を基本コンセプトとして計画された。
既存のポートビル、ポートハウス、ふじ等と共に、小舟溜りを介して一体的景観となるよう、東側のブリッジの接点には人工地盤のプラザを設け、連続性を持たせている。このプラザからエントランスホールへと導かれ、その正面に位置する明るい光の差し込む３層吹抜のアトリウムは、これから始まる「海の旅」への期待感をいだかせる、日常的なアメニティ空間として位置づけており、多様な機能を持つこの水族館の動線や利用ゾーンを明確にするため、口の字型に配した観覧ゾーンの中心に設けている。このアトリウムの一角には休憩スペースを設け、観覧動線をショートカットする事も出来るよう、各ゾーンを有機的に結び付けると共に、日常的空間と非日常的空間の接点の役割を果たしている。
人々が集うプラザ正面のカーテンウォールは波とオーロラをイメージし、〝地球〟を表現している球形と、21世紀に向けて発展していく名古屋港の〝未来〟を象徴したピラミッド型のトップライトにより、シンプルでシンボリックな形態をつくり出している。

(宮島俊雄/株式会社大建設計名古屋事務所)

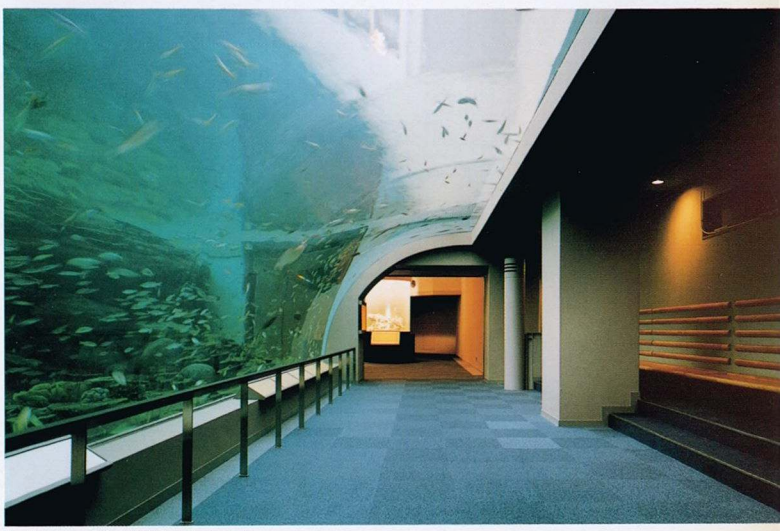
所 在 地　名古屋市港区港町106番地
敷地面積　17,685.59㎡
建築面積　 7,597.56㎡
延床面積　18,757.62㎡
構造規模　SRC、4F、P2
工　　期　平成２年３月～平成４年３月
最 寄 駅　地下鉄名城線名古屋港駅
撮　　影　そあスタジオ



２階平面図　1:1500


２階プラザ


３階サンゴ礁の海


１階「サンゴ礁の海」水中トンネル

南面外観

東南面外観



名古屋市緑スポーツセンター

設　計　名古屋市建築局　丹羽英二建築事務所
監　理　名古屋市建築局
施　工　西松・青木・日東特別共同企業体

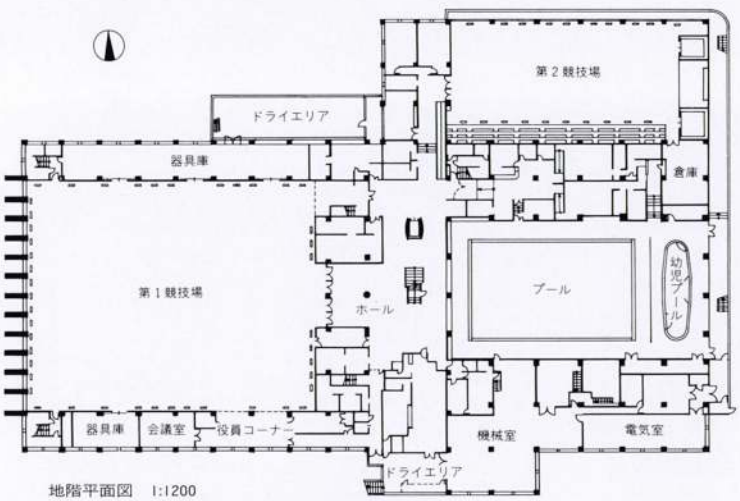
緑方面スポーツセンターは、名古屋市が地域スポーツ活動の促進・健康体力づくりなど生涯スポーツの推進や、競技力の向上をはかるための拠点施設として各地にスポーツセンターの整備をすすめていく一環として計画されました。

敷地は緑区のほぼ中央に位置し、造成されたなだらかな南斜面の丘陵地の中腹にあります。周辺は閑静な住宅街として整備が進められており、第1種住居専用地域に指定されています。住宅街の中にスポーツセンターを計画する事は、施設の利用のし易さの面では大きなメリットとなりますが、住環境を良好に保つという面ではかなりのリスクを負います。

そこで、建物の計画に当たっては周辺の良好な環境を維持し住宅街との調和を図る為に第1・第2競技場・プールなど空間ボリュームの大きい部屋を半地下に計画し、建物高さを規制限度内に抑えると共に、建物全体を柔らかい線で構成する事としました。また、敷地周囲を植栽帯や地域住民のための散策路に開放しています。騒音や排気ガスの原因となる駐車場はこの植栽帯の下(地下)に配置して必要量を確保し、周辺道路への路上駐車を防ぐと共に、屋外設備機器も機器自体の騒音改善とドライエリア内で処理する事によって、視角・騒音の面でも周辺の環境へ配慮しました。

(森川一郎／丹羽英二建築事務所)

所 在 地　名古屋市緑区鳴海町字大形山17番地
敷地面積　13,011.75㎡
建築面積　5,171.08㎡
延床面積　9,799.44㎡
構造規模　RC、一部SRC及びS、BIF、2F
工　　期　平成2年3月～平成4年3月
最 寄 駅　名鉄、名古屋本線鳴海駅
撮　　影　SS名古屋



地階平面図　1:1200


第1競技場


プール


ホール

北面外観夜景

西面外観

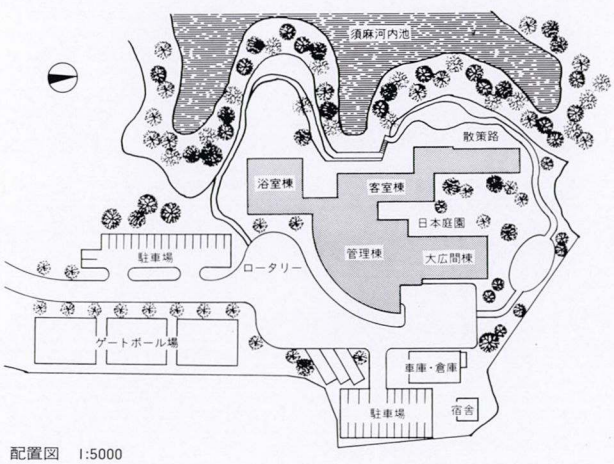


三重県老人休養ホーム「芙蓉荘」

設計監理　三重県土木部建築営繕課　安井建築設計事務所
施　　工　北村・野田特定建設工事共同企業体
　　電気　三扇電気
　　機械　三重シンリョウ・日空三重特定建設工事共同企業体

老人休養ホーム「芙蓉荘」は、社会福祉事業の一環として、老人の心身の健康の増進を図るために、三重県が県内白山町に建設した保養施設である。主な機能は、入浴・食事・宿泊などのサービスを提供することであり、設計にあたって、老人の行動特性に対する配慮がなされた施設計画、およびいかに老人が憩い、集い、そして安らぐことのできる場を作るかということがテーマとなった。
平面構成は、浴室棟・大広間棟・客室棟・管理棟の４棟から成り、敷地西側に広がる須磨河内池やその遠方に連なる青山高原の山並みを望むことができる位置に、浴室棟と客室棟を配し、四季の移ろいと共に多彩な表情を見せる美しい自然を眺められるよう配慮した。
客室は、１階・２階合わせて25室あり、計100人が宿泊できる。
客室棟と大広間棟の間には、日本庭園を設け、客室から大広間への動線は日本庭園を回遊するように展開している。
緩やかな円弧を描くエントランスホールは、片流れ屋根の形をそのまま取り入れ、各棟の接点となり、人々が集うにふさわしいボリュームのある空間とした。また、腰壁や天井・建具など各所に木材を用いて、温かみを感じる空間となるよう考慮した。
伸びやかなＲの片流れの屋根は、芙蓉の花の清楚で柔らかなイメージを表し、訪れる人を優しく包み込むように迎える。シンボルタワーは、将来大きな花を咲かせるであろう芙蓉の花のつぼみを表し、多くの老人にこの施設が利用され、また更に発展し、老人福祉の充実に一役買うであろうという願いを込めている。　（鈴木紘成／安井建築設計事務所）

所 在 地　三重県一志郡白山町大字佐田2562-1
敷地面積　33,113.0㎡
建築面積　2,590.35㎡
延床面積　3,339.86㎡
構造規模　RC、2F、一部1F
工　　期　平成３年10月～平成４年11月
最 寄 駅　近鉄榊原温泉口駅
撮　　影　津呂写真スタジオ



配置図　1:5000


南面外観


エントランスホール



客室棟廊下


客室



外観ディテール



外観西側



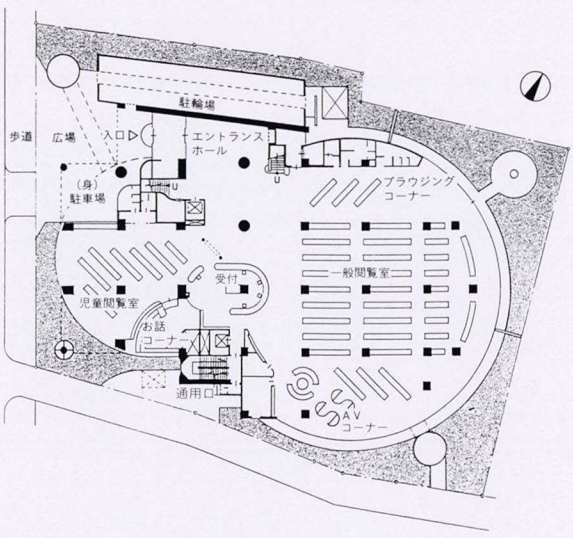
外観南西側



全景鳥瞰

清水市立中央図書館

設計監理　清水市教育委員会社会教育部新図書館建設課
　　安井建築設計事務所
施　　工　安藤・鈴与建設工事共同企業体



配置・1階平面図　1:1000

所 在 地　清水市入江岡町15番23号
敷地面積　3,031.64㎡
建築面積　1,983.05㎡
延床面積　4,988.10㎡
構造規模　RC、一部S、BIF、3F
工　　期　平成3年3月～平成4年10月
最 寄 駅　静岡鉄道桜橋駅
撮　　影　SS名古屋

清水市は、温暖な気候と三保の松原・日本平を代表とする豊かな自然に恵まれた人工約24万人の都市である。この新中央図書館は、新たな市民文化の創造と発展に寄与する中心施設の一つとして、既存の文化会館、中央公民館、文化センターなどと一体となって文化ゾーンを形成するかたちで入江岡町に新設された。

環境への配慮

敷地は県道197号線に面する住居地域と住宅街に囲まれた第二種住居専用地域に属している。不整形な敷地形態と周辺住宅街への環境の変化に伴う様々な影響、さらに対面する直方体の集合した文化施設群から受ける硬質なイメージなどに対して全体を二つの円を組み合わせた平面形としている。住宅街に接する円はセットバック形状により日影、違圧感、プライバシーに配慮し、文化会館に面する円は、その高さに対応したボリュームとしながらも、曲面により街並に個性的で柔らかな表情の外観を提供している。

アプローチ広場があるエントランス部分は、アルミパンチングメタルで覆われたトラス構造のブリッジと、それを支える円柱のモニュメントにより立体的で変化に富んだ都会的な空間を形成し、夜間のライトアップと共に街並に彩りをそえている。周辺は四季折々の表情を楽しめる様々な植栽で囲み、内外共に潤いのある景観となるよう配慮した。外装材は柔らかな表情となる曲面山型の二丁掛磁器質タイルを主体とし、1m毎にラスター平型タイルのボーダーでアクセントを加え、ボリューム感を抑えている。また、1・2階の開口部には、排煙口を兼ねたランマ部分にも、モニュメントを覆うアルミパンチングメタルを用い、全体のメタルデザインのモチーフとした。そして、パンチングパターンがつくりだす光と蔭の綾が昼夜反転しながら内外の表情に変化を加えることを意図している。

明るく開放的な内部空間

全体の構成は、地階に30万冊収容可能な閉架書庫と、熱源、空調機械室、1階に受付サービスカウンターを中心に一般開架閲覧室とお話しコーナーのある児童開架閲覧室を配している。2階には管理部門と郷土資料室、専門図書コーナー、3階に120インチのハイビジョンを備えた多目的AVホールと大小3室の会議、研修諸室を設けている。

特に、20万冊を収容できる書架を含めた様々な家具がレイアウトされる閲覧室は、明るく開放的でフレキシビリティ（融通性）に富んだワンルーム・オープンフロア空間をめざした。

そして円形平面の外周部分を閲覧スペースとし、中心部分の8.1mスパンのグリッド上に書架を配架して、一部1階の児童閲覧室・ブラウジングコーナーなどは対角状に配架し、変化をもたせた。

また、1階の天井高は3.5m、2階は3.0mを確保し、トイレ・階段などを除く外周部分は全てフレームレスの開口部で囲み、明るく開放的な雰囲気の閲覧スペースとした。さらに全ての閲覧関係の家具は特注によって、海をイメージしたブルーグリーンのナラ材染色仕上を中心として、色彩、材質、機能ともに建築空間と一体となった統一感のある内部空間とすることができた。

安全で維持管理が容易な施設として

清水市は大規模地震対策特別措置法に基づく地震防災対策強化地域に指定されており、図書館を含めた公共施設は、通常の1.5倍の構造強度が求められている。経済性と充分な構造強度を確保することを検討した上で、円形平面に適したRC造を採用し、一部大空間を要求される多目的AVホールに、16.2mスパンのPC梁を用いた。また全ての設備機器は、2階の管理事務室で集中管理を行い、少人数の一般職員でも容易に管理しやすい設備計画としている。

この図書館が、清水市全体の図書館サービスネットワークの中枢として機能しながら、広く市民に親しまれていくことを願っている。

（大島弘資／安井建築設計事務所）



1階エントランスホール



1階閲覧室



3階多目的AVホール

外観北側面

エントランス入口



JR東海太閤ビル

設計監理　安井建設計事務所
施　　工　大成・JR東海・名工・鹿島JV

JR東海太閤ビルは、名古屋の表玄関JR名古屋駅から、南西250～400m、名鉄・近鉄ビルより150m西側に位置し、東西はJR在来線と新幹線の高架に挟まれた細長い形状の場所にある。名古屋駅の表というより、裏側の駅西地区に属し、環境及び建物のグレードは決してよくない。そのような環境の中で、名古屋駅周辺の再開発の一端をになって、当太閤ビルが完成した。設計時には次のようなことを考慮に入れて設計をすすめた。

- 敷地及び高架橋の形状に合わせ狭い土地を最大限に生かす。
- 1階の車廻しをスムーズにさせる。
- 新幹線の乗客から建物にぶつかって行くような恐怖感を少しでもなくす。
- 繁雑な環境を柔らげるような、すっきりと上品なイメージをつくり出す。
- 一目みて、新幹線及び未来のリニア新幹線で代表される会社のイメージを表現する。

（中島誠男／安井建築設計事務所）

所 在 地　名古屋市中村区名駅1-3-4、1-1015（高架下）
敷地面積　6,214.87㎡
建築面積　4,706.91㎡
延床面積　22,216.91㎡
構造規模　B1・B2F：RC、1F：SRC、2～11階・P1:S
工　　期　平成2年12月～平成4年6月
最 寄 駅　JR名古屋駅
撮　　影　センターフォト



全景鳥瞰



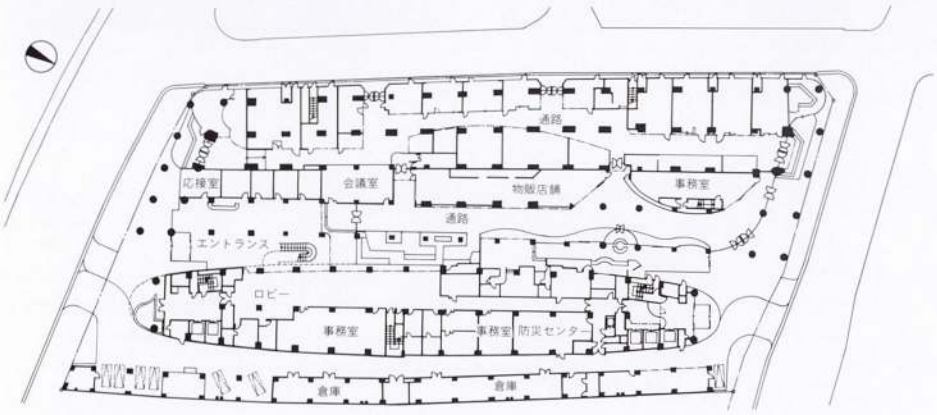
北側出入口



外観南面



1階ロビー



1階平面図　1:1200

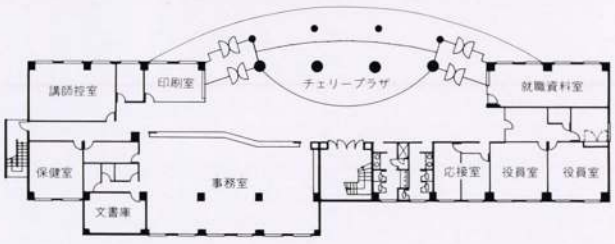
名古屋短期大学新研究管理棟

設計監理　青島設計・大西設計事務所
施　　工　清水建設名古屋支店
　　空調　高砂熱学工業


外観北面


階段吹抜廻り


チェリープラザ



1階平面図 1:800

所 在 地　豊明市栄町武侍48
敷地面積　57,679㎡
建築面積　1,069㎡
延床面積　2,760㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　1991年2月～1991年11月
最 寄 駅　名鉄本線 有松駅
撮　　影　車田写真事務所



外観北面夜景



チェリープラザ

名古屋短期大学は昭和42年現在地に移転し、当時は保育科のみの短大であった。その後時代の要請に応え、英語科・教養科を増設し、施設の拡充を計画的に実施してきている。
名古屋市の東南部に隣接したキャンパスには、近年宅地開発の波が押し寄せてはいるが、広いキャンパスのまわりには、まだ緑の雑木林が残されていて、季節によってはいろいろな小鳥たちが集まってきている。
この新研究管理棟は、大学の教育・研究の中枢としての役割を果たすべく計画された。
学校法人桜花学園は「気品に富み、洗練された心豊かな近代女性の育成」を目指しており、そうした学園の教育理念をふまえ、女性のもつエレガントな優しさを、玄関の庇や屋根の庇に、柔らかな曲線を使って表現した。
また、外壁のタイルは花びらをモチーフとして、デザインしたものを、特別に焼きあげて使っている。
（近藤敏夫／青島設計）



外観見上げ

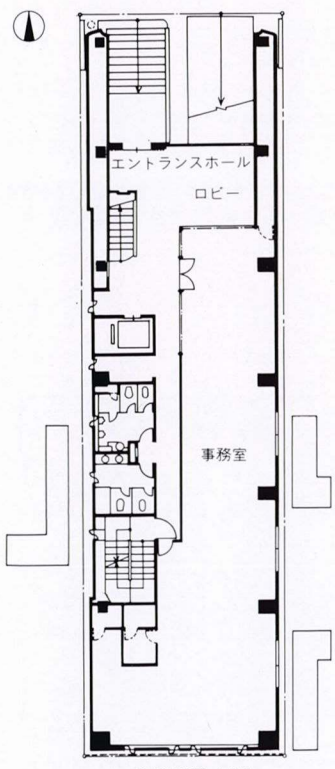
住総名古屋ビル

設計監理　青島設計
施　　工　戸田建設名古屋支店

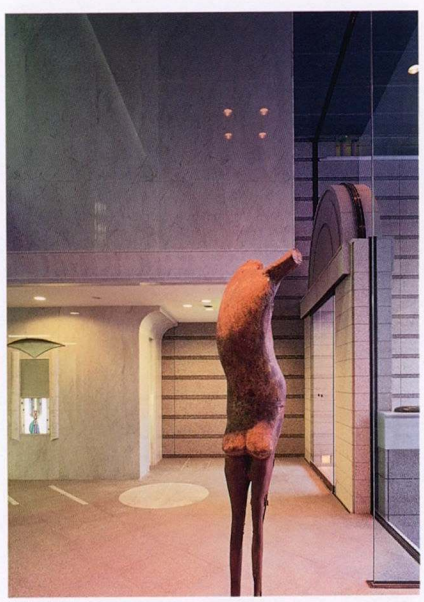
所 在 地　名古屋市中区栄二丁目402-1,2,3,4
敷地面積　413.16㎡
建築面積　369.94㎡
延床面積　3,714.44㎡
構造規模　SRC、一部S、B2F、8F、PI
工　　期　1990年9月～1992年1月
最 寄 駅　地下鉄東山線伏見駅
撮　　影　そあスタジオ

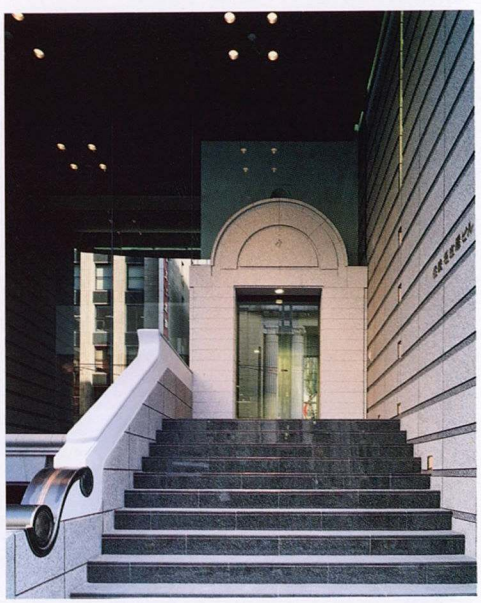
住総名古屋ビルは名古屋市の中心、広小路通りに面し、銀行、証券会社が多く、特に大正・昭和初期の建物が点在するオフィス街に誕生したテナントビルである。
建物はその時代性とそれを取りまく環境の中に調和したものであるという概念により、周辺の建物を強く意識して、その重厚なルネッサンス様式を取り入れた「レイトモダニズム」の思考で足元をデザインした。この様に歴史の重み、また、建物自体の重厚感・落ち着きの表現を演出した。
上部はインテリジェントビルのファサードをイメージした「ハイテク」の思考でデザインをし、より近未来的感覚の顔を演出した。つまり、古い部分と新しい部分の調和と共生を試みた建物である。
内部はスペース効率の追求は当然であるが、ニュートラムな表現の中にも上記の様な概念を考慮したアメニティー指向や主張をインテリアとしてまとめた。　（堀部吉洋／青島設計）


エントランス（夜景）



1階平面図　1:400


ロビー


アプローチ



外観

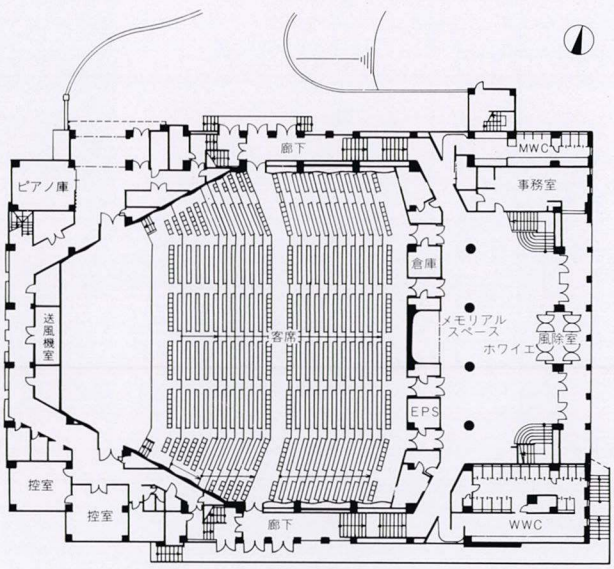
金城学院大学ランドルフ記念講堂

設　計　大成建設名古屋支店一級建築士事務所　丹羽英二建築事務所
監　理　丹羽英二建築事務所
施　工　大成建設名古屋支店

所 在 地　名古屋市守山区大森2-1723
敷地面積　127,087.23㎡
建築面積　2,634.92㎡
延床面積　4,525.49㎡
構造規模　SRC、一部RC、S、BIF、2F
工　　期　平成３年２月～平成４年９月
最 寄 駅　名鉄瀬戸線大森・金城学院前駅
撮　　影　エス ゴトウ



正面外観



１階平面図　1:800



客席ホール

ランドルフ記念講堂は、1889年創設の金城学院創立100周年記念事業として計画された。名古屋市北東部の大森丘陵に立地する金城学院大学の緑あふれるキャンパスの環境特性を最大限に生かすことを計画のテーマとした。

収容能力1698席の当講堂は、キリスト教の礼拝をはじめ各種式典や、講堂としての本来目的の他に、各種演奏会にも使用可能な多目的ホールとしての機能が要求された。そのため、フルオーケストラの演奏にも十分応えられる様、ローランド社と共同開発した音響設備「AMUSA」を採用している。当敷地の上空は、航空機の進入路にあたるため、遮音には特に考慮している。

ホール左右の壁面には「イエスの生涯」と名付けられた総面積98㎡になるステインドグラスを設け、他に類を見ない講堂としている。建物の外観は、切妻の屋根と彫りの深い縦長窓で、端正な垂直線強調の壁面で構成し、重厚で存在感のある建物としている。十字架とカリヨンを持つ高さ48mの尖塔は、キャンパスのシンボルとして緑の大森丘陵に美しくそびえ立ち、学院のランドマークとしての機能を十分に果たしている。この講堂へのアプローチは、明るい舗石のゆるやかなスロープで、両サイドにコンクリートの列柱を配し、訪れる人に気分の盛上りを与えている。

当講堂は、学内のみならず、一般市民にも開放されることになっており、地域文化の向上にも貢献できることを期待しています。

（市江文雄/大成建設名古屋支店）



ホワイエ

ホテルプリシード名古屋

設計施工　大成建設名古屋支店

所 在 地　名古屋市中区栄4-6-1
敷地面積　1、003.25㎡
建築面積　790.41㎡
延床面積　7、969.14㎡
構造規模　SRC、一部S、B1F、14F
工　　期　平成2年10月～平成4年8月
最 寄 駅　地下鉄栄駅
撮　　影　三輪写真事務所

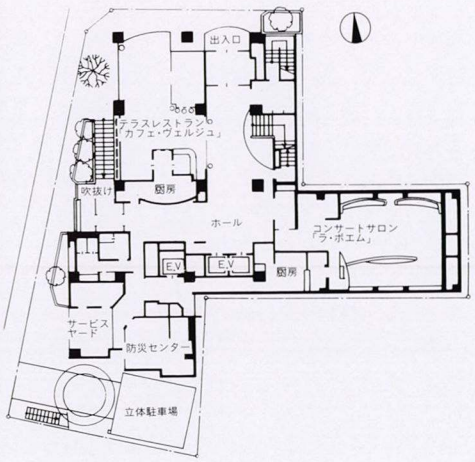


正面外観見上げ


階段吹抜ホール(2階)



正面エントランス廻り



1階平面図　1:800

ホテルプリシード名古屋はシティホテルとビジネスホテルの中間層のニーズに応えるべく比較的広い客室をリーズナブルな料金で提供することをコンセプトとして計画された。敷地は名古屋の目抜き通りである広小路通りに面した名古屋の中心街で、特に夜ともなれば人通りが絶えない場所にある。レストランにもそれぞれテーマ性をもたせこの規模にしては多く、それぞれの店舗が独立しても成り立つような強いコンセプトを持っている。格調と眺望を重視し出来る限りの高層化を目指し、名古屋市総合設計制度の斜線制度の緩和をうけている。その為、公開空地を道路側にとり歩行者に開放し、街に開かれたホテルとしての公共性を確保することができた。

1、2階のレストランは全面ガラス張りとし街並みに対して開き、特に夜ともなればライティングの効果と重なり、街行く人々を自然に誘いこむような雰囲気にしている。

外観は、緩いカーブで洗練された柔らかさ、楕形やスリットでシャープな都会的雰囲気をミックスさせ、控え目な中にホテルとしての存在感をアピールしている。北壁面両サイドには彫刻家中島和弘氏の金箔を貼ったイコン「夢の生命体」を配しライトアップのカバーも兼ね都市に対しての存在を強調し、エントランスには彫刻家石浜学作の「オープン・フェイス(開かれた表情)」を設置し利用者を迎えるのにふさわしい空間としている。

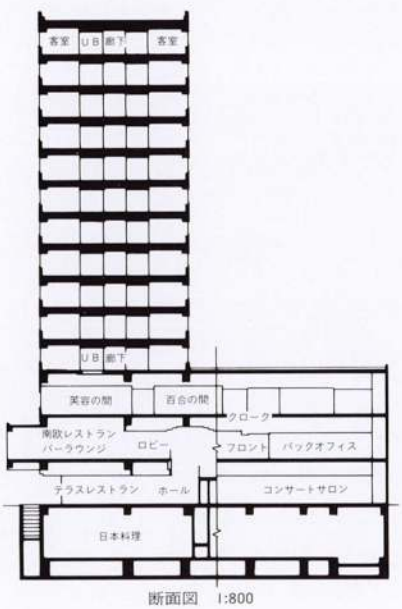
インテリアパブリック部分は、ポテチーノとキャンテイグリーンを模様貼りすることにより空間に動きを与えている。また照明は全て電球色を使用し、アットホームな雰囲気を狙い、特に2階のフロントへの吹抜けには利用者を暖かく迎えられるよう、ベネチアンガラスのシャンデリアを設けている。

(富川桂二郎/大成建設名古屋支店設計部)



外観夜景


2階フロントロビー



断面図 1:800

東海銀行徳川町家族寮

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　大林・東海・六合共同企業体

外観北西面

徳川町は、名古屋城から東へ１㎞余りの便利の良い所であるが、周囲には古くからの閑静な住宅が建ち並び、近くには尾張徳川家の家宝を所蔵する徳川美術館もある。もともと、４棟56戸の低層住宅が建っていたが、老朽化が目立っていた。社宅の戸当り面積の規準も75㎡と増えた事もあり、この際、洗面への給湯、浴室の大型化、４居室全室クーラー取付可能等、量・質共に向上が図られた。
敷地の東西で４mの高低差があり、これを利用して東棟の地階に倉庫と電気室を、西棟の１階に駐輪場と受水槽室を設けることによって、最下階住戸のプライバシーを確保するとともに、分散され繁雑になりがちな機能を一棟に納めた。
日影を最小限にし、東西隣家への圧迫感を軽減する為、建物の両肩を削り一枚の大屋根を架けることで、波をイメージした外観とした。北側の手摺壁にもこの屋根の形をデザインしたグリルを嵌め込んで、軽快でリズミカルな正面外観とした。

（小田義彦/伊藤建築設計事務所）



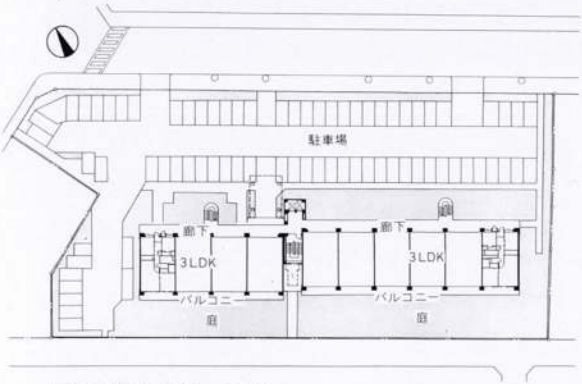
エントランス廻り

所 在 地　名古屋市東区徳川町2005番
敷地面積　4,604.32㎡
建築面積　　972.87㎡
延床面積　9,391.31㎡
構造規模　SRC、B1F、8F
工　　期　平成3年10月～平成5年1月
最 寄 駅　名古屋鉄道瀬戸線森下駅
撮　　影　加藤敏明

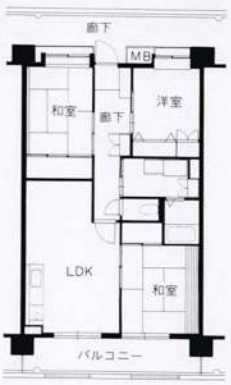

外観北面


南面見上げ

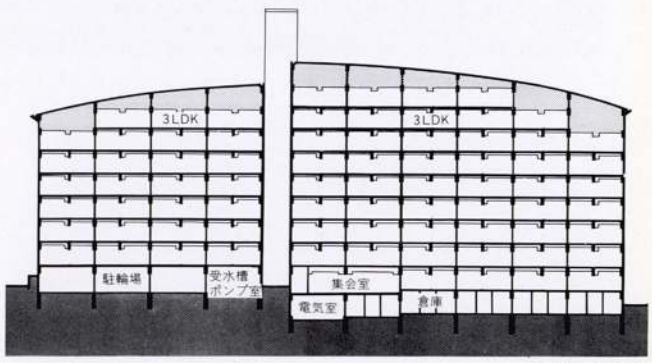

北面ディテール



配置兼基準階平面図　1:1500



ユニットプラン　1:300



断面図　1:1000



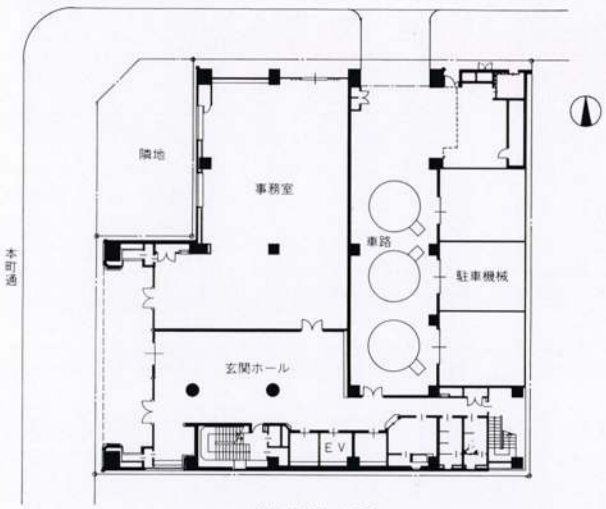
本町通り全景

錦SISビル

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　竹中工務店名古屋支店

名古屋城と熱田神宮を結ぶ御幸本町通りに面し、桜通りにほど近いオフィス街の中心に建つ貸事務所ビルである。S.I.Sの頭文字を持つ三社の区分所有ビルとして、容積を目一杯に消化し、効率を最優先に考えた計画がなされた。西南角の隣家を狭んだ形で建っており、本町通り(西)側にビル玄関を設け、北側に荷捌きと92台の車の出入口を設けた。
各階約200坪の事務所は、OAフロアーや、天井吊空令ヒートポンプによる局所空調等、インテリジェントオフィスとしての機能を備えている。外壁のリブ付タイルを打込んだPC版と、サッシの両側に取付けたステンレスボーダーが、太陽光によって様々な表情を見せる。エントランスにある2層分のアーチは、正面性と格調高さを強調し、来訪者を自然に玄関へと誘導してくれる。　　(小田義彦/伊藤建築設計事務所)

所 在 地　名古屋市中区錦三丁目10-33
敷地面積　1,040.99㎡
建築面積　933.89㎡
延床面積　7,774.42㎡
構造規模　SRC、B1F、8F
工　　期　平成3年5月～平成4年9月
最 寄 駅　地下鉄桜通線久屋大通駅
撮　　影　SS名古屋



1階平面図　1:600



基準階平面図　1:600


北東全景


北東全景(夜景)

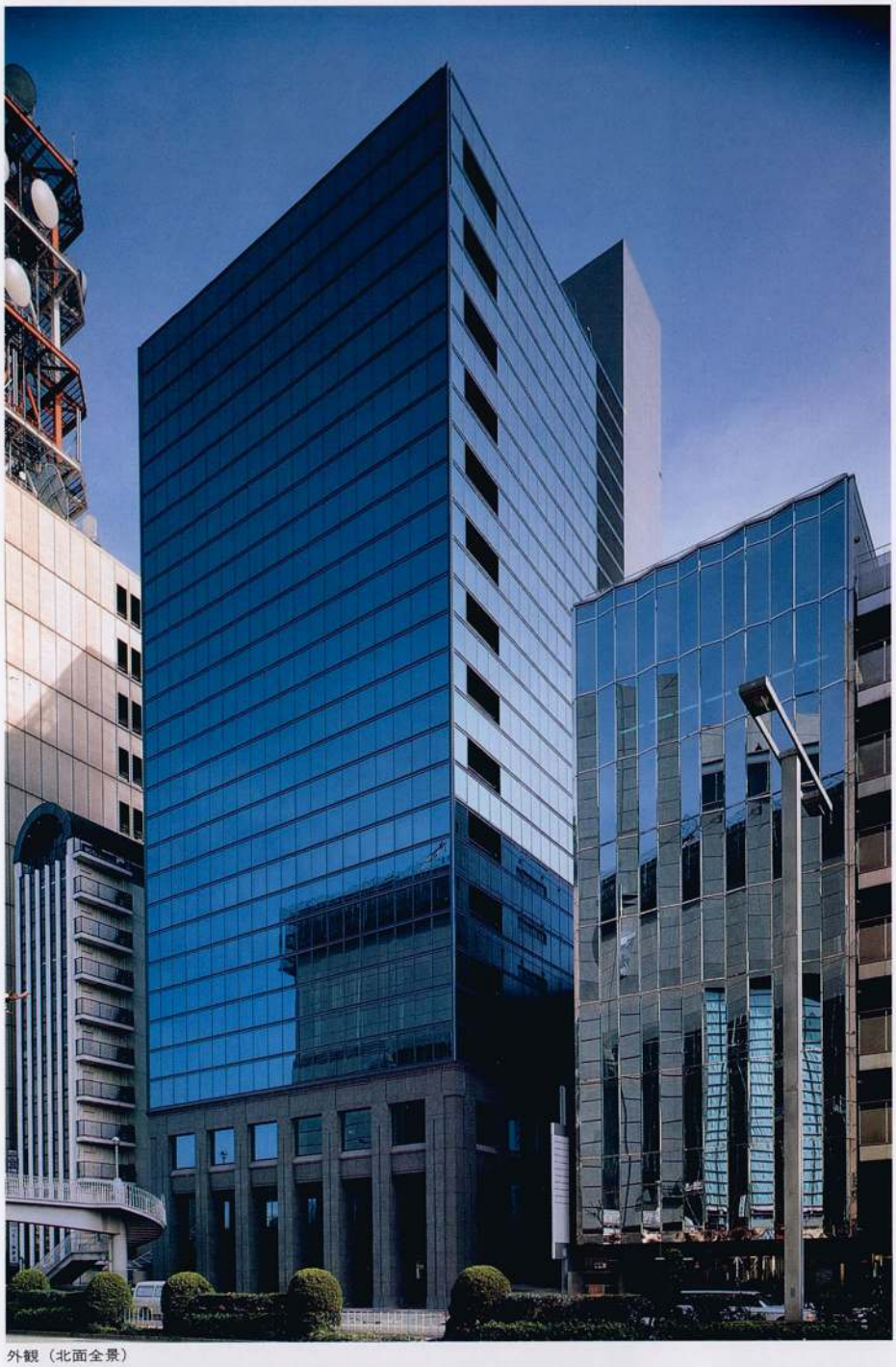


玄関廻り

坂種栄ビル

設計施工　竹中工務店名古屋支店

所 在 地　名古屋市中区新栄町２丁目４番地
敷地面積　1,437.63㎡
建築面積　1,279.58㎡
延床面積　13,643.88㎡
構造規模　SRC、RC、S、B2、16F、P3
工　　期　1990年４月～1992年３月
最 寄 駅　地下鉄東山線 栄駅
撮　　影　田中昌彦



外観（北面全景）



外観（北面基壇）



外観（１階エントランスプラザ）



内観（１階エントランスホール）

この坂種栄ビルは、名古屋栄地区の錦通りに面した中心地区に位置し、錦通りをはさんで、'92年秋オープンの愛知芸術文化センター、周辺には、新築オープンしたNHK名古屋放送センター等があり、文化の香り高いビジネス街として注目されています。

この地で昼間・夜間の栄保育園として永く社会に親しまれてきた建物を建替え、保育園を併設した新しいテナント複合ビルとして企画事業化されました。地下1階・2階は自走式駐車場、地上1階はエントランスホール、貸事務所、2階には栄保育園、3階から16階は貸事務所で構成された高さ60mの複合ビルとなっています。

外観は様々なデザインの建物の混在した周辺に対しシンプルで端正な表現としました。花崗岩ジェットバーナー仕上によって構成された三層の基壇は、重厚な柱列の安定した美を表現し、上層階のブルー系の高性能熱線反射ガラスのアルミカーテンウォールのシャープな軽快美と呼応させました。刻々と変わる自然と、都市の表情をガラスカーテンウォールは写し込み、自然光に微妙に変化する花崗岩の表情と相まって都市の新しい風景をつくりだし、新しい都市環境を創出しています。

平面プランは、2階に配置された保育園の屋外遊戯場を、避難広場を兼ね同一フロアに設定することにより、基準フロアはシンプルな矩計平面としました。1階は錦通りに面し、柱列で囲まれ開放されたプラザはエントランスへと続く導入空間、都市と建築の接点空間とし、街並に変化と奥行を与えています。

(北原晴男／竹中工務店)



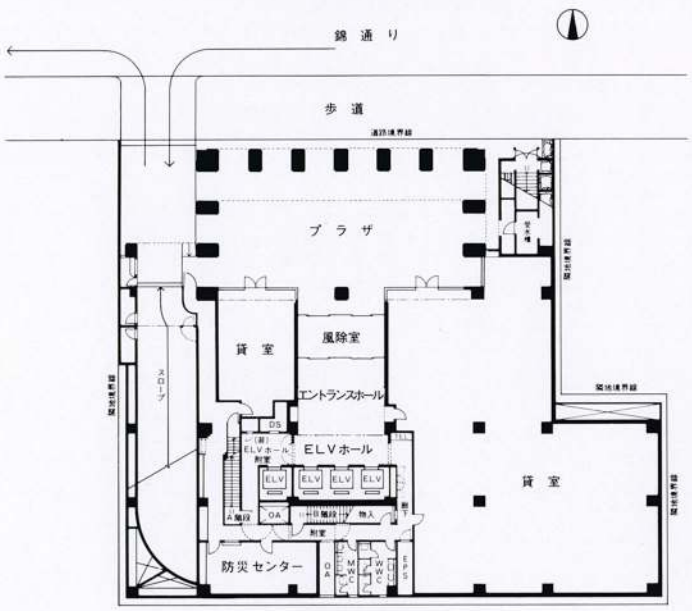
保育園アプローチ


保育園ホール


保育室



基準階平面図（4階～16階）



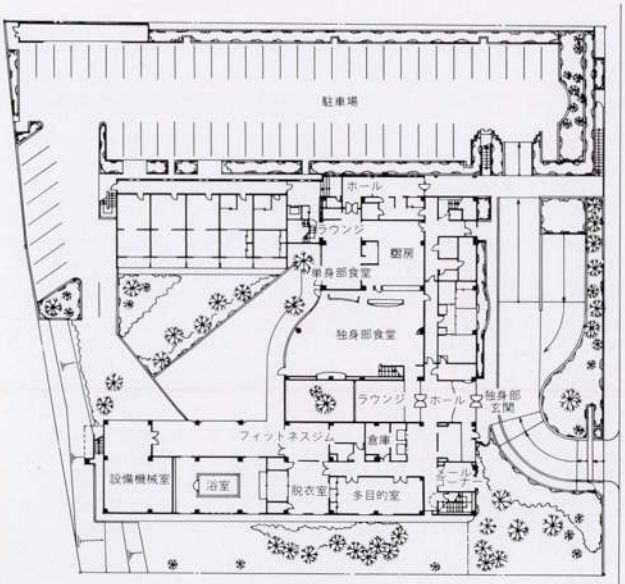
配置図・1階平面図　1:600



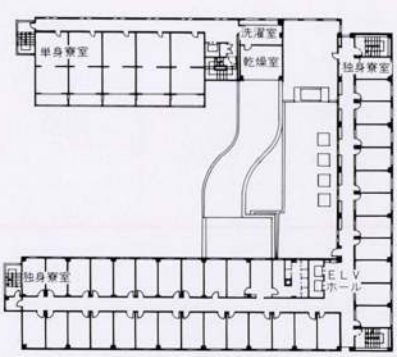
正面外観

岡谷不動産滝川町ビル(東京海上杁中寮)

設計施工　竹中工務店名古屋支店



配置図・1階平面図　1:1000



3階平面図　1:1000


中庭


独身寮棟 外観


中庭夜景


独身寮 食堂

所 在 地　名古屋市昭和区滝川町47-94
敷地面積　5,473.20㎡
建築面積　3,178.42㎡
延床面積　8,382.08㎡
構造規模　RC、B1、6F
工　　期　1991年4月～1992年4月
最 寄 駅　地下鉄鶴舞線杁中駅
撮　　影　青山賢三

企業が提供する社宅や寮は人々の価値観や生活意識の変化とともに変わってきている。
本計画は、ゆとりある生活空間を創出すると同時に、その建物は、地域社会に企業イメージを伝える「顔」でもあると考え、計画した独身寮及び単身寮である。
敷地は名古屋市東部の、緑豊かな丘陵地にあり住宅地が連なる閑静な文教地区である。
この良好な周辺環境との積極的な調和をめざすため、建物前面にはゆとりのある空地を配し、敷地全体にわたる緑の再生を図ると共に、駐車場は地下機械式駐車施設を設置することで街並みの景観にも配慮した。
独身寮と単身寮は、管理部門をはさむ明確なゾーニングとすると共に、中庭の緑を囲むコの字型プランで一体感のあるものとし、ゆとりある空間・我が家という感覚で生活できるようパブリックスペースの充実を図った。
外観の表現は、素材感のあるアースカラーの外壁と大小様々のシルバーグレイの曲面屋根で全体を構成し、人にやさしい建築を追求した。
ピアノ曲線のカーテンウォールを通して中庭へ開かれた食堂は、フローリングに木製の家具を配し、2層の吹抜と柔らかなトップライトで構成された奥行きのある空間で、自然の光と豊かな緑を最大限楽しめるようにした。
寮棟に包まれつつ周辺緑地へと広がる中庭は、自然と交歓の場をつくり、寮生活における心のよりどころと、うるおいを与えるだろう。

（長田幸規／竹中工務店）


独身寮 ラウンジ

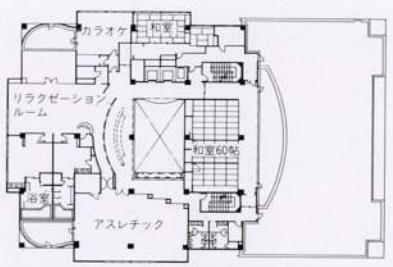
豊田工機厚生年金基金会館

設計施工　竹中工務店名古屋支店

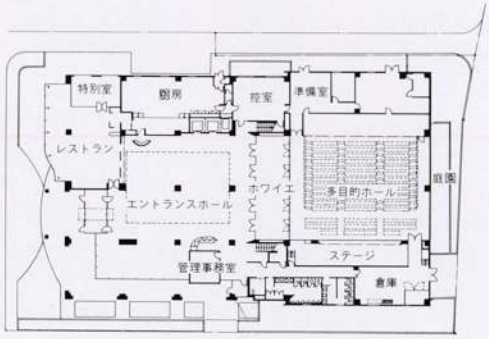
所 在 地　愛知県刈谷市昭和町２丁目２番
敷地面積　4,320㎡
建築面積　2,034㎡
延床面積　6,186㎡
構造規模　RC、SRC、S、5F、PI
工　　期　1991年４月～1992年７月
最 寄 駅　JR東海道線 刈谷駅
撮　　影　河野　豊



外観・夕景



3階平面図



配置図・1階平面図　1:1200

豊田工機㈱の創立50周年を記念し、21世紀に向けて、社員の福利厚生の充実、企業イメージの向上を期して計画された厚生施設である。敷地周辺がトヨタ系列の自動車部品工場や組立工場で囲まれている現状を考慮し、『工場群の中のオアシス』としての役割を担う事を意図した。

施設構成として、1～3階は厚生年金会館の諸施設、4階は労働組合の事務室・会議室、5階には会社の応接室が組み込まれた複合施設である。

多様な機能をもつこの複合施設のデザイン手法として、閉じられた箱を外へ開放するファサードの幾何学的構成、内へ連結するアトリウムを中心とした明るく柔らかな空間構成を展開している。

ファサードは、4面にわたるシンメトリカルな構成を基調としながら、低層部でマッスであるものが上層でフレームとなり徐々に開放され、上昇していくイメージを用いて、企業の飛躍と発展を表現している。

内部アトリウムは、工場地域のオアシス『光と緑の空間』として、自然の光に包み込まれる空間創りを目指している。透明ガラスのトップライトから入射した光は、キャンバス製ルーバー、反射ミラーという『光の変換制御装置』を経由する事により、徐々に柔らかくなり、内部空間へと浸透していく。『光の井戸』のようなこの内部空間では、四季により移り変わる日差しを肌で感じ、空を流れる雲を体感して、リフレッシュ効果が得られる。この領域は、異なる機能の諸室を結びつける役割を果たし、機能と空間と人の良好な関係をもたらすインターフェイス空間となっている。

（市川健二／竹中工務店）



アトリウム



エントランスホール



寮棟南面外観



東面外観



共用棟和室



寮室

ダイワ親和寮

設計施工　竹中工務店名古屋支店

所 在 地　三重県員弁郡大安町大字梅戸字大欠上2078他
敷地面積　2,814.15㎡
建築面積　665.24㎡
延床面積　1,523.63㎡
構造規模　RC、S、3F
工　　期　1991年10月～1992年４月
最 寄 駅　近鉄富田駅より三岐鉄道大安駅
撮　　影　田中昌彦

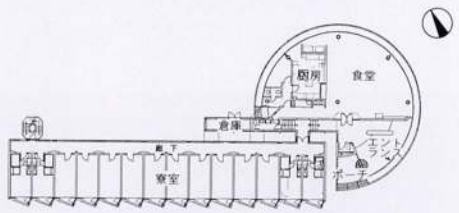
建築主は建築の主要な外装構成材であるプレキャストコンクリート製品のトップメーカーである。寮の計画にあたっては、工場に近い立地も活かしPCa板をさらに発展させ構造体として用い、快適な寮室空間・美しい構造体・高い生産性のそれぞれに調和ある解決を求め、外壁・間仕切壁・床スラブをPCa板で構成する壁式プレキャスト構造とした。

寮棟の折壁状の南面は１つの型枠で構成されており、寮室相互のプライバシー・寮室に明るさと落ち着きを与える二つの窓、と構造体としての壁量のバランスの結果である。

共用棟は寮棟のコンクリートのマッスに対比させ、円形を用いて鉄骨造・アルミ・ガラスの軽快な構成とし、エントランスホールからまっすぐ延びる階段とブリッジにより寮棟へアプローチしている。

PCa板に施された精緻なストライプのモールディングが折壁のリズムと相まって陽光に反応し、柔らかな光と影を綾なして親しみを与えコンクリートの生地の素材感を高めている。

（中野　朗/竹中工務店）



１階平面図　1:1000



南面外観



南面外観

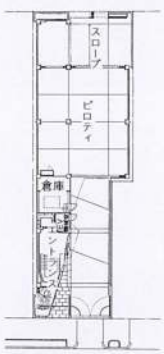


ピロティより正面を見る

ダイワ名古屋事務所

設計施工　竹中工務店名古屋支店

所 在 地　名古屋市昭和区鶴舞２丁目504番地
敷地面積　488.80㎡
建築面積　274.99㎡
延床面積　1,047.40㎡
構造規模　S、4F
工　　期　1992年２月～1992年８月
最 寄 駅　JR中央線・地下鉄鶴舞線鶴舞駅
撮　　影　田中昌彦



1階平面図　1:1000

寮に引き続き計画した名古屋事務所である、建築主の積年の夢であり、分散されていた各部署を集結し一層の飛躍を期して計画されたものである。敷地は鶴舞の南西、駅より徒歩で５分程の周辺には住居が混在する近商地域である。内外に融和するコートオフィスをイメージし、住居と共存できる繊細で透けた建築を目指し、敷地を有効に活用すると共に周辺への調和に留意した。エントランスを南側前面にとり、１階は南北に通り抜けるピロティとし、２～４階に事務所を配した。南面の飛翔する階段・廊下の透けた構成が南北に開かれた事務室と見る見られる豊かな空間を形成している。ここでも美しい工業化建築を目指し、プレキャストにより複合化された鉄骨柱を建方し、梁とジョイント部に当社と共同開発した厚さ95㎜のSFRC板(ステンレス繊維補強PCa板)を用いてフレームを構成し、柱間にサッシ・ガラス・ステンレスモール入SFRC板・タイル打込みSFRC板を嵌め込むシンプルな構成とした。目地幅20㎜という高い施工精度が要求されたが関係者の周到な計画と管理により所期の目標が達成できた。

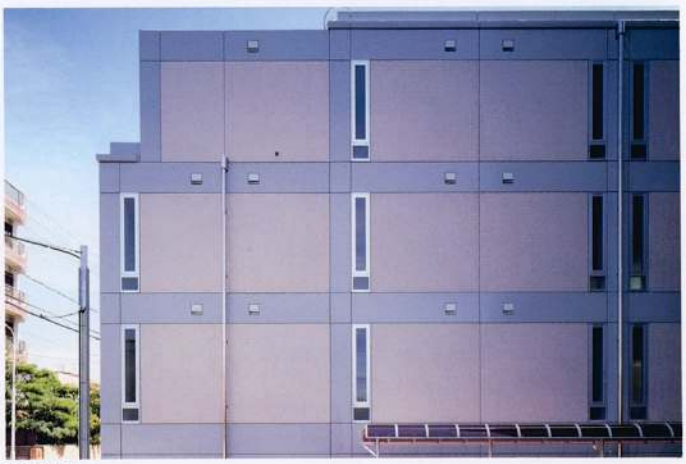
(中野　朗/竹中工務店)



夜景



階段



西面外観

小牧ロイヤルホテル

設計施工　清水建設名古屋支店



外観


大宴会場


エントランスホール


アトリウムラウンジ

当ホテルは、明治村・小牧城などの名所・観光地からほど近く、名古屋空港から至近距離にあるが、名古屋市内からはやや離れた場所に位置している。今回計画は既存建物の北側にホテル棟、南側にアスレチック棟を増築し、合わせて既存建物の大幅なリニューアルを行ったものである。

立地より、シティ感覚とリゾート感覚との共存をテーマに、石畳、列柱、水といったクラシカルな要素をモチーフに豪華さとエレガントさを表現している。また、既存ホテルのイメージを払拭するために、既存宴会場の模様替え、チャペル、和風宴会場、アスレチック施設の新設を行った。

エントランスは3層吹抜のアトリウムを中心に1Fにラウンジ、和・洋食レストラン、2Fに各種テナント、3Fに大宴会場を配置し、列柱をテーマにデザインをまとめている。

客室は国内利用だけでなく、海外からのビジネス客もターゲットとするために、シングルルームが全体の7割を占める構成となっている。客室階は隔階ごとに色調を変えることにより変化を与え、女性専用の客室階の設置、B1Fには女性の広場を設けるなど新しい試みもしている。

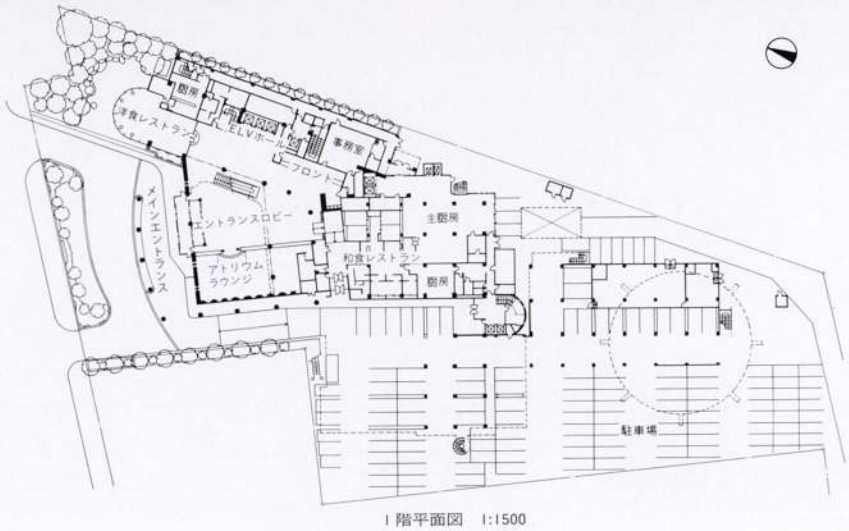
最上階には飛行機の離着陸を眺められるスカイレストラン・バーを設置し、小牧で最高の高さを誇るホテルの特徴を生かしている。

（金子　巧／清水建設名古屋支店設計部）

所在地　愛知県小牧市舟津字神田746-3
敷地面積　9,226.35㎡
建築面積　4,685.29㎡
延床面積　18,754.07㎡
構造規模　S、一部RC、B1、16F
工　　期　平成2年5月～平成3年9月
最寄駅　名古屋鉄道犬山線岩倉駅
撮　　影　アラ井建築写真事務所


レストラン（夜景）


チャペル



1階平面図　1:1500

山善ロジス西日本

設計施工　清水建設名古屋支店

所 在 地　三重県上野市佐那具町字金神塚1781-3
敷地面積　15,719.31㎡
建築面積　 9,425.65㎡
延床面積　14,702.67㎡
構造規模　S、2F
工　　期　平成3年9月～平成4年7月
最 寄 駅　近畿日本鉄道伊賀線上野市駅
撮　　影　SS名古屋



外観西面



外観西北面夕景


玄関廻り

建物は、伊賀焼で名高い上野・名阪国道沿いの工業団地の一角に位置しており、大阪の卸問屋・山善の西日本地区の物流拠点として、建設されたロジスティクスセンターである。企業のCIカラーであるグリーンを基調にした〈グリーングレー〉で色どられた外観と、アクセントとなる事務棟のカーテンウォール、フレーム、丸庇は、当施設がロジスティクスセンターとしてのみならず、ショールーム的機能を併せもつことから計画され、さらに、夜間は、ライトアップされ、名阪国道沿いへのアピール性を強調するとともに、企業イメージの高揚に寄与している。

内部の倉庫・荷捌ゾーンは、コンピューターにより自動化された立体倉庫が併設され、比較的メカニカルで単調な空間に対し、原色のアクセントカラーをリズミカルに配することにより生産活動の躍動感を表現し、視覚的にも心のなごみを与える色彩計画としている。

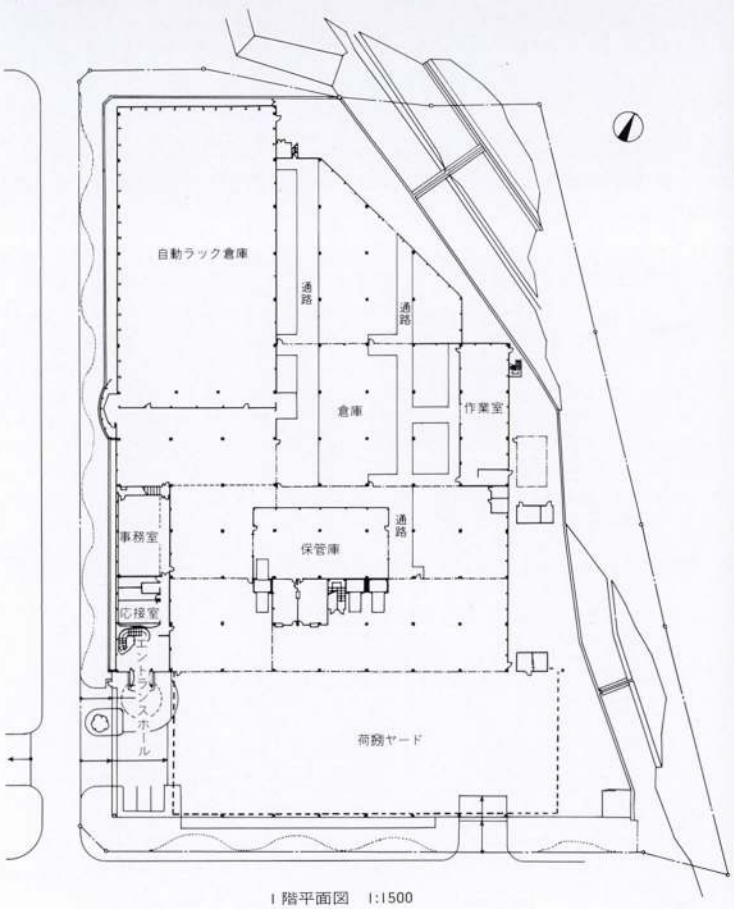
また、事務ゾーンは、施設を運営、補完する管理・厚生部門と、ショールーム的機能の主体となる展示室の接客部門とで構成されるが、その顔となるエントランスは、吹抜、伊賀焼のレリーフ、モニュメント的階段等であしらい、来訪者をフォーマルに迎え入れるのに充分な空間となっている。

単に物流機能のみならず、企業の顔として、付加価値の高い新しい形体のロジスティクスセンターとなっている。

（宮本昌明/清水建設名古屋支店設計部）



外観西面ディテール



1階平面図　1:1500



エントランスホール



倉庫・荷捌ヤード

オークマ株式会社可児工場

設計監理　東海設計
施　　工　日本国土開発



第Ⅰ期工場 正面外観

工作機械メーカーの名門オークマ株式会社は、21世紀に向けて更なる発展の根拠を定めるべく、岐阜県可児工業団地に数年前30haの用地を確保した。この広大な用地にマスタープランを作成し、第Ⅰ期は主として電装部品工場、第Ⅱ期として主要工作機械工場を建設した。

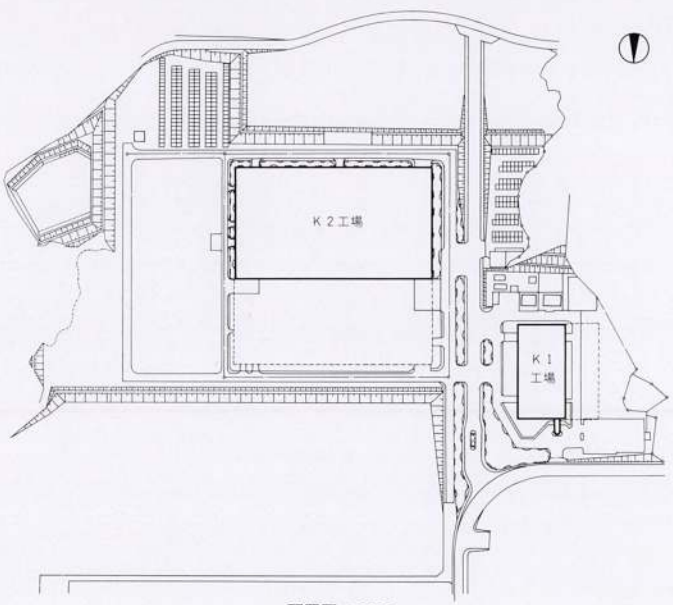
敷地は丘陵地を造成したので、南から北へ向けて4段の宅地造成となり、用地利用に大きな制約条件となった。この宅盤をどう結ぶかが工場建設の要点となり、討議の結果、北側団地幹線道路の曲点から宅盤に直角に南の公道へ幹線道路を通すことに決定した。

エネルギー供給、給水のための共同溝計画等、また、幹線道路には融雪装置を設ける等今後の工場建設に柔軟に対応できるよう計画している。

工場は、製品精度確保のため空調設備を設け、また、外壁・屋根共保温効果と工場内騒音の吸収効果のあるALC版を採用している。

広大な工場内の内部は人工照明に頼るだけでは陰気になりがちであるので、アクリドームによる天井採光を計画した。これによって工場内の環境は予想以上に快適な空間となった。また、将来の無人化工場に対応すべく、揚重計画自動搬送装置等コンピューター制御が可能な設備を計画した。

（建築家・小坂忠勝）



配置図 1:3000

所 在 地	岐阜県可児市下切姫ヶ丘1-3可児工業団地内	
敷地面積	305,342.63㎡	
	Ⅰ期	Ⅱ期
建築面積	4,346.84㎡	19,548.61㎡
延床面積	5,225.91㎡	23,494.53㎡
工　　期	1988年5月 ～1988年10月	1991年3月 ～1992年2月
構造規模	S、平屋建、一部2F	
最 寄 駅	JR高山線可児駅	
撮　　影	SS名古屋	



第Ⅱ期主力工場 西北面外観



同上 工場内部



エネルギー集中監視室

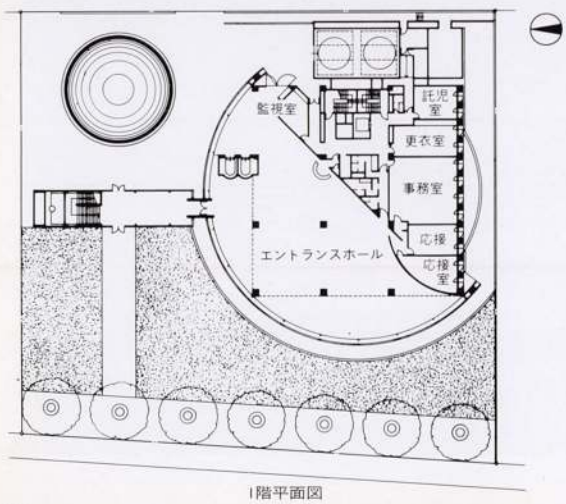


同上 東南面夜景

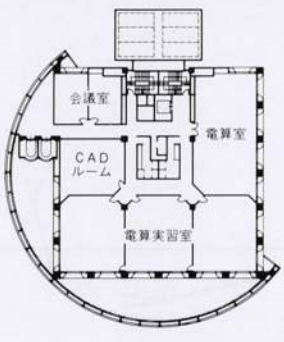
メイテック 神戸テクノセンター

設計・監理　日建設計・名古屋
施　　工　飛島建設

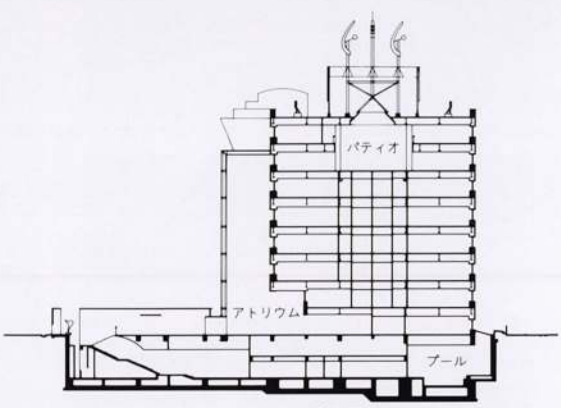
外観



1階平面図



5階平面図



断面図

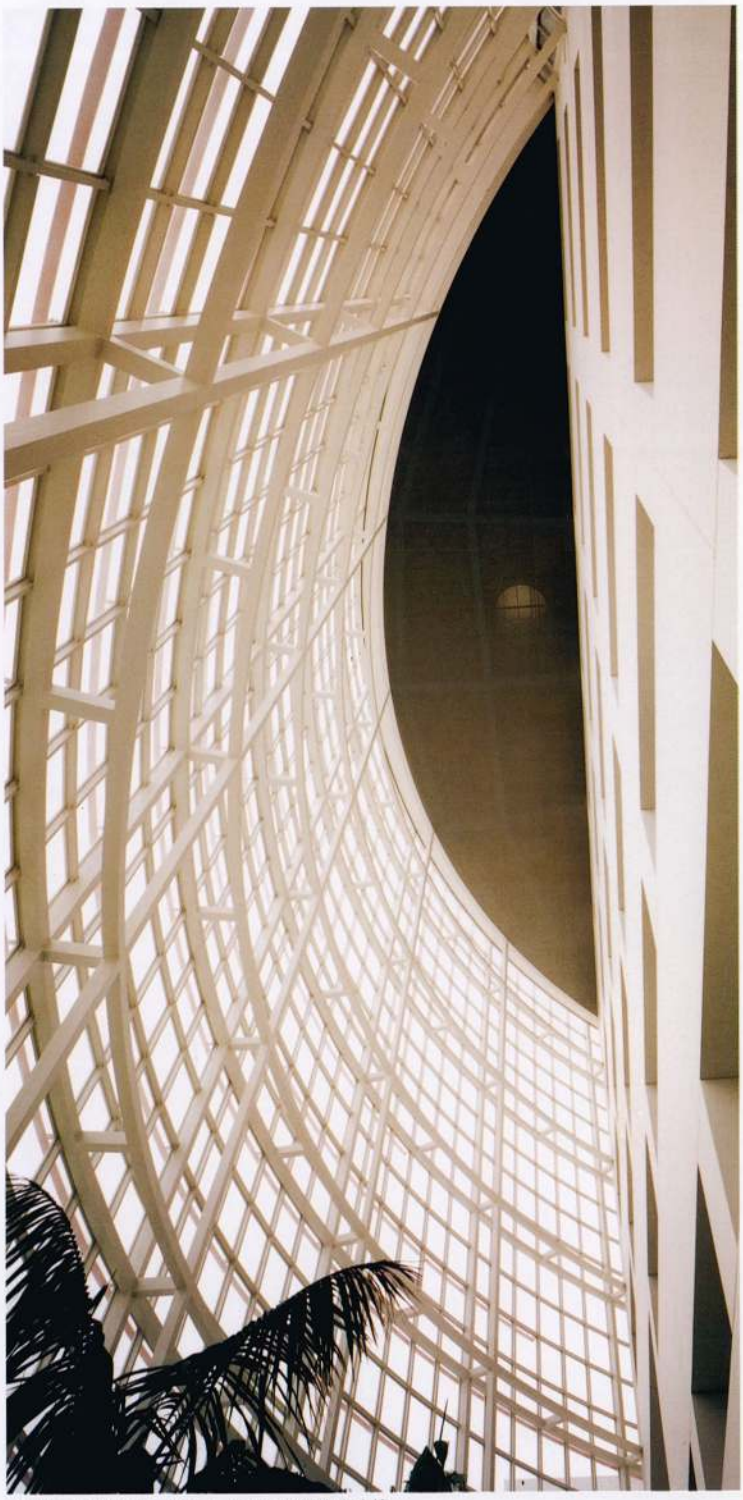
0　10　20　30m



夜景:内部の立方体が姿を表す



アトリウム内観



アトリウム見上げ:フィーレンデール・トラスの繊細な表情

メイテック社は、技術、ソフトの開発と、技術者を育成し、人材派遣を行う技術商社であり、このテクノセンターは、技術者の研修・育成の拠点として計画され、神戸市の学園都市駅近くに位置している。建物には企業CIとしてのシンボル性と、女性技術者の育成という企業テーマにもとづき、やさしさと繊細さが求められた。建物は、8階建の「立方体」と、その2面を覆う「半円筒形」のガラス・カーテンウォールと、その狭間に生まれる7層吹抜のアトリウムにより構成される。アトリウムは、各階の様々な分野の人々が共通に体験できる空間として計画された。アトリウムを覆うガラス面には白いドット模様をセラミック印刷し、紗幕の効果を引き出すことにより、視覚的に外部と内部の中間領域を演出している。一方、カーテンウォールを支持するフィーレンデール・トラスは、アトリウムに繊細な表情を与えている。

(高山順行・日比野満喜男・若林　亮／日建設計・名古屋)

所在地　神戸市西区学園東町2-1-2
敷地面積　4,000.11㎡
建築面積　1,580.00㎡
延床面積　10,589.65㎡
構造規模　SRC、S、B3F、8F、PI
工　期　1990年7月～1992年1月
最寄駅　地下鉄西神線学園都市駅
撮　影　SS大阪



セラミック印刷のディテール

東京第一ホテル魚津

設計・監理　日建設計・名古屋
施　　工　鹿島・関口組・朝野工業・千田建設・山形建鐵 J.V.



外観西側

この施設は富山県東部の中核都市、魚津市に市を代表するシティリゾートホテルを目指して計画された東京第一ホテルのチェーン店である。
本事業は、県内財界により設立された日本海シーライン開発株式会社の個人施行による市街地再開発事業であり、財界はじめ各界の交流施設として企画され、地域コミュニティサロンの役目をもっている。
1階は、ヒューマンスケールのロビーを中心にラウンジ・庭園に面したカジュアルレストラン、2階は市民の交流の場としてのバンケットゾーン、3階は屋上和風庭園を中心に和食レストラン・和宴会場を配した構成となっている。
客室は、4階～8階の高層部に設け、間近に見える立山連峰と蜃気楼のたつ日本海を景観として取込んだ配置とした。魚津市が一望できる最上階には、地上30mの光りに満ちたスカイチャペルを設け、外観と併わせてホテルの特徴を打ち出している。1階のアプローチ空間は、多目的大ホール下部を利用した大規模ピロティとし、冬期の雪対策に備えると同時に地域住民を大きく迎え入れるしつらえとしている。

（入谷　鎮／日建設計・名古屋）



9階チャペル

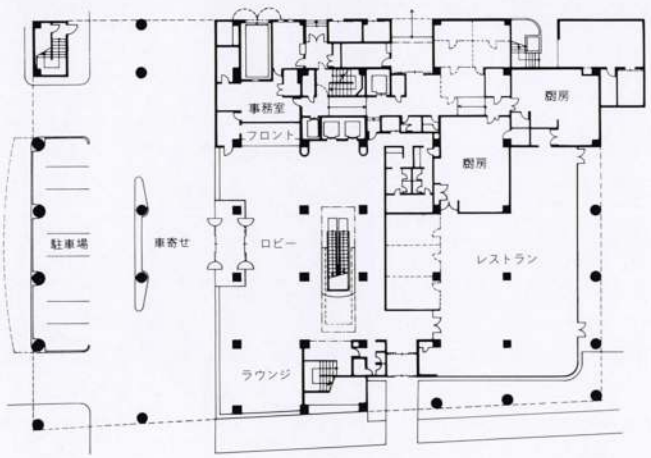
所 在 地　富山県魚津市吉島1-101
敷地面積　4,604.60㎡
建築面積　2,580.72㎡
延床面積　9,742.83㎡
構造規模　SRC、BIF、9F、PI
工　　期　1991年7月～1992年8月
最 寄 駅　JR魚津駅
撮　　影　センターフォト


ラウンジ

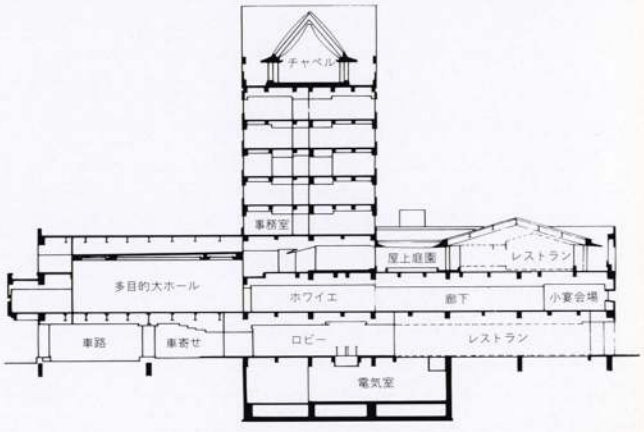

1階レストラン


2階大宴会場


客室ツイン



1階平面図　1:1200



断面図　1:1200

瀬戸信用金庫本店

設計・監理　日建設計・名古屋
施　　工　清水建設・東亜建設工業・信和建設 J.V.



外観西側

新本店は、愛知環状鉄道『瀬戸市駅』東側の駅前広場に面する敷地に、瀬戸信用金庫設立五十周年事業の一環として計画された。

設計のテーマとしては、敷地が南北に流れる稀田川により東西に二分されており、この自然環境を生かした配置構成とすることと、自由度のある機能的耐用年限の高い設計とすることとともに、新しい時代に求められる快適な執務環境の提供であった。

建物の配置構成は、駅前広場に面する西側の敷地に営業部棟を、東側には本部棟を設けてそれぞれを『架け橋』で結んでいる。さらに東側の本部棟には、高層部と低層部の『はざま』に『架け橋』へつながる四層吹き抜けのアトリウムを設けている。この空間は本店の玄関でもあり、地域に開放される一階のギャラリーや二階のエンゼルホール、また営業棟へと、すべてにつながる『地域と信用金庫の接点』として位置づけられている。

地域への開放を前提とした『エンゼルホール』は、客席数349席を持ち、講演・式典はもとより、小劇場・音楽ホールとしての性能も備えており、多目的に利用できるものとし、文化面での地域への対応を可能にしている。

本部棟の高層部基準階は、天井高／2.6メートル、間口／16メートルの無柱空間で、南側の窓は床から天井まで全面ガラスとし、瀬戸の街を一望できる明るい執務空間としている。

外観デザインは、グリーングレーの落ちついた色調のタイルとし、『やきものの街』瀬戸にふさわしい装いとしている。

さらに、ランドマークとなる本部棟の高層部では、本店としての重厚さを表現するため、南側のファサードは格子状の形態とし深い陰影をもつデザインとしている。　（入谷　鎮／日建設計・名古屋）



外観ディテール

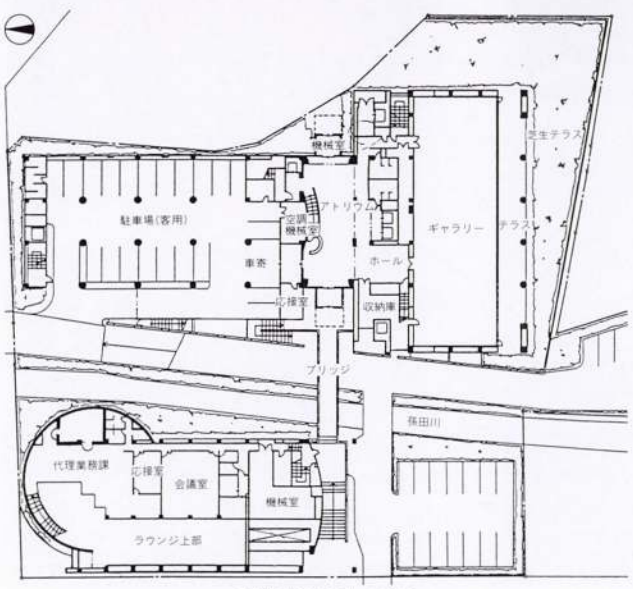
所 在 地　瀬戸市東横山町119番地の1
敷地面積　6,446.33㎡
建築面積　3,334.98㎡
延床面積　19,067.39㎡
構造規模　SRC、S、本部棟／B2F、11F、P1、営業部棟／2F
工　　期　1991年6月～1992年10月
最 寄 駅　愛知環状鉄道瀬戸市駅
撮　　影　センターフォト


営業部棟外観

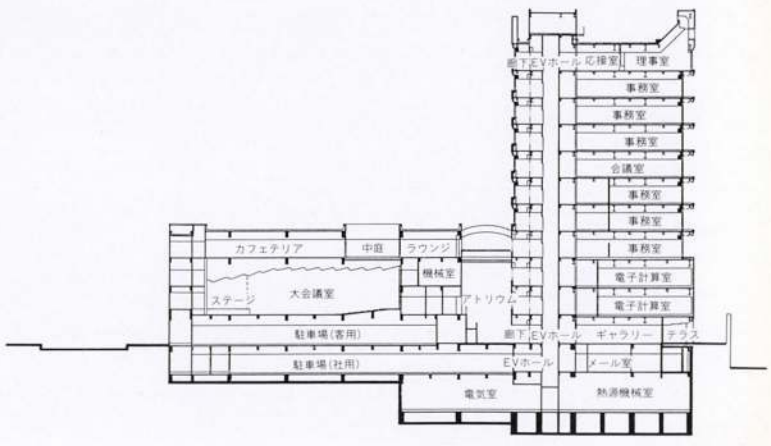

ラウンジ


大会議室


アトリウム（夜景）

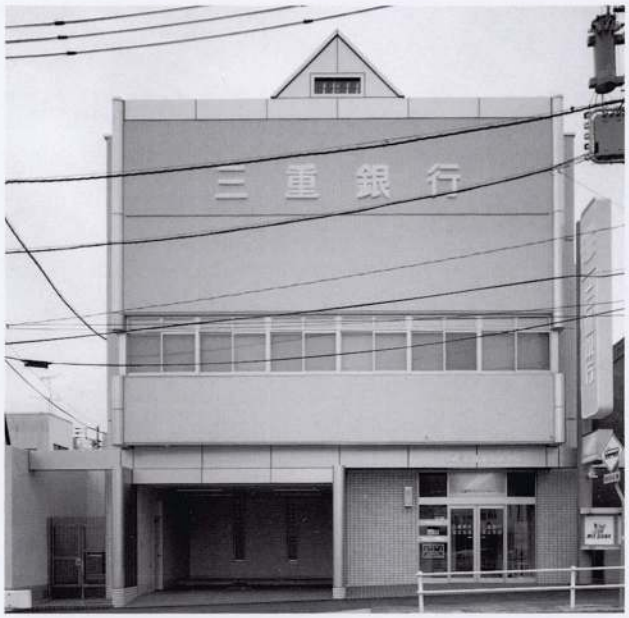


配置・1階平面図　1:1200



断面図　1:1200

東海・Sketch



知立駅前H・Mビル

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：鹿島・近藤組建設工事共同企業体
a. 愛知県知立市新富２丁目５番地・６番地
b. 354.31㎡
c. 279.78㎡
d. 555.38㎡
e. RC、2F、P1
f. 1992年４月～1992年11月
g. 名鉄本線知立駅



株式会社フタバ化学本社ビル

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：日東建設
a. 名古屋市中村区沖田町390
b. 438.43㎡
c. 266.38㎡
d. 1,312.90㎡
e. SRC、B1F、8F
f. 1991年10月～1992年10月
g. 地下鉄東山線岩塚駅



三重銀行阿倉川寮

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：生川・住友建設共同企業体
a. 三重県四日市市万古町1237-4
b. 2,168.54㎡
c. 599.78㎡
d. 1,561.46㎡
e. RC、4F
f. 1991年８月～1992年６月
g. 近鉄阿倉川駅



中京銀行島田支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：竹中工務店名古屋支店
a. 名古屋市天白区御前場町8-2
b. 1,043.12㎡
c. 567.32㎡
d. 920.16㎡
e. RC、2F
f. 1992年６月～1992年12月
g. 地下鉄鶴舞線原駅

撮影/SS名古屋

凡例：
a.所在地
b.敷地面積
c.建築面積
d.延床面積
e.構造規模
f.工期
g.最寄駅

特集●東海の美術館・博物館

博物館とは、ミュージアム(museum)の訳語で、ギリシャ語のムセイオン(mouseion)からきており、「ムーサイ(ミューズ　芸術と科学を司る女神）の殿堂」という意味である。古代ギリシャでは、アレクサンドロス大王が創設したアレクサンドリア学府のような、文学および芸術の教養の場所としての意味をもっていた。

わが国では、1951年（昭和26年）社会教育法の精神に基づき、「博物館法」が制定された。その法律によれば、博物館とは「歴史，芸術，民俗，産業，自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養，調査，研究，レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関」と定められている。この規定のなかには、美術館，資料館(民俗、歴史など)，動物園，水族館，植物園，科学館（自然科学、技術など）が含まれている。

さて、戦後は体育館兼講堂から出発した多目的ホールは、やがて、特定目的をもつ専門ホールへ変革し、それがオーデオホールに、それが近時は博物館、美術館へと文化施設は推進してきた。

今回、ここに東海地方の「博物館」の代表的なものをとりあげ、その意味するもの、それが県市民になにをもたらすかについて再考しようと、特集テーマとした。

東海支部特別編集委員会委員長　中島　一

愛知芸術文化センター

複合型文化施設について

■

横山和博

愛知芸術文化センターが完成し、昨年10月にオープンした。この建物は美術館、芸術劇場(コンサートホール、大ホール、小ホール)、文化情報センターの三つの施設で構成された世界にもあまり例のない巨大な複合型文化施設である。

開館以来、それぞれの施設でさまざまな催しが開催されてきた。特に大ホールは、日本で初めての本格的なオペラが上演できる劇場ということで、その柿落しにはサヴァリッシュの率いるバイエルン国立歌劇場が、市川猿之助の演出によるオペラ「影のない女」を上演して、世界初演ということもあり、たいへん華やかな話題をふるまいたものである。

そのほかクラシック音楽の演奏に的をしぼったコンサートホールにしても、さらに演劇その他のパフォーマンスに適したアダプタブルステージを持つ小ホールにしてもそれぞれに出演者や観衆の評価は高く、日毎に活発な芸術活動が繰り広げられているようである。

●

これらのホール群に比べると、この建物の上層階に二層にわたって配置された美術館は、やや影が薄いような印象が見受けられた。

開館劈頭を飾る記念展として、館側が満を持して放った展覧会が「フォービズムと日本近代洋画」展であった。この展覧会は「芸術新潮」誌による＜1992年度ベスト展覧会＞というアンケート調査のなかで、(その展示内容が質的にも、量的にも豊かで充実している)として、見事に二位に入ったほどの好企画であった。

ところがこの展覧会、まったく客の入りが悪いのだ。美術館として頭の痛いことであったに相違ない。おそらくその不入りの原因について、あれこれと詮索されたことだろう。

もう10年程も昔のことになるが、旧文化会館の建て替え構想が世に出てきて、まだ敷地条件も何もはっきりしない頃、ただかなりの規模の複合型施設になるだろうということだけが解っていた頃に、その複合のさせ方について、よく議論をしたものだ。

そんなとき、幽霊のようにいつも現われていたのが、複合化反対論。つまり美術館のような文化的な施設を、百貨店みたいなビルの上に乗っけるのはもっての外、別敷地を求めてでも、緑豊かな環境の中にゆったりと建てるべきだというものである。

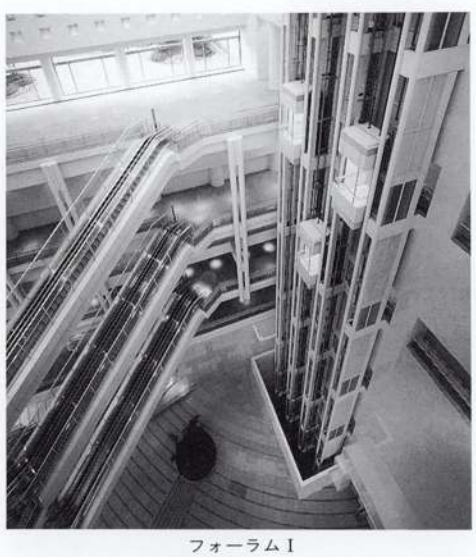
この議論はかなり根強くて、プロジェクトが正式に動き始めてからも、おりに触れて蒸し返され、はなはだしくは実施段階にはいって、もう工事も完成間近という時期になってからも、悪口として聞かされたことがあるほどである。

昔話を永々とさせてもらったのも、記念展の不入りの原因が、美術館を空中高く持ち上げたことに関係あるのかどうか、ほんのちょっぴりだが気になったからである。

もちろん複合施設の計画にあたって、複雑に絡み合う様々な機能を、どう配置していくのか、トータルバランスを考慮しながら設計者は決断をし、その上で背負いこんだデメリットを回避する方法を考えるであろう。その点、設計者A&T建築研究所は大変素晴らしい提案をしてくれたと思っている。つまりこのように錯綜し複合する各々の施設と機能を統合する空間として、フォーラムと呼ぶ地下2階から地上12階までの吹き抜けの空間を設けたのだ。ここには空中を飛翔するかのようにエスカレーターが空間を横切り、単純なガラスの箱のシースルーエレベーターが上下する。人々はこれらの仕掛けを、さながら遊園地の遊具のように楽しみながら、知らないうちに上層階まで導かれていくのだ。



西側全景



フォーラムI

愛知芸術文化センター
所在地　名古屋市東区東桜１-13-２
設　計　Ａ＆Ｔ建築研究所
施　工　大成建設・大林組・鹿島・清水建設・戸田建設
　　矢作建設工業・小原建設・大井建設共同企業体
敷地面積　24,113.17m²
建築面積　12,113.26m²
延床面積　109,062.07m²
構　造　ＳＲＣ造
竣　工　1992年６月

一月の末から８階のギャラリーで日展が始まった。こちらの方は連日、押すな押すなの賑わいのようである。どうやら記念展不入りの原因は、この地方の観客の好みの問題であったようである。

美術館を高層階に配置することは、このような都心に立地する場合、むしろメリットの方が多いのではないだろうか。

まず都心の喧騒と雑踏を離れて、静けさと落ち着きのある展示空間を確保することが出来る。また閉鎖的な密室空間になりやすいと思われがちだが、天空光を含めて自然光を取り入れやすいので、逆に建築的処理によっては、より魅力的な空間の創造が可能となる。

愛知芸術文化センターの場合、上層階のミュージアム、下層階のギャラリーというように機能によって階を明確に分けているが、屋上からその２層の床を貫通してライトコートを設け、その回りを取り囲むように、展示室を配置している。ライトコートは野外彫刻展示場をかねた空中庭園への、アクセス空間でもあり、自然の光と風を美術館ロビーへ取り込む仕掛けでもある。またその中を横切る回廊とラウンジは、各展示室への動線の要として、それぞれへの自由なアクセスを可能にしている。

●

以上、縷々述べてきたが、愛知芸術文化センターはその基本理念として「総合的芸術文化に対応する新複合型文化施設」ということを建設基本計画の冒頭に掲げて建設を進めてきた。ことほどにこの施設にとって複合ということは大きなテーマなのである。

そうして今、ハードウエアとしての建築は、全国からの公開コンペを実施するなど、ほぼ理想的なプロセスを踏んで、実現することが出来た。

基本計画にうたわれているように、センターを構成する各施設が（それぞれの領域を高度に複合化して奥行と幅のある新しい文化的相乗価値を生み出していく）ことが出来るかどうか、ひとえに今後の運営の在り方が問われているということであろう。

●

今、栄の一角に立って眺めると、ついこの前まで端正で優しげなプロポーションで佇んでいた愛知県文化会館の懐かしい姿は、もう見ることが出来ない。その代わり新しい芸術文化センターがそのファサードの全容を誇らしげに見せている。予定されている前面の公園整備が終り、ペデストリアンデッキからのアクセスが可能になってこの建物は始めて完成である。しかしもう既に新しい都市の風貌が見え始めている。

●

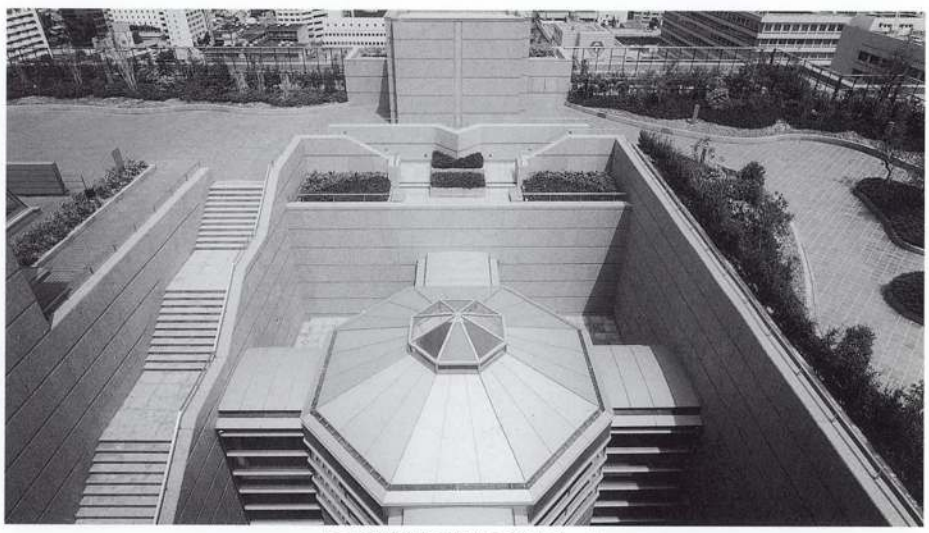
それにしてもこの10年、しゃかりきになって進めてきたこのプロジェクトも、今考えてみると、30数年前の旧文化会館をなぞってきたにすぎないのではないか、とそんな気もしてくるのである。

まだ敗戦の痛手も癒えきってない昭和27年、日米講和条約締結の記念事業として、当時の桑原知事は議会筋などの時期尚早論を押し切って着手にこぎつけたという話は有名であるが、その時既に複合型文化施設の理念が明確に掲げられているのである。また設計案も本格的なコンペに付され小坂秀雄氏の案が選ばれたということは大方のご承知のとおりである。

ちなみに当時の総工事費10億円が、一般会計予算に占める割合は、奇しくも芸文センターの工事費700億円（図書館を含む）が発注時の一般会計予算に占める割合と、ほぼ同じ４％強であった。

（よこやま　かずひろ／愛知県建築部営繕課主幹）


ラウンジ内部


屋上の野外展示場とライトコート

愛知芸術文化センターの設計について

進藤　繁

昭和61年、62年におこなわれた「愛知県新文化会館設計競技」において、当時、大成建設設計本部に所属していた私のグループ案が最優秀作品に選ばれた。

コンペ要項に従い、大成建設を退社し、コンペに参画したメンバーを主体にA＆T建築研究所を設立して，設計を開始した。コンペよりほぼ6年、世界にも類のないといわれる大型複合文化施設である、「愛知芸術文化センター」が竣工した。

都市のゲートとして

計画地は名古屋の中心部、栄にある。公園文化施設を結び南北に走る久屋大通公園のほぼ中央にあり、一方、名古屋駅周辺から延びる、業務・情報機能を中心とする東西軸との交点に位置する。名古屋の主要な都市軸である「緑・文化」と「業務・情報」の2軸の交点にあり、都市的で象徴的な立地にあるといえる。都心の核となるべき位置に、芸術文化を象徴し、新しい文化ゾーンを創出する建築として、全体構成、外部の形態は、都市的な規模とスケールをもたせ、単純で明快な型とした。巨大な6本の柱と大梁で構成されたスーパーラーメンの直方体に半円筒型のガラスシリンダーを差し込んだ形態としている。現在の旧文化会館は、まもなく解体される予定である。2階メインロビーのデッキが延長され，前面の公園と直接アクセスできるようになる時点で、この建築の都市的なつながりができあがり公園内の文化施設として、又、芸術文化を発信する都市のゲートとして完成するといえる。

2つのフォーラム

愛知芸術文化センターは、美術館と芸術劇場、文化情報センターの3つの大きな施設と、全館を使っての国際会議機能をもっている。

このように複合した施設と機能をまとめてゆく空間として、フォーラムを計画した。これは、地下2階から地上12階迄の吹抜け空間であり、屋内の垂直にのびる重層した広場である。地上2階から地上12階迄のフォーラムⅠは、美術館、芸術劇場等、主要な施設を結ぶ回遊空間であり、太陽光のふりそそぐ、高さ50mの広大なアトリウムである。地下2階から地上2階迄のフォーラムⅡは、パフォーマンス・展示の空間として、文化を発信する場となる。

各フォーラムは、垂直方向への動線の集中する場であるとともに、建物全体のロビー空間である。2つのフォーラムは、地上2階レベルで一体となり、久屋大通公園につながる。フォーラムは、屋内化された公園機能といえる。

芸術劇場の各ホール

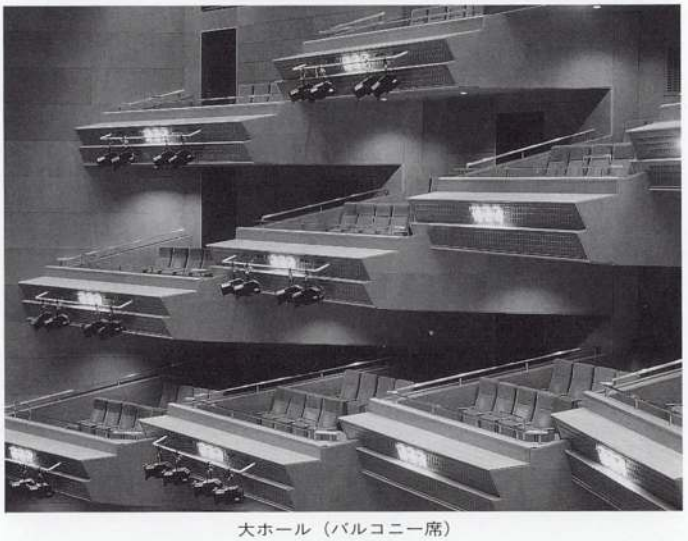
芸術劇場は、本格的なオペラが上演可能な大ホールと、第一級のコンサートホール、演劇や舞踊などの現代舞台芸術のための小ホール、リハーサル室で構成されている。

大ホールは、我が国で初めての本格的なオペラを上演することの出来る規模と機能を持つ劇場となる。オペラに加え、バレエ、ミュージカル、演劇、邦舞、邦楽等の舞台芸術、国際会議にも対応できる機能を持っている。客席は、多層のバルコニーが馬蹄型を基本とする配置をとっている。

現代のホールとして、ボックス型の連続形とし、観賞条件を改善するとともに、舞台と客席の一体感を生みだすことのできる客席配置である。客席数は、2500席と客席後部の可動壁により10,000席の2通りの使用が可能である。大ホールの舞台構成は、欧米の主要なホールに並ぶ規模を持ち、世界でも最新鋭の舞台設備を備えている。充分な広さと高さをもつ多面舞台では、グランドオペラの上演が可



外観（夜景）



大ホール（バルコニー席）

能となり、ヨーロッパの劇場でおこなわれている様な、レパートリーシステムを組むこともできる。

コンサートホールは、バルコニーを併用したアリーナ型式（1800席）のホールである。アリーナ型式のもつ、舞台と客席の一体感、ステージ上部から舞い降りる、音のシャワー効果といった魅力を生かしながら、絶対的な音圧の高さと、側壁からの初期反射音の確保を図っている。ホールの天井はGRC（ガラス繊維補強コンクリート）による、特徴的な形態をもっている。白い絹のドレープが幾重にも重なりあうかのような柔らかなフォルムが、音を楽しむ場所にふさわしい優しく、穏やかな空間をつくりだすよう試みている。舞台正面には国内最大級93ストップのパイプオルガンが設置されている。

小ホールは、さまざまな演劇集団が気軽に使用出来るとともに、他の芸術ジャンルの活動にも使用され、先進的で実験的な試みがなされる実験小劇場として計画された。シンプルな空間に多機能の設備を装備した、可変性豊かな空間である。

屋上庭園と一体となった美術館

美術館は建物の上層階にあり、屋上庭園と一体となっている。屋上が庭園を兼ねた展示空間となり、そこからの自然光を下の展示室にとり込んでいる。展示室は常設・企画展示室、一般展示室の２つの階に分かれている。展示室配置は、外部空間と一体となった回遊性を持たせ、美術を鑑賞する空間の変化を楽しむことのできるものとした。6000m²の展示スペース、2000m²の収蔵スペースは国内の公立美術館として、最大級の規模といえる。

（しんどう　しげる／A＆T建築研究所所長）



フォーラムⅠ



コンサートホール（天井）



ギャラリーラウンジ（８Ｆ）

撮影　増田彰久

愛知芸術文化センターの施工

■

茂木文夫

愛知芸術文化センターは平成元年３月に着工して以来、約40か月を費して建物を竣工し，さらに３か月後の平成４年９月に外構工事を完成、同年10月末に無事オープンした。足掛け４年におよぶこの工事期間は、ちょうどバブル経済の最盛期と一致しており、全国的に工事量の多い時期であった。一方、建物は三つのホールをはじめ美術館、文化情報施設、アトリウムなどからなる複合文化施設で、地下５階、地上12階、塔屋１階、延床面積11万平米という規模である。発注者の試算では標準工期52か月ということであったが、これを40か月（外構工事をいれると43か月）で完成させなければならない、ということで大きなプレッシャーを背負いながら工事を遂行することとなった。

このように、着工当初から工期に対する危機感を持っていたために、施工計画はおのずから最短工期をねらうものになっていった。

地下工事

第一の関門は地下工事である。ポイントは二つあり、一つは深さ27m、33万立米の掘削工事である。最も効率の高い掘削方法はパワーショベルで掘った土をダンプに直接積み込む方法である。深さが27mもあると通常何段もの切梁が障害になるためにこの方法を実現させることはなかなか難かしいことであるが、山留支保工としてアースアンカー（除去式）を採用し、オープンな空間を確保することによってこれを可能にした。二つ目のポイントは躯体工事量の半分が地下にある点である。これをスムーズに打ち上げるか否かが、以後の工程を大きく左右する。ここで採用したのが積層工法である。これは、梁やスラブなどを工業化する工法で、工期短縮はもとよりバブル経済下における労務不足の解消にも威力を発揮してくれる工法である。地下５階から地下３階までの三層は主体構造がＲＣ造であることから、ＲＣ積層工法を採用した。現場打ちしたＲＣ柱の上にPCa化した大梁・小梁を架け、スパンクリートと現場打ちスラブとの合成床版を施工して完成する。地下２階と地下１階は主体構造がSRC造で、これをSRC積層工法とした。鉄骨建方と同時にPCa化した大梁・小梁を架設し、ノンサポート方式のキーストンプレートをスラブ型枠として、あとは現場打ちコンクリートによって一体化する工法である。これらの工法によって地下工事を当初の目標通りに終えて、地上工事に移行した。

地上工事

この建物の主要施設の大半は地上階にある。吹抜け大空間を擁し、十分な仕上期間を必要とする部分である。ここでのポイントは躯体の早期打ち上げと仕上の早期着手である。地下と違って吹抜け大空間が複雑に入り組む地上では、積層工法も採用しにくい。そこで検討したのがSRC躯体二段打工法である。これは本体鉄骨を支保工として利用することによって、下部から順次打ち上げてくる下部躯体工事と、途中階から開始する上部躯体工事とを同時に並行して施工する工法である。この工法によって、複雑さと膨大なボリュームの故に遅れがちになっていた工程を、当初の目標工程にまで戻すことができた。

この建物の中で最も仕上期間を要するのが、2500席の劇場型大ホールと1800席のコンサートホールである。この二つのホールの仕上工事にいつ着手できるか、ということが最大のポイントであった。躯体工事は最終段階でこそ間に合ったが、もともと不足していた工期である。そこで発想の転換をはかり、躯体工事中に仕上工事を取り込むことを考えた。それが横引工法である。ホールの天井はＳ造の格子梁である。その下に遮音天井や各種の設備機器や配管があり、さらにそれを複雑な天井が覆っている。それらを鉄骨の建方と同時にホールの端部で組み込み、横引を繰返すことによって、天井面の鉄骨工事と仕上工事を同時に完成させる工法である。

様々な合理化工法とたゆまぬ現場管理によって、当初不可能と思われた工期を実現し、愛知芸術文化センターは今、様々な文化を世に送り出している。

（もてぎ　ふみお／大成建設㈱名古屋支店）

工事概要

敷地面積　24,911m²
建築面積　12,113m²
延床面積　109,062m²
高　さ　58m
基礎深さ　26m　一部27m
階　数　B5F、12F、PH1F
構造種別　基　礎　場所打コンクリート杭　396本
拡底リバース　φ900～φ2,300
（拡底部 φ1,200～φ4,100）
B5F～B3F　RC造　一部SRC造
B2F～PH　SRC造　一部S造

建物用途　劇場型ホール　2,500席
コンサートホール　1,806席
実験小劇場　330席
美術館　（展示面積）約6,000m²
文化情報センター
駐車場

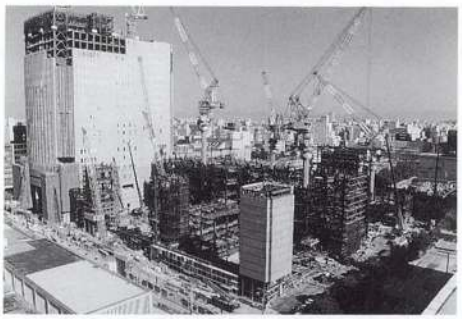
外部仕上　花崗石打込ＰＣ版、PCF版
アルミパネル、カーテンウォール

主要資材量　掘削土量　約 330,000m³
コンクリート　約 120,000m³
型　枠　約 410,000m²
鉄　筋　約 14,000 t
鉄　骨　約 20,000 t

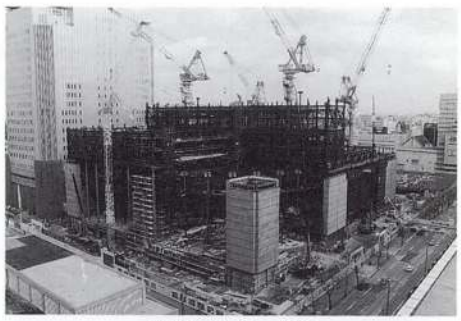
地上工事全景



平成2．9．22　撮影



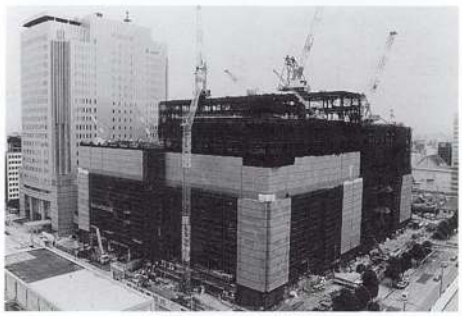
平成2．11．22　撮影



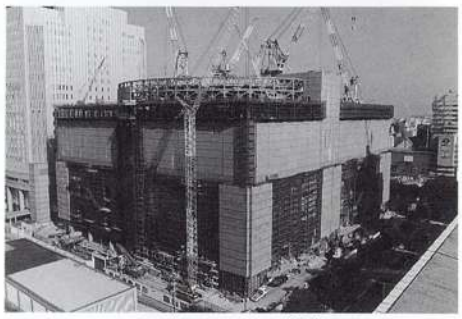
平成3．2．22　撮影



平成3．4．22　撮影

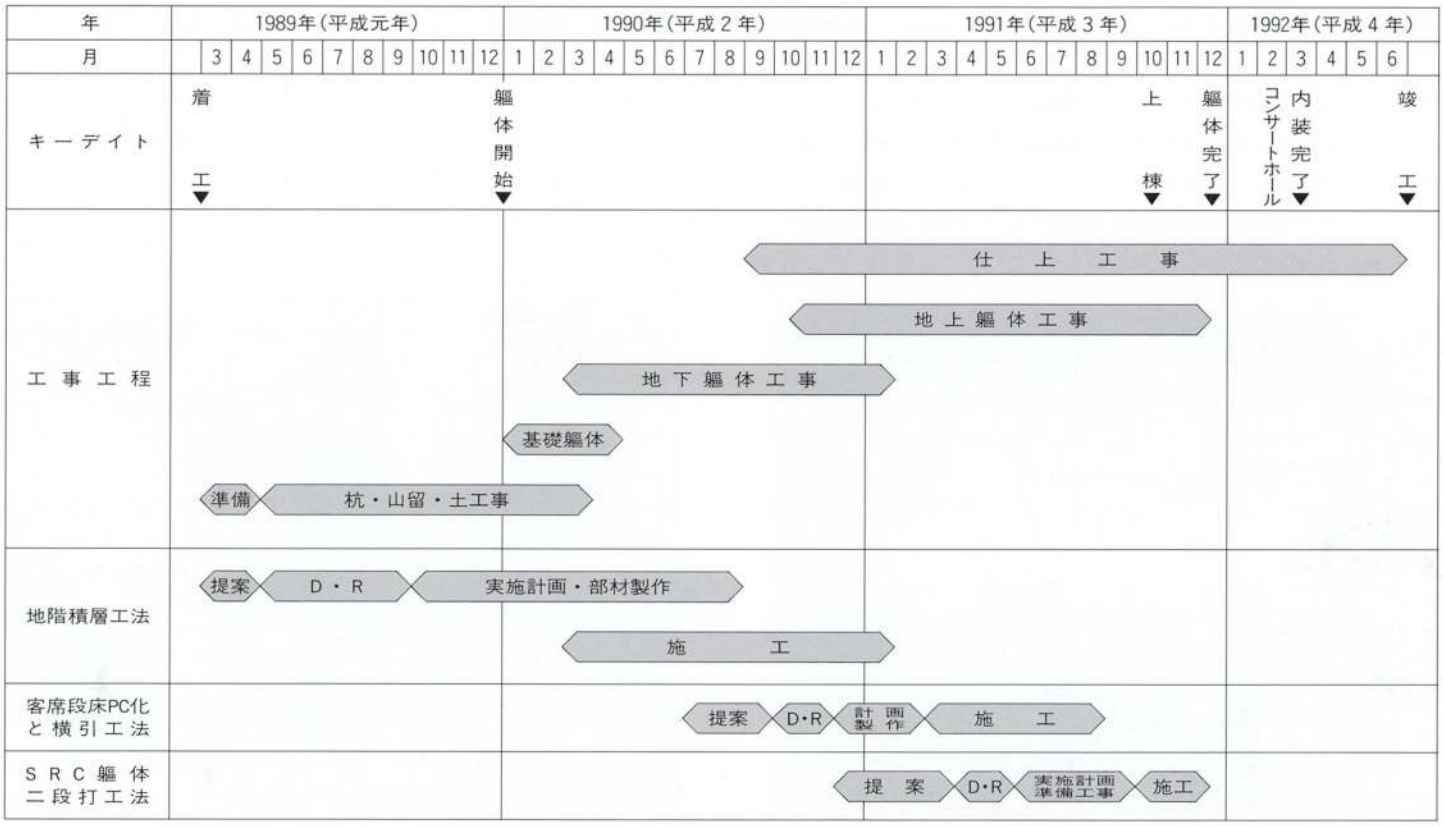


平成3．7．22　撮影



平成3．11．22　撮影

施工段階におけるデザインレビューの流れ



愛知芸術文化センター

愛知県美術館

■

村田真宏

美術館建築の要点は、その求められる機能を最大限確保することにある。主要施設である展示室を例にあげれば、まず何よりも快適な環境での作品鑑賞が可能であることが求められる。これは展示室そのものの照明や空調、内装から、展示室の周囲の環境までが関係する。また展示室は貴重な美術品を安全に保管することのできる保存環境と防犯、防災設備を備えていなければならない。加えて、不特定多数の来館者が戸惑うことなく展示室にアクセスできる動線と適切なサインによる誘導、また緊急時の避難路の確保が必要となる。そしてこれは見落とされがちであるが、展示作業の利便性と安全性もまた確保されなければならない。それは展示室以外の諸設備でも同様に、それぞれに固有に求められる機能の確保が必要となる。

近年、全国各地で美術館が盛んに建設されているが、このような諸要件を十分に満たした完成度の高い美術館は、残念ながらほとんど見あたらない。それは計画時に、美術館が開館後の活動方針を明確にして、それに基づいて設計条件を熟成させることができないといった美術館側の問題もある。また一方では建築家の側が、例えば自らのモニュメントとして美術館を設計しようとしたり、あるいは建築家としての空間の実現に熱心であったことによって引き起こされる問題もある。

愛知県美術館の場合、幸いにも芸術文化センター全体の計画段階で、早い時点で実務経験のある学芸員が確保され、設計条件をかなり明確にすることができたこと。また公開コンペによって、その条件を基本的に確保する設計案を採用できたこと。そして建築工事の進捗にあわせて、展示設備、空調、照明などに関して、かなり突っ込んだ検討の場が、設計・監理者である愛知県建築部営繕課と株式会社A＆T建築研究所の配慮で確保され、また施工者側も誠実に対応する姿勢をもっていたことなどから、かなり完成度の高い設備と空間を確保できたと考えている。

しかしながら全てが最良のものとなったということはできない。例えば来館者が展示室に入る前の空間、つまり美術館のロビーがガラス面が多く明るすぎるという問題がある。これは設計者サイドからすれば、作品鑑賞の前に明るく開放的な空間を提供し、ゆったりとした気分で展示室に入ってもらおうという配慮の結果であろう。しかし、これが作品鑑賞には重大な障害となっている。通常の美術館における作品の照明は、保存上の要請から油彩作品でも200～300ルクス、版画や水彩、染織などでは100ルクス以下の照度を求められる。そのように作品の照明を行うと、外光がたっぷりと取り入れられた明るいロビーから展示室に入ったときに、展示室内は異常に暗く感じられ、作品鑑賞に多大なストレスを生じさせることになってしまう。加えて別の箇所では展示室をつなぐ前室に大きな窓が設けられたために、これまた展示室を暗く感じさせる原因となっている。この部分は、冬季には結露が著しく、これも悩みの種となっている。展示室以外の場所が明るすぎる、あるいは展示室に隣接して不要な窓が設けられているといったことは当館に限らず、実に多くの美術館が抱える悩みとして指摘しておきたい。

そのほか愛知県側の事情によってかなり無理な工期が設定され、仕上げ段階で工期に追われることになり、当館の展示室床面は十分な平滑性が確保されておらず、また他の内装部分でも問題が生じている。確実な施工が可能なだけの工期の保証ということもまた肝要であろう。

（むらた　まさひろ／愛知県美術館学芸員）

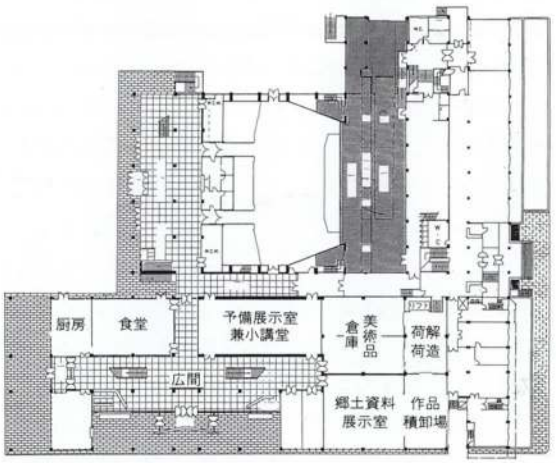


展示室をつなぐ前室の大きな窓（中央奥）



外光が入り明るい展示室入口

● 愛知県文化会館

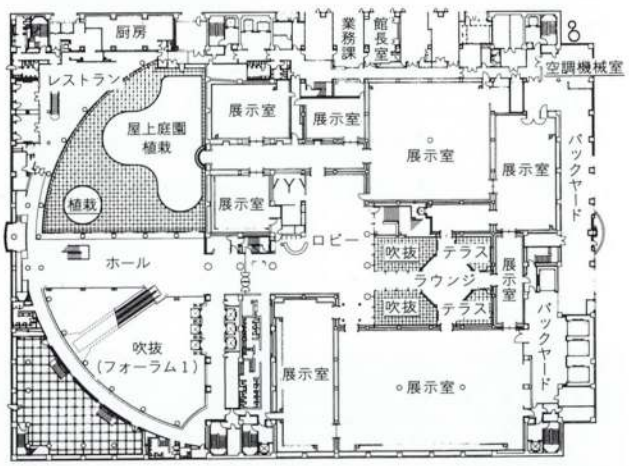


1階平面図　1：1500

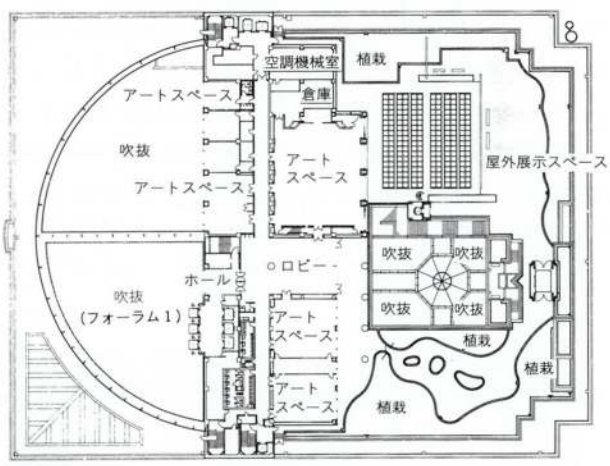


外観遠望

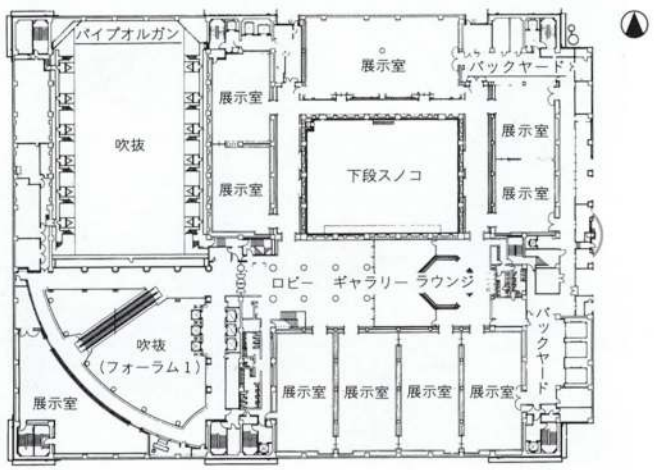
● 愛知芸術文化センター



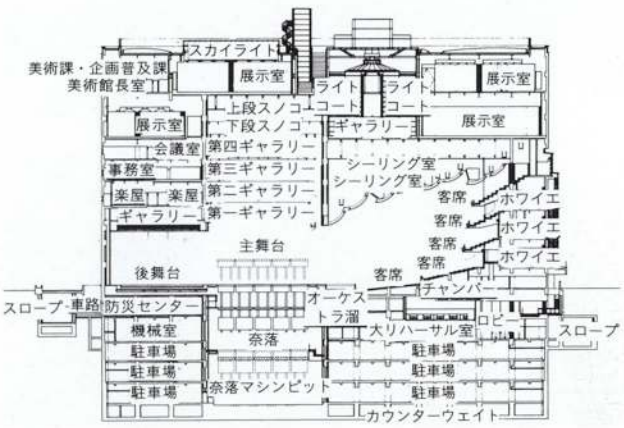
10階



12階



8階平面図　1：1500



断面図

海の博物館

そこで仕事をするものにとっての「海の博物館」の建築

平賀大蔵

はじめに

1992年7月14日、海の博物館が鳥羽市の中心部からの全面移転・新築工事を終えて完成、新たな博物館活動を始めた。博物館の研究活動、展示活動、一般業務の場などから新しい海の博物館がそこで仕事をするものにとってどのような博物館であるかを述べてみたい。

研究棟について

研究活動の場である研究棟は、平屋造りの建物である。処理室、仮収納室、館長室、研究室が並び建物の南側には作業用の広場がある。研究室の隣りは、一階がギャラリー、地下が書庫、二階が会議室である。

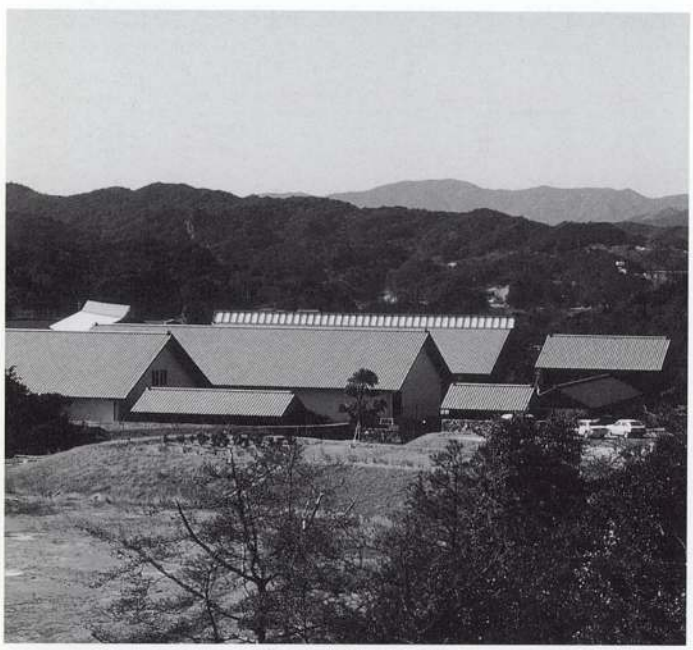
研究活動の中心の場である研究室は、館長室とつながっていて研究員と館長との意志の疎通に有効な機会を与えてくれる。その一方で文献・図書資料を地下の書庫にすぐに探しに行ける位置にあることは便利である。また博物館に新たに集められた資料は、掃除をして、資料番号を書き入れ、写真を撮り、計測をして図面を引き、その資料の持つさまざまな情報を調査カードに書き入れるなどの作業を取り行い初めて博物館の収蔵品になるが、これらの作業は、処理室および南側に広がる場で取り行われ、最終的に収蔵庫に収蔵されるまで仮収蔵室に一時保管される。この研究活動の基本となる新しい資料とのかかわりの場が、特に研究室に近い水平な動きの中で行えることが能率的な配置になっている。

研究室そのものについては、部屋の両側にある窓からの明かり(直射日光は入らない)により研究室全体が以前の博物館から比べ格段に明るくなったことが嬉しい。窓からは、収蔵庫や展示館ばかりでなく博物館への道路が見え、研究室から見える廻りの状況から博物館全体がどのように動いているかを感じることができる。

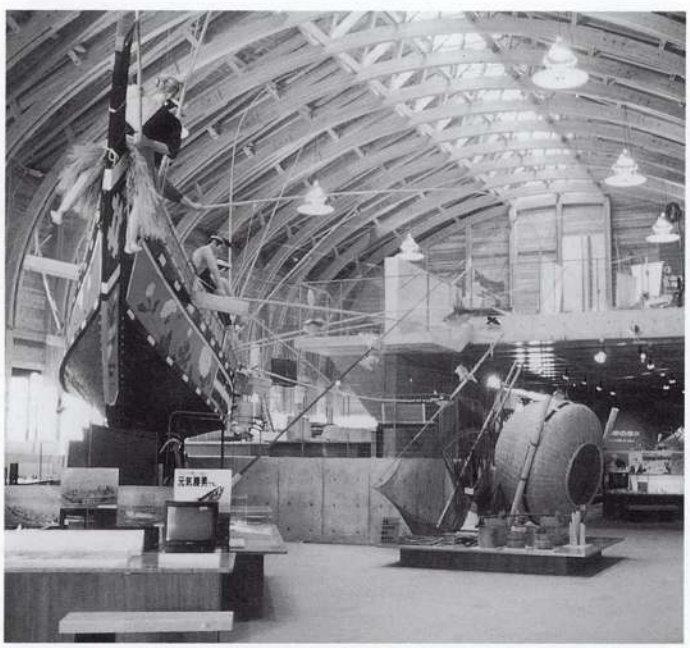
展示館について

展示活動の場である展示館は、集成材を用いた木造大空間の二つの建物である。A館B館の展示場とも一つの大空間を高さの異なる床レベルで区切って七つのテーマで展示を行っている。視線を遮る壁はなく、どの展示場からも他の展示空間が望め、また集成材を用いた館の構造に立体的に触れることができる。さらに地表近くの窓とトップライトから入る光により、館の内部全体が明るく、視線より低い位置にある窓から外部空間が望める展示室は開放的である。

このような明るくて、広く、開放的な展示空間を得たことで特別な照明を用いることもなく、カツオ一本釣り漁舟を空間に浮かべたり幾つかの網漁具を空間に広げて展示することが可能となった。また壁面のない床レベルの異なる展示場を歩くことで、空間の展示物を立体的に見てもらうことも可能となった点が大きな特徴だと思う。今後館内の展示を替える時には、この広く、明るい、そして美しい空間をもう一度いろいろな角度から有効に利用することを考えてみたい。



収蔵庫(手前)と展示棟



展示棟内部

海の博物館
所在地　三重県鳥羽市浦村町大吉1731
設　計　内藤廣建築設計事務所
構　造　構造設計集団
施　工　大西種蔵建設
敷地面積　18,058.83m²
建築面積　1,487.30m²
延床面積　1,898.83m²
構　造　木造（壁・床、ＲＣ造）
竣　工　1992年６月

実際の展示の立て込みをした感想は、天井および壁面が木製だったことで展示品を取り付け固定する作業が容易にできたこと、コンクリートの壁面には予めボルトを埋め込んで展示品を必要に応じて壁面に固定できるようになっていたのが大変助かったが、高所恐怖症の私には、天井近くまで梯子で上っての作業は精神的にこたえた。

一般業務スペース

一般業務の場は、A館内の北側にまとまってある。受付、事務室、喫茶コーナーがこの位置に集まっていることで、入館者・来館者に対する対応がスムーズにできる。また映像ホールでの映画の上映については、事務室に連絡すれば直ぐに映写室に入り上映ができる。事務室と研究室・館長室が近く、同レベルの高さの位置に造られていることも、館員としてはありがたい点である。

その他、A館の三階の祭りと信仰の展示場を除けば、館内は車椅子での見学が可能である。開館以来、車椅子を利用した来館者が数十人見えたが、スロープとトイレの広さを十分に取ってあることに満足されたようである。

海と人間のかかわり

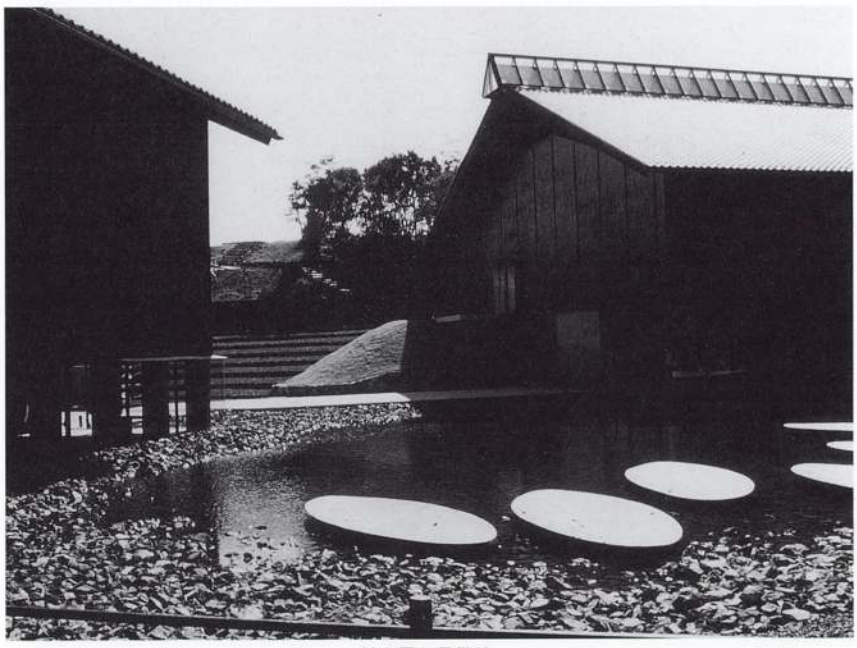
来館者は館内に入ってはじめて木造建築であることに気づき、柱の無い大空間に圧倒されているような印象を受けているようである。そして木の持つ独特の暖かさ・柔らかさに心を引かれているようでもある。また海の博物館を見学するためには、館内だけでなく外部空間をどうしても歩かなければならないが、このことがより一層この博物館が自然環境とマッチして建っていることを感じさせていると思われる。確かに、外部空間への導きは好天の時は快適ではあるが、雨が降れば直ぐに来館者用の傘の準備をしなければならず、当然曇りの日は天候が気になり荒天の日は外部空間とのつながりは切れてしまう。

来館者が受ける建築に対する印象は強烈なものがあると思うが、海の博物館はさまざまな資料を通して『海と人間のかかわり』を知ってもらう場である。このことを忘れる事なく、この空間で博物館の中身をより充実させるための仕事を行っていかなければならないと感じている。

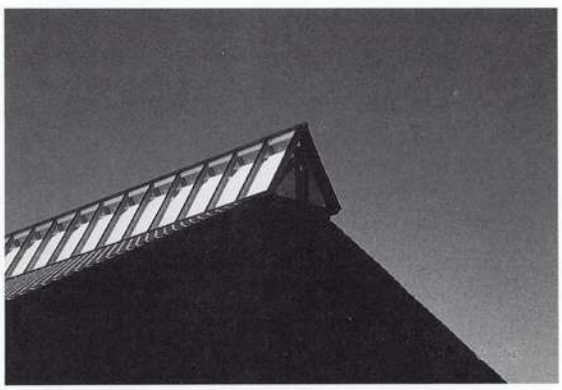
おわりに

資料保存のためにいち早く完成した収蔵庫は、五つの部屋があり自然換気によってそれぞれの部屋の湿度に差が出るように設計された。すでに三年以上にわたり各部屋ごとの温度・湿度の状況を測定し続けているが、その結果は各部屋ごとに資料を分けて保存する上で極めて良好な状態であることを最後に申し述べておきたい。

（ひらが　たいぞう／海の博物館学芸員）



池を囲む展示棟



展示棟トップライト

撮影　福田泰造

海の博物館の設計について

内藤　廣

はじめに

海の博物館は、二十年前、漁業振興に生涯を捧げた現館長の父君が亡くなる直前に、私財を投じて作られた財団がベースになっています。前博物館は鳥羽市内にあり、その老朽化と収蔵物の急増もあって、現在の敷地に移転することになり、様々な経緯から当事務所が設計することになりました。

ローコストで設計

設計が始まったのが七年前，当時二万点近くの収蔵物のうち六千八百点あまりが文化庁から重要有形民族文化財に指定されるなどして、まず収蔵庫を建てることになりました。収蔵庫は、文化庁が五割、県が一割、市が一割助成することになりました。設計から完成まで、約四年かかりました。その後、展示棟を、博物館の単独事業として、約三年がかりで作りました。

収蔵庫は、行政改革の真っ只中で、予算を極限にまで押さえねばなりませんでした。展示棟も、財団基金を削って建てるので、これも倹約に倹約を重ねました。結果、収蔵庫は坪単価四十八万、展示棟は坪単価五十五万でできています。

塩害対策に瓦屋根

海に近く，塩害の厳しいこの地の環境から、耐久性とメンテナンスの点で、瓦屋根を掛け、庇を深く出すことが最も信頼性の高い方法だと判断しました。架構を掛け、その上に置き屋根の格好で屋根を乗せることにしました。

収蔵庫は、桑名でプレキャストコンクリートのピースを作り、現場でポストテンションをかけて組み立てました。短辺方向の架構は、軸方向だけで成立するカテナリーの変形形状で、基本的には曲げ応力がゼロになるようにそれを補正する形でテンションをかけています。したがって、プレキャストによく見られるヘアークラックの派生が全くありませんでした。収蔵物の種類によって、湿度が多く必要とされる部屋は、床を簡易土間、乾燥が必要な部屋は、床壁天井とも板張になっています。

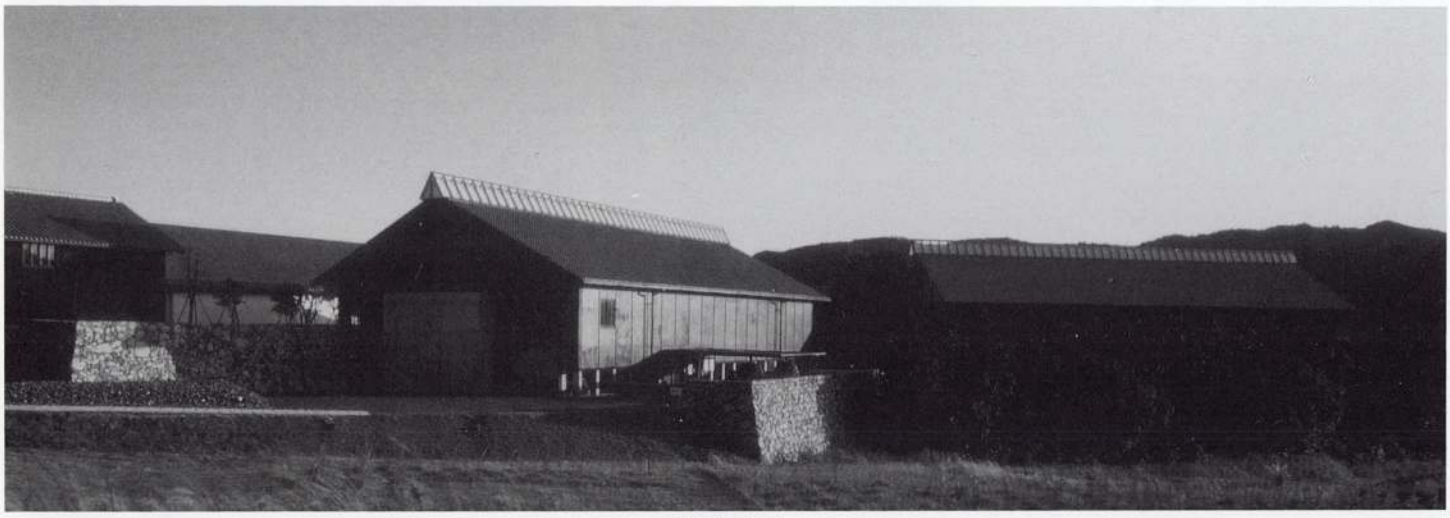
大断面集成材で作る

当初より博物館側から、建て物を木造で出来ないか、と言う要望がありました。収蔵庫は、防火防災上の観点からRC造になりました。そこで展示棟は、来館者に親しみやすい、木造の大断面集成材で作ることになりました。岐阜の集成材工場で部材を作り、現場で組み立てることにしました。集成材のような靱性の高い材料では、蛇の骨のような構造が合理的なのではないかと考え、背骨にあたる頂部に剛性の高い立体トラスを設け、そこに集まる応力が屋根面の登り梁と肋骨状のアーチに徐々に分散され，地面に伝わっていくような構造としました。

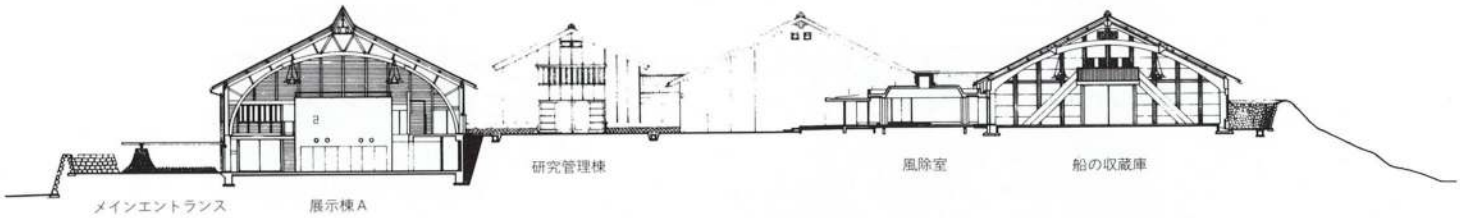
おわりに

建て物は、展示物同様、おおむね好意的に受けとめられているようです。出来たばかりの建て物は、これから何十年、何百年も時を重ねなければなりません。開館して半年、多くの来訪者の目に触れることによって、博物館は、より深くこの地に根付き始めたのではないかと思います。

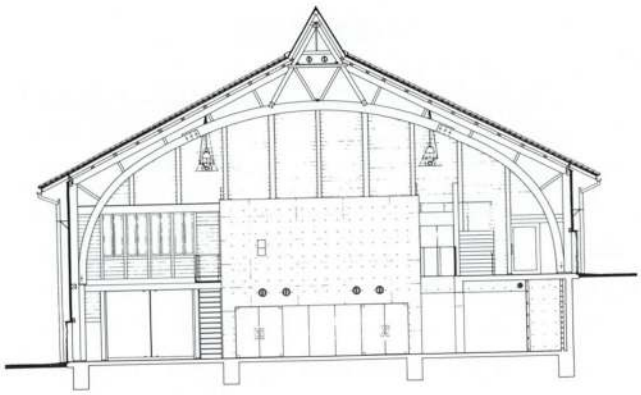
（ないとう　ひろし／内藤廣建築設計事務所）



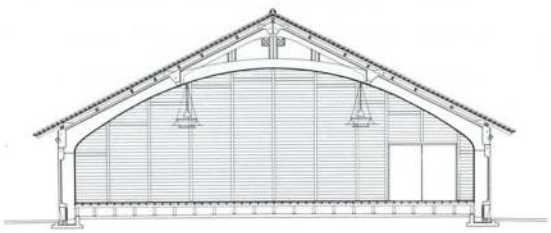
展示室棟全景



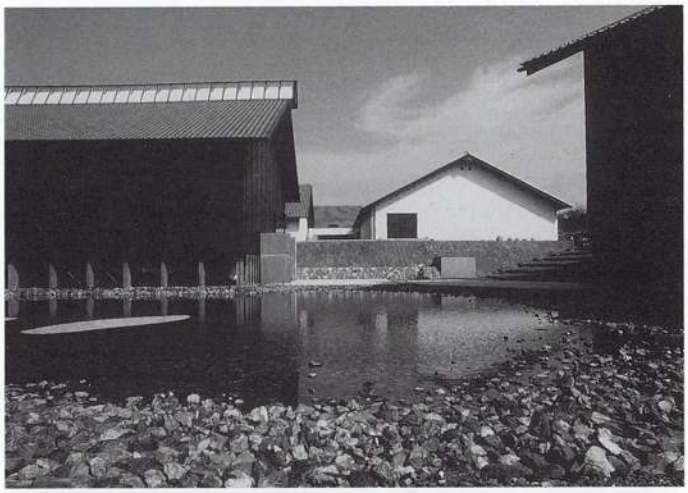
全体断面図　1:600



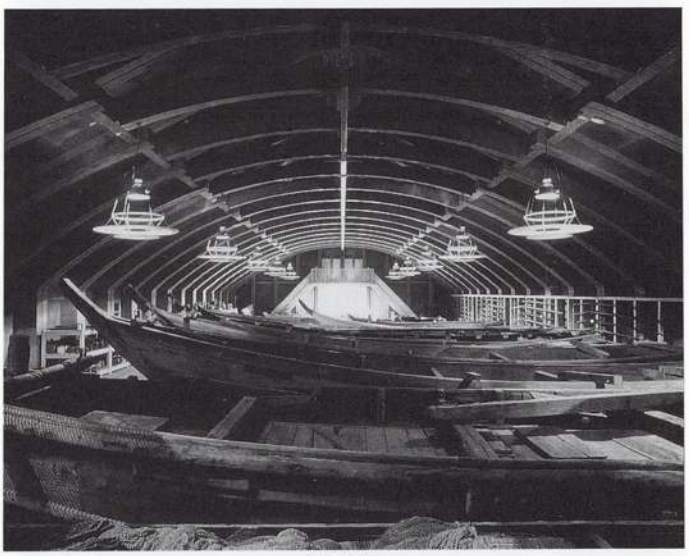
展示棟A断面図　1:300



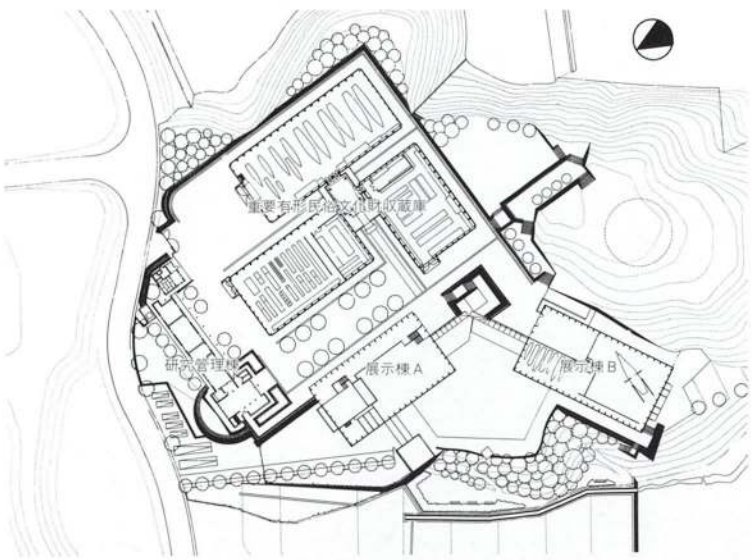
網の収蔵庫断面図　1:300



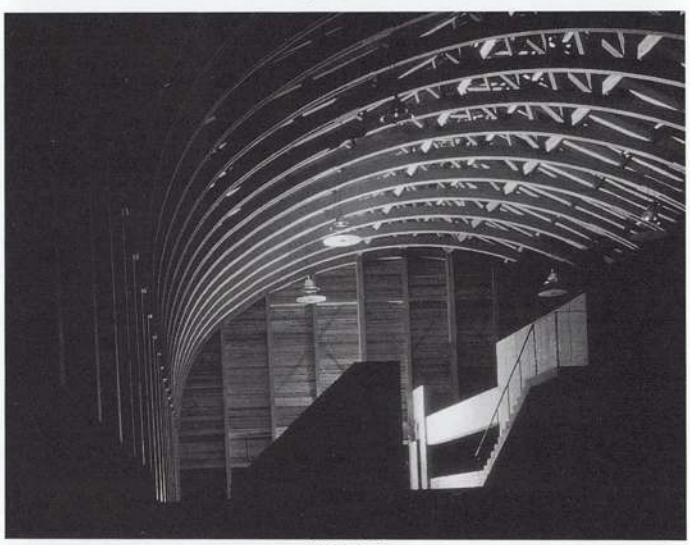
水の広場、両側が展示棟、正面が収蔵庫



船の収蔵庫



全体配置平面図　1:2000



展示棟夜景

岐阜市歴史博物館の建設と運営について

白水　正

はじめに

岐阜市歴史博物館は、岐阜市の中央に聳える金華山のふもと岐阜公園内にある。開館して８年目であるが、緑豊かな周辺環境に次第に溶けこんできたような気がする。周囲にあまり大きな建物がないせいか、公園入口からは、かなり大きく見えるが、延面積は5802.94㎡で、全国の博物館のなかでは中規模クラスといって良いであろう。

博物館のいろいろな機能

博物館というと、観覧者にとっては即座に展示室が思いうかぶが、実際は収蔵庫、講堂、事務室など多種多様な施設からなっている。機能面からみると、展示部門、収蔵部門、教育普及部門、研究部門、管理部門に分類することができる。当館の例で、各部門の主な施設をとりあげると以下のとおりである。

展示部門は常設（主題）展示室、特別（企画）展示室、展示準備室。収蔵部門は洗浄室、燻蒸室、収蔵庫。教育普及部門は講堂、講座室、図書室。研究部門は研究室、資料室、調査室、工作室（教育普及でも使用）、写真室、暗室。管理部門は事務室、館長室、会議室、警備室、倉庫、休養室などである。これだけの部屋を設計側に求めるためには、当館の延面積は決して余裕があるというわけではない。常設展示室を1300㎡位、特別展示室を500㎡位と展示部門を広く要求したので、設計者にとっては、すべての部屋を効率的に配置するのにかなり苦労したのではないであろうか。最終的に、必要とする施設は、ひととおり備えることができ、運営、利用の面で効果をあげている。

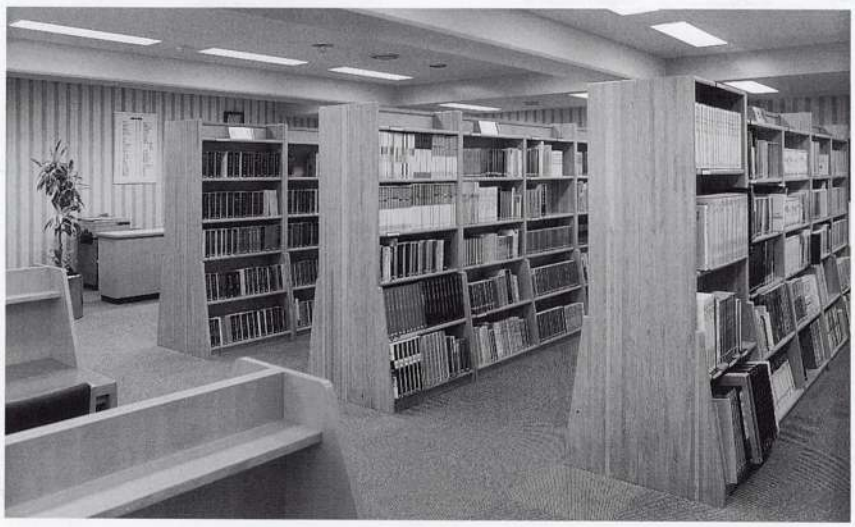
博物館の動線

次に、博物館の使い勝手を考えるうえでの指標として、各部屋の有機的な結びつきを考えてみたい。有機的というのは、動線の問題と置き換えても良い。博物館には人の動線と資料の動線がある。この二つの流れは展示室という接点を得ているが、人と資料では入口（搬入口）から違うし、それぞれの目的によって複雑な動きをする場合もある。資料の動線については、搬入口から梱包室、洗浄室、燻蒸室、エレベーター、収蔵庫、写真室が連接しており、展示室にも直接搬入できるなど便利な構成になっている。この資料の動線については高い評価を与えて良いだろう。

一方、人の動線については、建設以前から有料部分と無料部分の区別について議論があり、結局、基本的にはすべて有料ということで流れが考えられた。しかし、無料の講演会等を行う時などは多少の混乱がみられる。

これからの博物館施設

最後に博物館建設にあたって議論された問題のうち、２点だけとりあげておきたい。ひとつは、講堂の座席の問題である。講堂については200席が決まったが、その座席を移動できる折りたたみ椅子にするかあるいは固定椅子にするか議論の分かれるところであった。折りたたみ方式にすれば講堂を講演会や映画会だけでない多目的ホールとして活用できるという利点があるし、一方、固定椅子にすれば豪華な椅子を設置して入館者がゆったりとくつろげるという利点が考えられた。結局、引き出し机付きの固定椅子を設置して豪華さと、安楽な環境を作り出すことにした。これは結果として入館



図書室

岐阜市歴史博物館
所在地　岐阜市大宮町2-18-1
設　計　日本設計事務所名古屋支社
施　工　間・市川建設共同企業体
敷地面積　30,552m²
建築面積　2,091.65m²
延床面積　5,767.64m²
構　造　SRC造
竣　工　1985年

者に好評であった。

もうひとつの問題は喫茶室の設置についてである。資料の保存上の面から展示室の近くは避けなければならなかったので、設置スペースが限られ、結局あきらめざるを得なかった。これは今でも残念に思うことである。講堂と喫茶室の問題をとりあげたのは、これからの博物館のあり方を考えるとき、今までの学習主体の博物館から、館内全体に楽しさが満ちているような知的遊戯空間としての博物館を志向する傾向が増していくと思われるからである。多くの博物館で映像資料を使うなど、楽しく学ぶ工夫をこらしているが、将来的には、さらに館内全体の心地良い雰囲気つくりが重視されるようになるのではないか。最近では、しゃれた喫茶室や独自のグッズを販売する本格的なミュージアムショップを設置するところもでてきている。

これからの博物館建設には多様なニーズに応えられる新しいコンセプトが要求されることになるであろう。

（しろみず　ただし／岐阜市歴史博物館学芸室長）



常設展示室内学習室



常設展示室

岐阜市歴史博物館

岐阜市歴史博物館の設計について

■

日置朝生

はじめに

岐阜市歴史博物館の設計は、今からおよそ11年前にさかのぼる。昭和56年11月の設計競技にはじまり、その当選案に基づいてでき上がった施設であり、「金華山と長良川流域文化の歴史」をテーマとした博物館で、「鵜飼の展示」が常設されている。

当時、全国的に博物館の建設が盛んに行われるなか、日本設計においても、栃木の県立博物館をはじめ、小山市立博物館、筑波研究学園都市の地質標本館の設計を終え開館を間近にしていた。豊富な博物館に対する技術的な資料と経験は、設計競技を優位に進める結果となった。しかし技術的な解決のみでは、その場所性における建築としての評価を得ることは不完全なものであることは言うまでもない。

岐阜市の歴史

岐阜市は、当時人口41万余、長良川の鵜飼でも有名な町であり、またアパレル産業では全国的に知られた都市である。

そして歴史的には今をさること460年程の昔、戦国乱世の覇者織田信長が斉藤道三をほろぼし美濃の国を手中に収め、天下布武の旗印を揚げた名跡の町である。

緑の金華山の下、信長が全国統一の意志を内外に示した居館跡が残る岐阜公園の一角に建てられた岐阜市歴史博物館は、歴史的環境、および緑豊かな自然環境との調和が図られ、歴史の町にふさわしく、市民とともに幾世代にわたって親しまれ、誇りに思える施設を目指して計画されている。

コンセプト

博物館の建設予定地は厳しく限られ、加えて、地下階の建設も非常に不利なものが予想された。勢い、施設は四角いマスにはめ込まれた3層程の建築計画が必要であった。博物館の機能は大きく、管理部門、展示部門、教育普及部門、学芸部門、収蔵部門の5つに分けることができる。学芸員を中心に館員全体の機能的なつながりと、利用者の利便性が図られる明快な全体構成を模索しながら、各階における機能分担を次の様にまとめた。

1階においては、人の出入口、展示物の搬出入口等と直結できる管理部門、教育普及部門の大きな要素である講堂、展示部門の内、来館者の利用および展示物の入替の利便性を考慮した特別展示室、企画展示室を置く。

2階においては、最大面積と、展示動線の長さの確保を必要とする常設展示室を置く。

3階においては、特別な室環境を必要とする収蔵庫部門と、その資料と密接な関係を持つ学芸部門、および，建物全体の設備関係機械室を置く。

博物館のような建造物は本来がモニュメンタルな建物に分類されるものであるが，さらに歴史という意味合いが冠せられるとその感はなおさらである。―岐阜市歴史博物館―この施設名称が持つイメージをデザインポリシーに置き、各階毎の機能を大きなエントランスホールを中心に、動きを押えたシンメトリックで分かり易い形態に整え、縦方向に連絡することでモニュメンタルな建造物としての骨格とした。

トラバーチンで仕上られた高い吹抜けのあるエントランスホール



ファサード

は、トップライトの光と、鵜飼のかがり火をテーマとしたモザイクレリーフにより豊かで格調のある空間になっている。

建築計画

金華山の山腹からも望むことができる岐阜公園は、緑豊かな市民の憩の場所である。

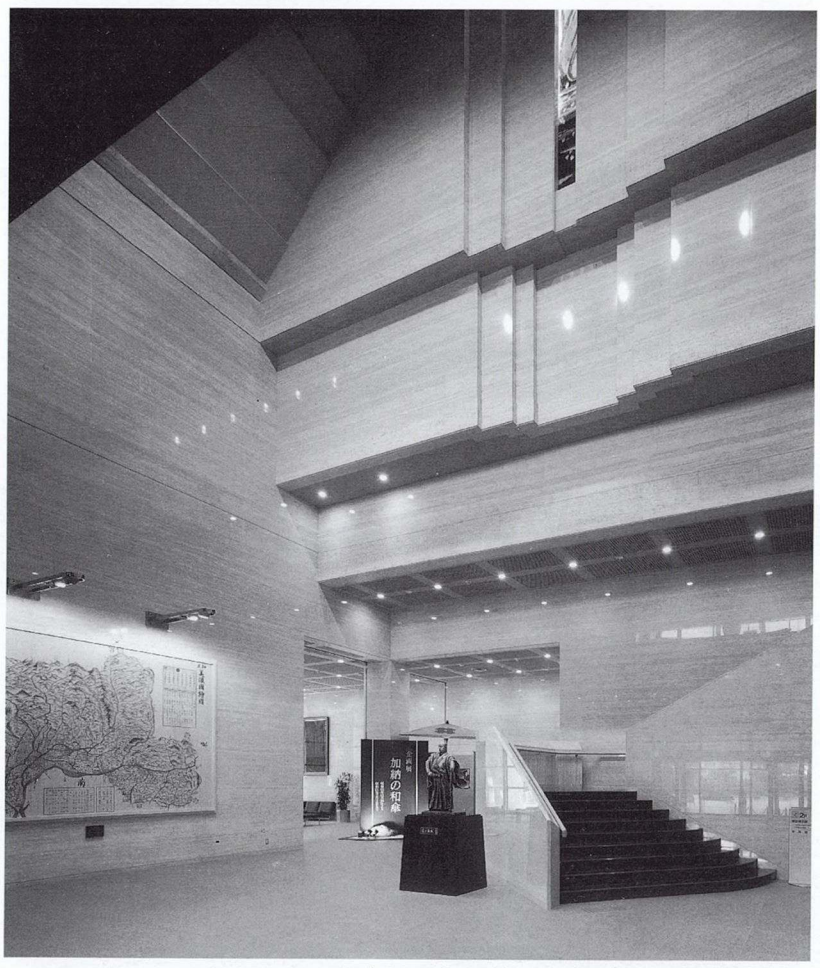
岐阜市歴史博物館は、外壁を横通しの目地に対して不規則な大きさの韓国産花崗石とし、緩勾配の寄せ棟屋根を銅板の瓦棒葺で構成している。石貼りの薄いピンク色の外壁と、青銅色の寄せ棟の屋根は、自然環境との調和を図るとともに、山腹からの眺望に配慮したものである。石で被われた壁面のボリュームある構成は、由緒ある岐阜公園の一角にあって、古い文化への郷愁と親しみを感じさせる。特にシンメトリーに整えられた正面ファサードは岐阜市のシンボルとしてふさわしい重厚さと、品格をもった歴史博物館となっている。

外壁の石貼については、コンクリートの壁面に対して空気層を確保した乾式工法、緩勾配の寄せ棟屋根についても置屋根方式とし、文化財の保存施設である展示室、収蔵庫の室環境維持に対する建築的な方策としている。

おわりに

開館以来７年余りの間、年間当り10万人を上まわる、81万人以上の来館者を迎えたことは、他の類似施設に比べ多彩な企画展を開催する等、博物館として確実な運営が進められているものである。文化財としての歴史的遺産を大切に保存し後世に末永く継承する殿堂として、岐阜市民の文化創造の拠点として、多くの人に利用されていることは設計者としてもこの上ない光栄である。

（ひおき　ともお／株式会社日本設計名古屋支社建築設計部主管）



エントランスホール

静岡県立美術館

日本の美術館の過去と未来の狭間

■

立花義彰

はじめに

今日の日本に於て、美術館あるいはミュージアムなる語は、流行語の如くに巷に蔓延り、西欧におけるそれから我々がイメージする姿とは全く異なった概念としての言葉となりつつあるかの感がある。その弊の根源を惟んみるに、70年代の美術館建設熱がもたらした公立美術館の悪しき平均化がある。理念の不在、官僚的で硬直化した手法、とりわけ規模の根拠なき限定化は、今日我国の文化水準を他国民をして疑わしめる程に、美術館・博物館の有様を貧しいものとしている。

これはまた、当時の怒濤の如き美術館建設ラッシュの後塵を拝する静岡県立美術館もその例外とする処ではない。公職にあり、あるいは正業にあって、専門職や要職を占める者にして、後世の為、公立美術館の有り方とその発展につき論ずるは、公に対する責務であり、よって美術館建築に対する議論の深化が実現されねばならない。

設置基準と現実とのギャップ

『公立博物館の設置及び運営に関する基準』(昭和48年文部省告示第164号)中で述べられている「都道府県及び指定都市の設置する博物館にあっては6000m²を標準とする」云々の標準は明らかに時代遅れのものとなっている。日本の都道府県立や地方主要都市の公立美術館・博物館の面積規模は1970年以降漸次拡大の方向を示し、今日、概ね7000～12000m²となっている。

しかしそれも、企画展に必要な展示面積や、彼の告示の述べる「17人以上の学芸員又は学芸員補」、必要とされる事務職員数、また館内で働く監視員、警備員、清掃作業員、今日その導入が流行するボランティア等々に対して、明らかになおも面積過少なのである。美術館に求められる機能、具体的には諸室の数は増加する一方であり、諸室の所要面積を、建築予算、定数、全体面積が固定された中で実現するのは難しい。

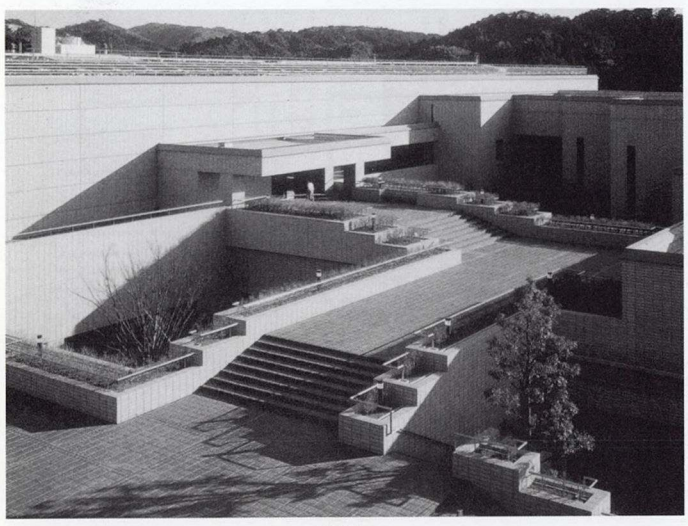
一瞬に消えた第1回建設案

昭和61年開館の当館は、基本的には昭和57年時点での諸技術や美術館に対する一般的通念に基礎を置く不利を有しており、開館年度をほぼ同じくする横浜美術館や世田谷美術館とは異なり、70年代型とでも称すべき日本独自のタイプの美術館を集大成したものと見做すことができよう。その外観と共に静岡県立美術館の機能面は到って保守的なのである。

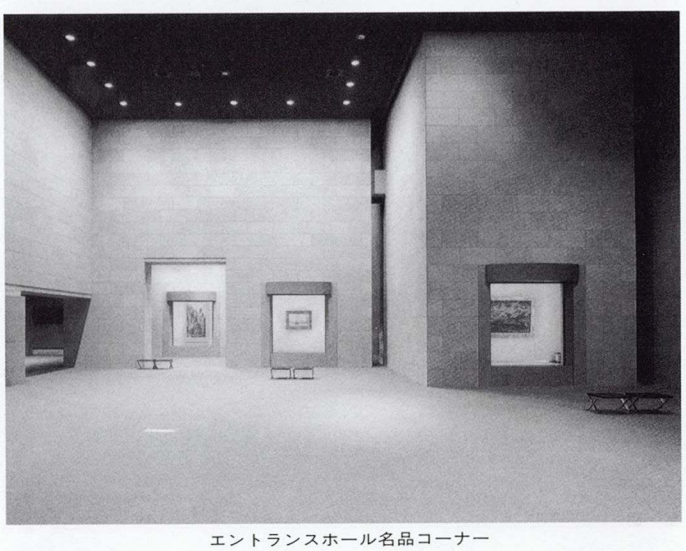
昭和57年実施設計完了の静岡市駿府公園内への建設案は、着工直前の、中世遺跡発見の報道がその保存を煽った結果、中止のやむなきに到った。県当局、設計事務所、各関連企業の延べ20万人以上にも及ぶ心血を注いだ労作は非情にも一瞬のうちに消えた。2回目の設計が開始されたが、基本設計を含めた設計期間は実質4.5ケ月、設計者が後に述べたように細部にわたるディテールの検討や外観においてもう一歩踏み込む時間の必要であった事を我々は認めねばならない。

現在の問題点

開館後十年を経ずして、他の多くの先進館と同様、当館も増築の必要に迫られて来た。諸室の配置そのものは合理的で非常によく出来ているのであるが、建築としての完結性が強く、新たに増築される分館との接続にはいささか工夫を必要としている。



2階入口



エントランスホール名品コーナー

静岡県立美術館

所 在 地　静岡市谷田630
設　　計　設計共同企業体　静岡設計連合
　　高橋茂弥建築設計事務所・高木滋生建築設計事務所
　　田中忠雄建築設計事務所・サン設計事務所
総　　括　弧嶋泰丞
施　　工　住友建設静岡支店
敷地面積　179,663.50m²
建築面積　6,632.79m²
延床面積　9,247.23m²
構　　造　SRC造
竣　　工　1986年3月

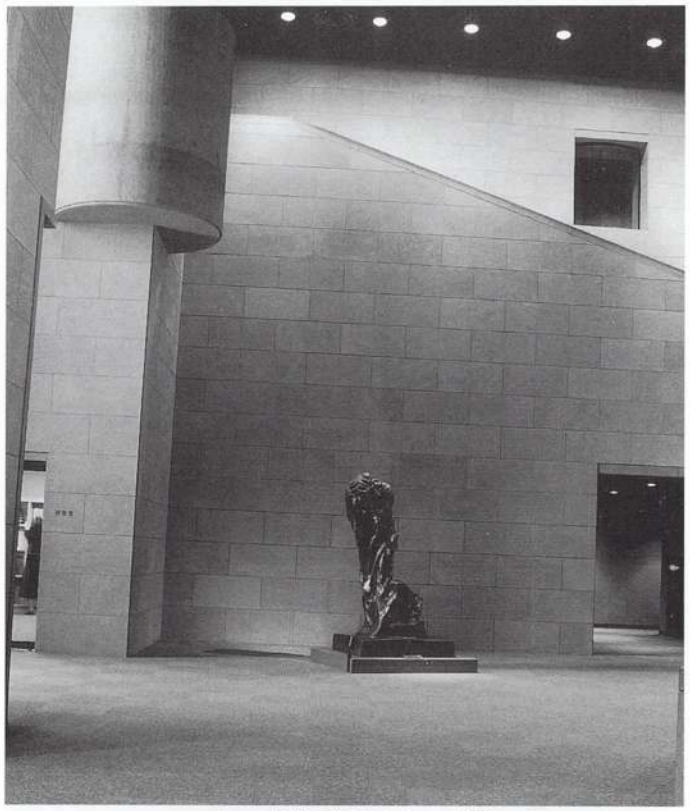
約2000m²程度を必要とするに至った巡回展の大型化に対して常設展示の為の面積を確保することは分館によって実現されるはずである。しかしそれは同時に搬出入口の狭さを感じさせることとなる。作品搬入のためのプラットフォームの幅は美術品輸送車の大型化と複数台数化に対し相変らず過少であるし、搬出入口附近の車道には、美術館への来館車両による〝渋滞〟すら懸念されている。

おわりに

それら細い問題点はひとまず置く。静岡県立美術館は、それでもなお過去の他の〝行政の箱物〟化した施設と比して見れば使い易く、機能面では最上の類に属する施設と思われる。

建築当時、複数の設計事務所のジョイントである連合体と外部招聘の設計コーディネーターの組み合せ、学芸職員と技術者を配した県当局の準備室、見識ある顧問等の間に良好な意志疎通が計られた点に負う処が大きい。されば唯一、美術館、とりわけ発展途上の日本の美術館というものには、須く〝拡張性〟が必要であるという意見が主流を占められなかった事を、今、最も遺憾とせねばならない。

（たちばな　よしあき／静岡県立美術館学芸員）



ロダンの彫刻が置かれたホール空間



美術資料が置かれた図書室



子供のためのワークショップ

静岡県立美術館

静岡県立美術館の設計について

高木滋生

はじめに

静岡県立美術館は、'86年の竣工であるから近作とはいえないが、オープンするまでの過程の中で特質ともいえることが2つある。

1つは、まだ地方の時代という言葉が叫ばれていた頃、静岡市に在住する4社による設計共同体「静岡設計連合」が、いくつかのコンペの実績を買われ指名コンペに参加する機会を得た。幸い、中央の大手設計事務所を相手にしながらも高得点で当選することができた。地域の風土を知りつくした地元グループに設計のチャンスが与えられたことは、時代の流れの中にあって意義深いことであった。

もう一点は、当初は駿府公園内に建設することで工事契約も完了したが、今川義元の館跡とみなされる礎が発掘され設計は幻のものとなってしまった。急遽、敷地を県文化センター内に変え、5ヶ月という短期間で新たな設計となり、もう一歩の追求を残しつつ、着工の運びとなってしまった。

設計にあたって意図したこと

本来、美術館の主目的は、芸術作品を展示することと共に、収蔵することも大切な機能であり、建築そのものは脇役に廻らなければならない。しかし、人が訪れ、心を浄化する快い空間も必要な要素であるので、その点も十分配慮しつつ、アプローチ空間も含め、人にやさしい空間の演出に努力をはらった。用途機能の面では、文化庁でも一番使いやすい美術館との評価を得たが、反面、面積や時間の制約もあって、間が抜けたゆとりの空間的なものが導入できなかったことが残念であった。

外部空間の演出

敷地は、南アルプスを望む日本平の丘陵地にある。但し、静鉄新駅から上り坂の800mの位置にある。まず、けやき並木で住宅地を整備し、敷地の出入口から300mにわたって自然と共存した長い彫刻プロムナードを設計した。県民に広く開放された彫刻群は人の心が和み、来館者にとっては、これから芸術作品を鑑賞しようとする心の高まりと期待感をかもし出す空間となっている(写真2)。ここを通り抜けるとトニー・スミスの現代彫刻のある広いプラザと、田毎(たごと)の月をイメージした池が人々を待ち受けている。又、ここからは美術館の景観を一望できる効果もある。間口の広い横のラインを強調した大和葺きの屋根(写真3)は人々を拒まず、やさしく迎え入れる演出となっている。

内部空間の演出

この美術館の特色は、入口の延長上に広いホールがあり、現在はロダンの〝考える人〟や〝カレーの市民〟の外、館所有の名作3点の絵画が無料で県民に開放されている。

その為に、何万ℓxの外部から200ℓxの内部への導入に対し、人の目の調整が必要となる。風除室はカメラの絞りの役目をはたし、風除室を出てすぐ低く押えた天井に光のドームをはめ込み、目に暗さを意識させないよう光の演出を考慮している。又、この低い天井は、9mの高さのホールをより豊かな空間に意識させる役目にもなっている(写真4)。

2階が展示室となるが、シンボルとなる柱の照明、ゆるやかな階段は、上へ昇るほど明るくなる照明効果により、来館者は気がつい

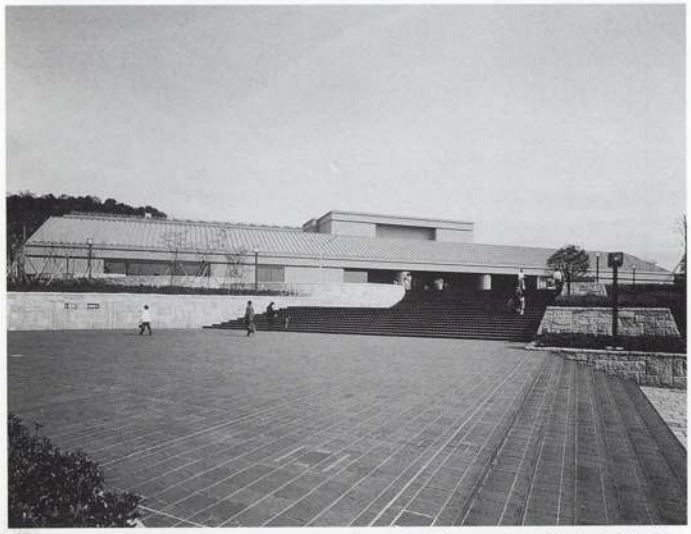
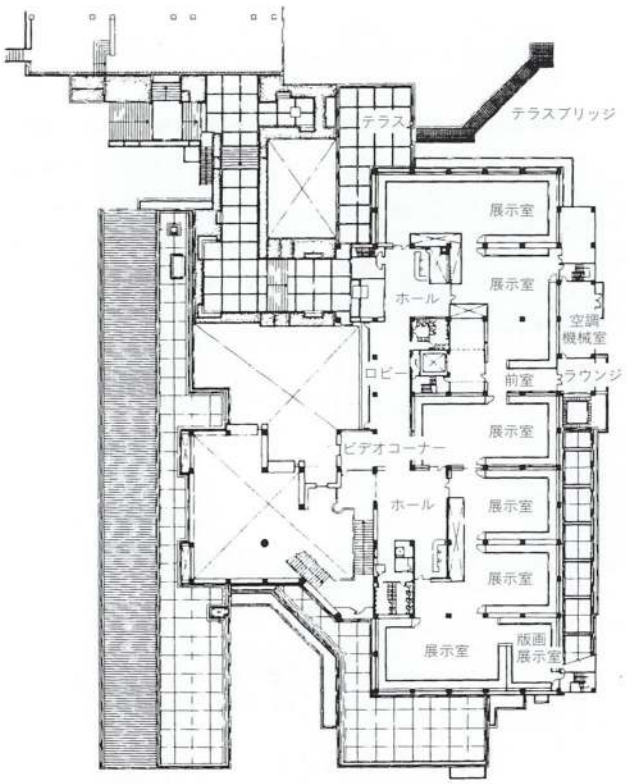


写真1　全景　勾配のある大和葺きの屋根は来館者をやさしく迎えてくれる



写真2　アプローチ　心の高まりと期待感をもたせる彫刻プロムナード



2階平面図

た時には、自然に2階にいたという意識効果もこころみた(写真5)。

くつろぐ喫茶室は、美しい南アルプスをパノラマで捉えることができるし、日本の心を謳った中庭も、人々の疲れをいやしてくれる(写真6)。

(たかぎ　しげお／静岡設計連合)

写真1撮影　加藤嘉六
写真2～5撮影　新建築社　小川泰祐

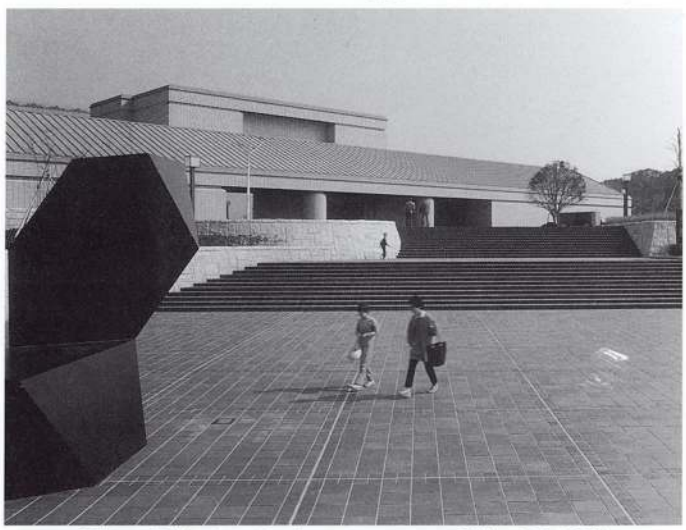


写真3　彫刻のあるプラザ　トニースミスの彫刻のあるプラザ

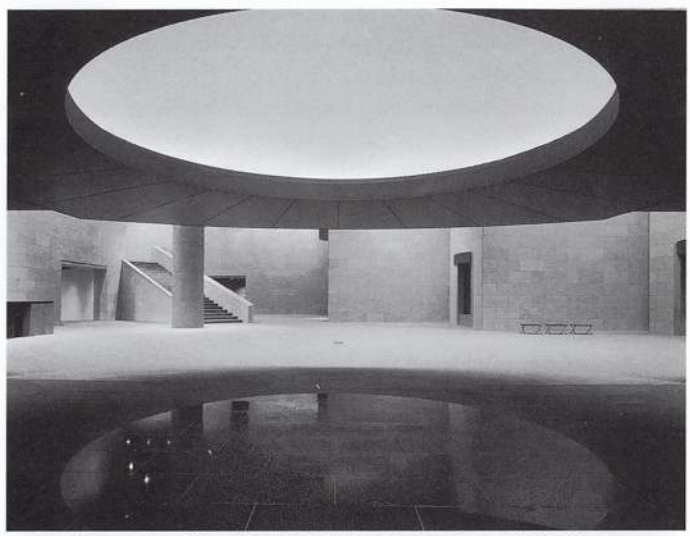


写真4　入口部分　この光のドームが来館の目をならす役割をもつ



写真5　ホールの空間　現在はロダンの彫刻がおかれている。

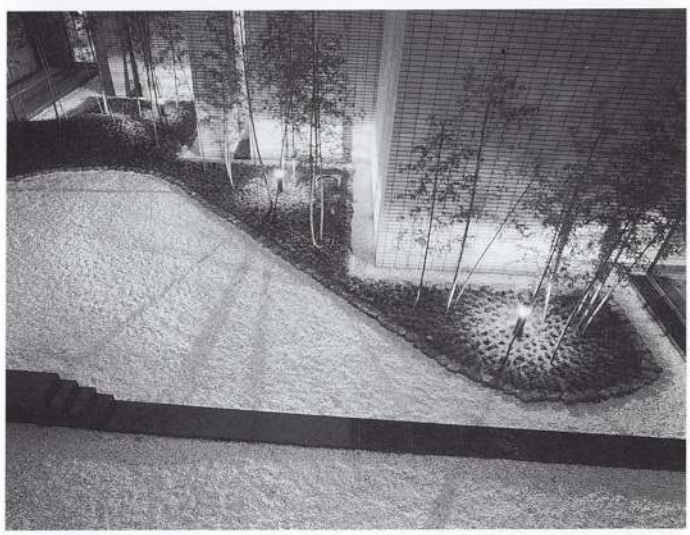


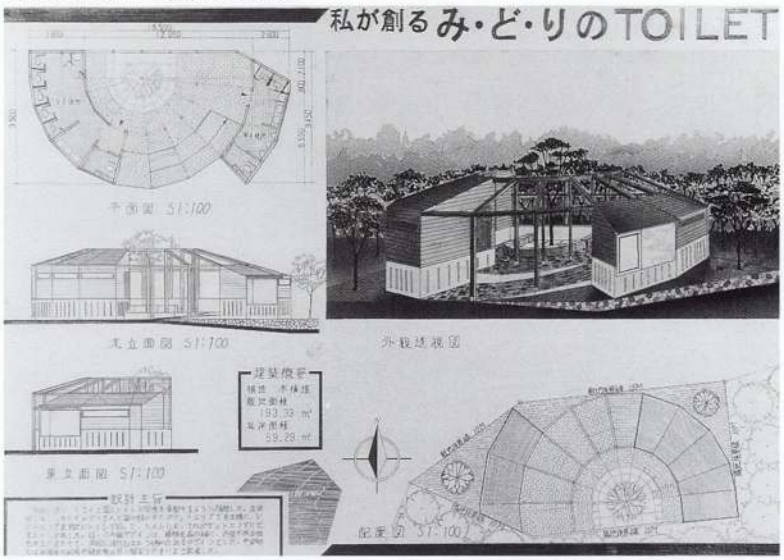
写真6　中庭　疲れをいやす日本的な中庭

第2回 大阪府公共建築設計コンクール入賞作品

課　題　「私が創る　み・ど・りの TOILET」

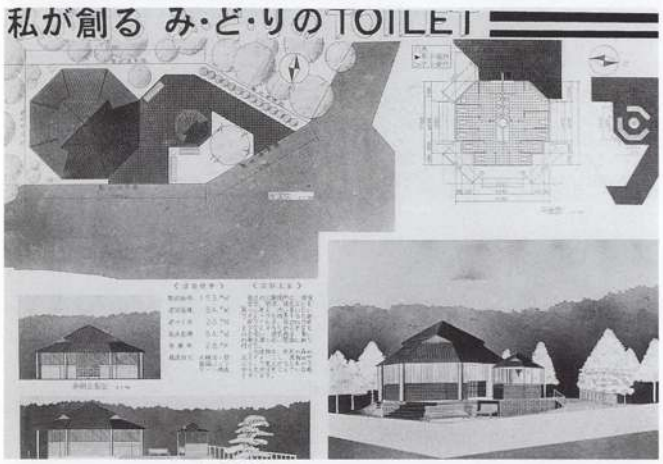
建設予定場所　大阪府交野市　府民の森　くろんど園地内

最優秀作品　大阪府知事賞



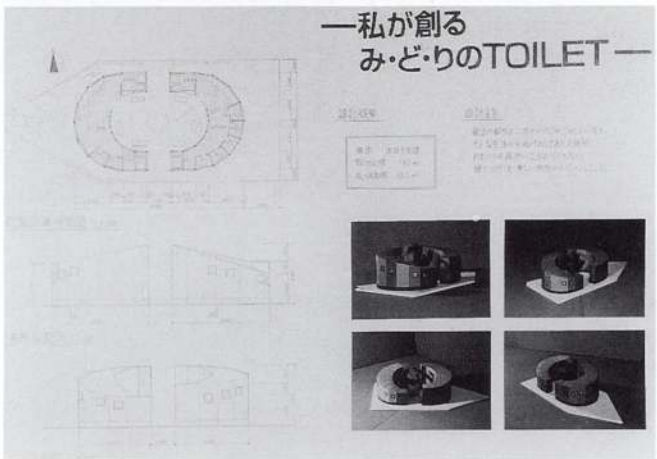
弘田　元　大阪府立西野田工業高等学校建築科２年

優秀作品　大阪府教育委員会賞



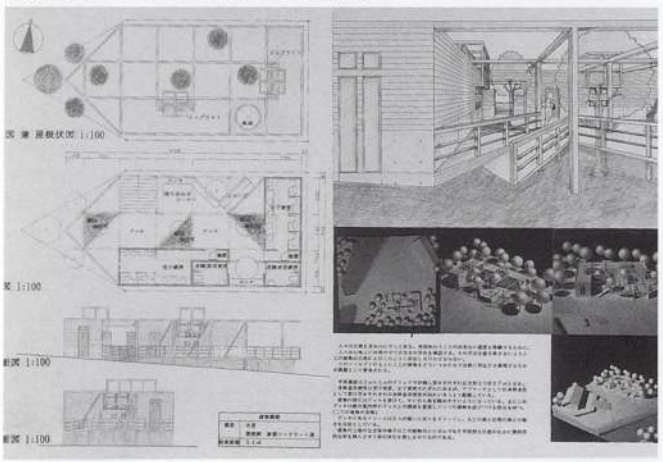
伊浦健二　大阪府立西野田工業高等学校建築科３年

優秀作品　大阪21世紀協会賞



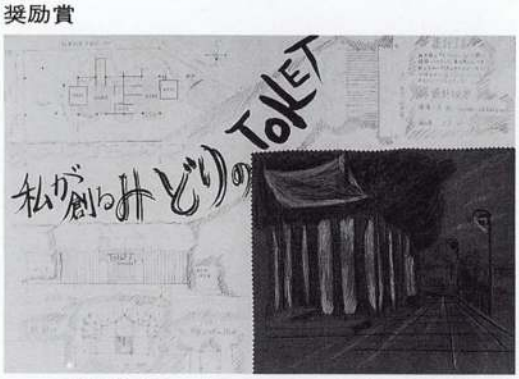
北薗まどか　大阪府立守口高等職業技術専門校建築設計科１年

優秀作品　大阪府建設監理協会賞



長谷川昌美　修成建設専門学校建築工学科２年

奨励賞

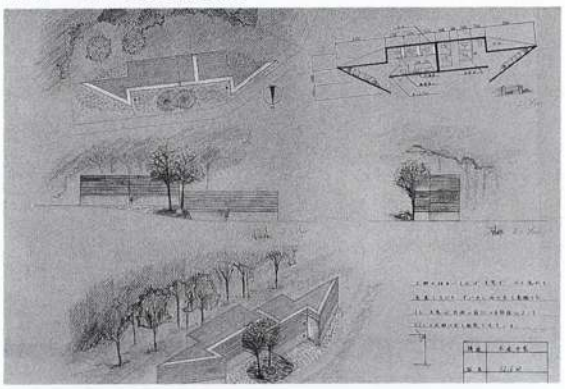


宮川尋子　大阪市立都島工業高等学校建築科３年

設計内容（概要）
敷地面積　約190m²
地　　域　自然公園
延床面積　50～60m²
規模・構造　木造（腰壁部分はその他の構造可）
　　平家建て　高さ　8ｍ以下

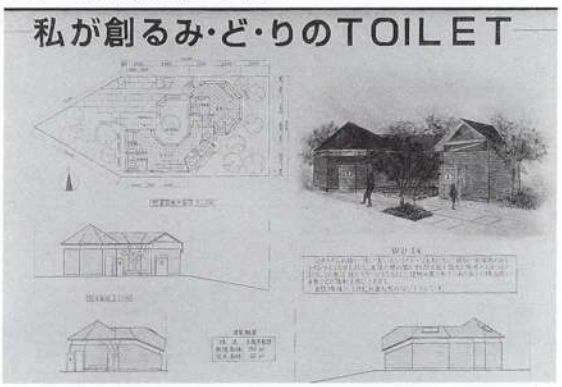
審査委員（順不同　敬称略）
紙野桂人　（大阪大学工学部教授）　審査委員長
太田隆信　（坂倉建築研究所取締役大阪事務所長）
高橋叡子　（大阪府教育委員）
田端　修　（大阪芸術大学助教授）
中辻悦子　（造形作家）
真辺隆明　（大阪府農林水産部緑の環境整備室参事）
実藤清二　（大阪府建築部営繕室長）

佳作　日本建築協会賞



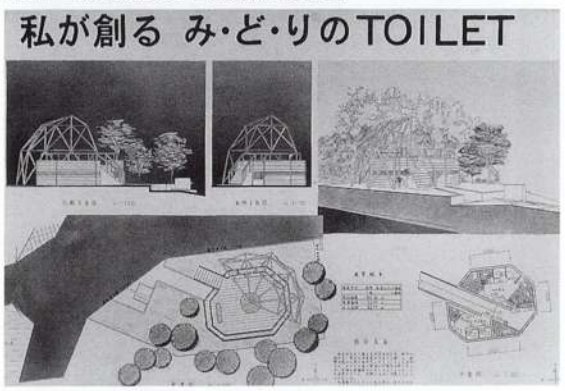
乾　良幸　大阪工業技術専門学校建築学科１年

佳作　大阪府建築士会賞



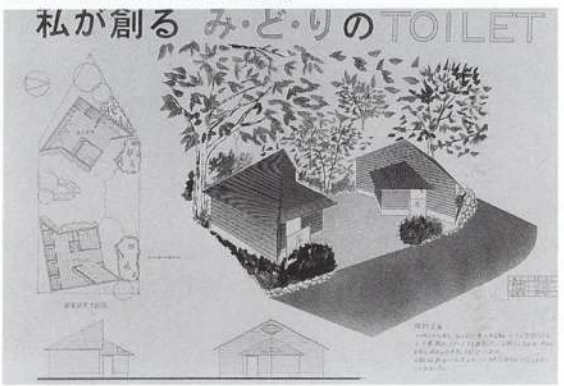
松井良子　大阪府立守口高等職業技術専門校建築設計科１年

佳作　大阪建築士事務所協会賞



田邉智宏　大阪府立西野田工業高等学校建築科３年

佳作　新日本建築家協会賞



土井秀宰　大阪府立西野田工業高等学校定時制課程建築科４年

審査講評（抜粋）

■最優秀作品（大阪府知事賞）に選ばれた弘田元君の作品は、半円状の平面にそって組み立てられた木造フレームが全体の印象をつくりあげ、その中心部に大きな樹木を囲む待合せコーナー、まわりに男女別に分けたトイレ棟を配した構成である。森や緑のつくる自然との調和をはかりながら、デザインされたものの強さをも表現し得ている優れた作品である。応募要領をよく研究し、また、まわりの自然環境をしっかり把握したうえで、制作に取り組んだまじめな作品である。図面等の表現力に磨きをかけて、ますます建築家としての総合力を伸ばしていって貰いたい。

■優秀作品（大阪府教育委員会賞）の伊浦健二君の作品からは、なみなみならぬデザイン力と表現力をうかがうことができた。トイレ棟と待合せコーナーそれぞれを八角形平面からなる大小二棟に区分して建ち上げるという明快な構成。その平面形にそう八角屋根の上に、さらに方形の小屋根を積み上げた建物形状は、なによりも特徴的である。だが、小道を挟んで建つログハウス造りの総合案内所とは形態的にそりがあわない。形態としての個別性、あるいは主張が強すぎるのではないかということである。

■優秀作品（大阪21世紀協会賞）の北薗まどか君の作品は、男女のトイレ棟を２棟に区分し、これに囲まれたかたちの待合せ広場を配するという、すっきりとした配置計画となっている。トイレ棟は馬蹄形の平面をそのままピルトアップした格好であるが、屋根面の高さを背景の林地側に向かってせり上げることによって魅力的な外観をつくり出している。

■優秀作品（大阪府建設監理協会賞）の長谷川昌美君の作品は、正方形のグリッドを定めて、これにそってトイレ棟の平面および広がりのあるデッキ（その一部に待合せコーナー）を配している。自然のなかに幾何学的構成を映えさせたいとする設計意図は十分形態化されており、確かな能力を感じさせる作品である。しかしながら、木造によるという設計条件からみると、陸屋根や生地のままの立体格子、デッキなどの処理には無理があると思われる。

■佳作（日本建築協会賞）の乾良幸君は、鋭角部を強調した建物ボリウムのつくり方、敷地の高低差を生かした長手方向の立面構成などに非凡さを感じさせてくれた。佳作（大阪府建築士会賞）の松井良子君の作品は、トイレ棟を一棟で構成する案であるが、男女入口部を屋根形状の違いによって表現し、また壁面頂部にぐるりと窓を引き回すなど、細やかな心配りを利かせている。また佳作（大阪建築士事務所協会賞）の田邉智弘君の作品は、トイレ棟の屋上を待合せコーナーに利用する案であり、類似のアイデアのなかでは機知に富むデザインである。ただし、木造陸屋根の雨仕舞いやトイレ空間への音・視線の入り込みなどの問題が指摘された。同じく佳作（新日本建築家協会賞）の土井秀宰君の作品は、三角形を組み合わせた平面や勾配屋根によっておしゃれな外観を与えた二棟のトイレ棟を対面させた、現実味のある提案である。

■奨励賞に選ばれた宮川尋子君は生きた樹木が外周りを囲むという創意豊かな提案を示してくれた。本当にできればすごいと、審査員の間にささやきの走った作品である。

スーパーリニヤ給水装置 LSUP型

高機能定圧給水ポンプ。
自力水力制御の進化したカタチ。





パイロット弁が状況にあわせて絶妙のコントロール。

◆驚異的な自力水力制御

自力水力制御(S・H・C Self Hydraulic Control)を完成させたことにより、極めて急激な給水変化に対しても、吐出圧力変化は極微小という驚異的な性能を発揮します。(表参照)

■多段リニヤポンプが、

完全水力バランス制御＋開放羽根スキマ制御

‖

自力水力制御(S・H・C)

により、大きく生まれ変わりました。

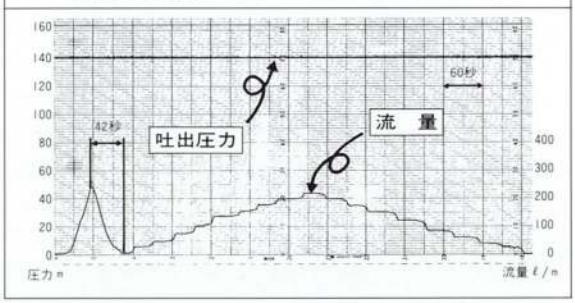
■従来のリニヤポンプ、圧力一定制御性能を大きく上回る高性能。

■圧力伝送器、電磁弁、減圧弁がなくなり、パイロット弁一個の働きで絶妙のコントロールを行います。

■計装部品を収納のユニットケースを廃止。省スペース化に成功。

■限りなく汎用ポンプに近い簡素なリニヤポンプです。

流量・圧力変化記録　140m吐出圧力一定



●単体仕様

揚　　程	20m～220m
吐き出し量	0.06m³/m～4m³/m
出　　力	1.5kW～90kW

様々な用途に対応

■小規模ビル、マンション、施設の直圧給水に最適。省スペース、超低騒音が生きます。

■建物の上層階部分の加圧給水用。

■ゴルフ場、キャンプ地などの給水、散水、畑地かんがい。

■その他、省エネ定圧給水が必要な、あらゆる場所に。

株式会社 相互ポンプ製作所

本　　社　〒533 大阪市東淀川区小松1丁目18番19号
☎(06)328-5780㈹　FAX (06) 328-5840
東京営業所　〒101 東京都千代田区岩本町1丁目5-5(風光ビル)
☎(03)3863-5751　FAX (03)3863-5752
広島営業所　〒730 広島市中区光南3丁目3番30号(安芸ビル)
☎(082)244-3671　FAX (082)244-3672

設備の頁　214

自力水力制御によるリニヤ給水装置

大西慎次朗　おおにし　しんじろう
㈱相互ポンプ製作所技術部部長

直送式給水装置の普及に伴い多数の給水システムが市場に出ている。スーパーリニヤ給水装置もその一つで、開放羽根すきま制御という方法で吐出圧力一定給水をしていた従来のリニヤ給水装置を、より高機能、高性能にした定圧給水装置である。

スーパーリニヤポンプの構造

羽根車の外周に案内羽根があり、それが複数組ある多段ポンプ形式で、そのうちの一部または全部が**図1**のように開放羽根車③となっている。

ポンプ駆動軸と反対側には水力シリンダー㉔があり、ピストン⑨と回転主軸⑤がベアリング⑭を介して間接的に連結されている。シリンダーの内よりの室はバランス室㉒で、吐出口からこの室へ通じる配管途中にパイロット弁⑯がある。回転主軸を支える軸受けホルダー⑥は、無給油の滑りメタル⑬の上を左右に動くことができるため、主軸に取り付けてある開放羽根車③も左右に動くことになる。その結果、ポンプケーシングに固定されたハネプレート②と開放羽根車③との“すきまS”が変化することになる。

“すきまS”が変化するとポンプ圧力は回転数を変化させたと同じような性能を有し、“すきまS”を連続的に制御すれば、吐出圧一定性能となる。

スーパーリニヤポンプは、水力シリンダー㉔内バランス室㉒の圧力をパイロット弁で制御する「自力水力制御」により、開放羽根すきまを変化させ吐出圧力一定給水を行っている。

自力水力制御（S・C・H）のしくみ

バランス室には、パイロット弁で調節された圧力が導入され、ピストンにかかる向かって右向きの力は、左向きの軸スラストと釣り合っている。

吐出圧力が設定圧力に対しわずかでも上昇すると、パイロット弁は動作し２次側圧力すなわちバランス室の圧力が増加する。するとピストンの釣り合いは破れ、軸は向かって右向きに動くので、開放羽根の“すきまS”が大きくなり、吐出圧力は低下し、元の設定圧力となる。

吐出圧力が設定圧力に対しわずかでも低下すると、パイロット弁２次側圧力が低下し、バランス室の圧力も低下、ピストンの釣り合いは破れ、向かって左向きに軸が動くので、“すきまS”が小さくなり吐出圧力は上昇、元の設定圧力となる。

以上、微小な圧力変化にもパイロット弁は連続的にかつ瞬時に動作し、この結果、ピストンにつながる回転体部分も釣り合いを求めて速やかに動くため、開放羽根の“すきまS”が変化することにより、吐出圧力は設定値に保たれる。**（図２）**

設定値（吐出圧力）の変更は、パイロット弁上部の六角ボルトを右回転さすと上昇、左回転さすと下降となり、吐出圧力計を見ながら簡単に設定できる。

吐出圧力一定制御性能

自力水力制御（Self Hydraulic Control）による吐出圧力は、急激な給水変化に対しても、その圧力変化は極微少となり、従来技術では達成できなかった制御性能を作り出すことに成功した。

実際に流量変化させ、そのときの吐出圧力および流量を記録した左頁のグラフの左端部は、30～40秒と短い時間でポンプ吐出側バルブを全開、つづいて同様の時間で全閉し、急激な流量変化を作り、そのときの吐出圧力の変化を記録したものである。その結果、吐出圧力にはほとんど変化が現れていないことが判る。

表１は、社内テストで、定速ポンプとの台数制御させたときの記録である。定速ポンプ起動時および停止時の圧力変動幅は約0.3kg/cm²と小さく、実際の給水システムにおいても、全給水量にわたり安定した吐出圧力で給水されることになる。

主な特長

・回転数制御では、限界を超えるような激しい流量変化の場合でも圧力変化幅を小さく制御するため、末端における給水圧力の変化も小さくなり、絶えず安定した圧力を得ることとなり、“良質の給水”が行われる。

・汎用モートルを使用し、回転数制御を行わないため、騒音は、直送式給水装置の中でも最小の部類に属する。また、インバータを使用したときのような高調波が全く出ないため、ノイズ対策をする必要がない。

・赤水対策については、材質を接水部ＢＣ製とし、鋳鉄など錆の発生する材質を排除し、恒久的に赤水を防止する。

・圧力検出や速度制御がないため、関連した計器は使用せず、計装はパイロット弁１個だけゆえメンテ箇所が少なく、日常の点検は汎用ポンプと大差ない程度である。

・自力水力制御による定圧給水ゆえ、エンジン駆動運転においても吐出圧一定制御は継続される。

主な用途

・学校、ホテル、イベントホールなど、給水量の変化が激しい施設に最も効果を発揮する。

・研究所、工場の製品検査プラントなど、水圧変動を極端に嫌う設備について幅広く利用できる。

・既設設備において、高架水槽方式（重力式給水方式）を直送式給水設備に改修する場合、制御盤など電気系統の改造が少なく、容易に改修できる。

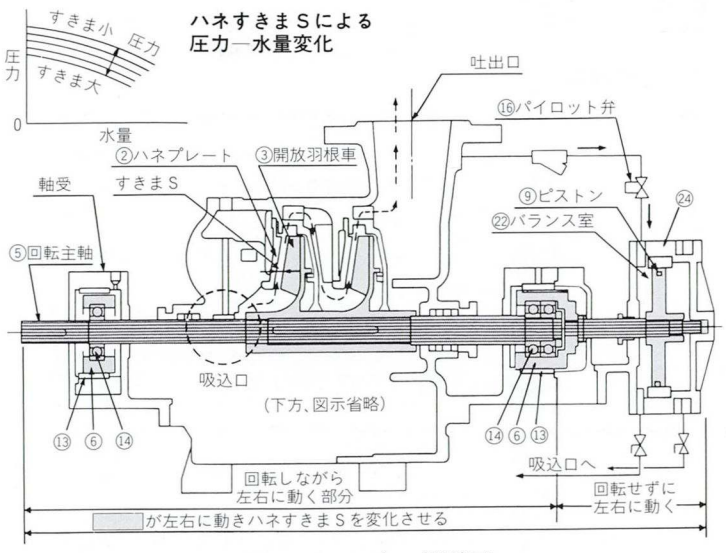


図１　リニアポンプ構造図

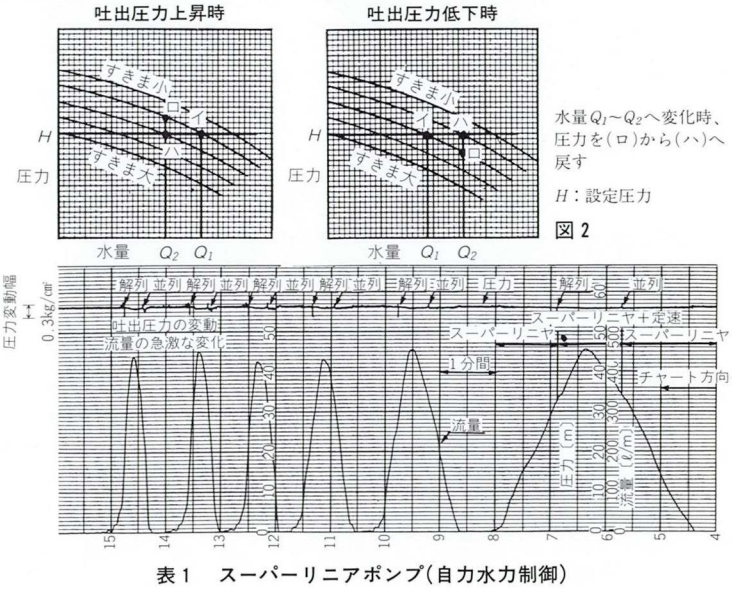


表１　スーパーリニアポンプ（自力水力制御）

構造の頁　214

アンボンド平鋼ブレースの設計

福山国夫 ふくやま くにお　　峰　隆俊 みね たかとし
㈱竹中工務店大阪本店設計部構造担当副部長　同構造課課長代理

鉄骨ブレースをアンボンド加工して鉄筋コンクリートや鋼管コンクリートに内蔵し座屈を拘束した構造形式は、座屈補剛が十分な場合、圧縮ブレースも引張側と同様の強度と十分な塑性変形能力が得られること[1),2)]が知られている（**図1**）。

今回、一連のアンボンド平鋼ブレースの解析的研究と確認実験[3),4)]により、ブレースと鉄筋コンクリート補剛材（以下ＲＣ補剛材と略記）との設計条件が明らかとなった。すでに昨年10月竣工のアプローズタワー、現在工事中の西神オリエンタルホテル、三宮グランドビルなどにこの構造形式を適用しているので、ここに紹介する。

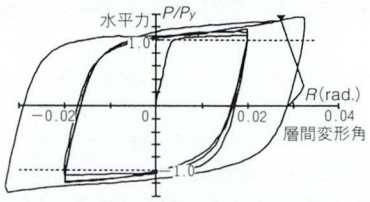
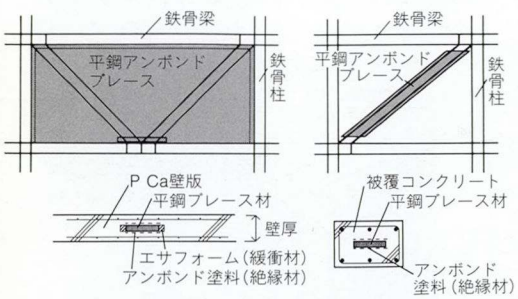


図1　アンボンドブレース荷重・変形関係

アンボンド平鋼ブレースの構造と特徴

アンボンドブレースは、鉄骨断面の強度がフルに発揮されるため、従来のブレースに比べ鉄骨が小断面となり、架構の剛性と強度が容易に調整できる点に特徴がある。さらに平鋼ブレースの場合、鋼管やH形鋼に比べ柱・大梁との接合部が単純化できる利点がある。

ＲＣ補剛材は建物の用途により壁版タイプと単材タイプとを使い分けている。ホテル客室などプラン上間仕切壁が必要な箇所には壁版タイプを、その他の開口部が必要な箇所には単材タイプを使用している（**図2**）。



(a)ＲＣ壁版補剛タイプ　(b)ＲＣ単材補剛タイプ

図2　アンボンド平鋼ブレース

アンボンドブレースの補剛材設計条件

アンボンドブレースの座屈を防止し、その塑性変形能力を確保するための補剛材の設計条件は、ブレースの全体座屈と端部の局部的な座屈破壊を防止する２条件で示される。

1）壁版タイプの補剛設計

a）全体座屈補剛　ブレースの全体座屈を防止するための補剛条件は、次式で与えられる。

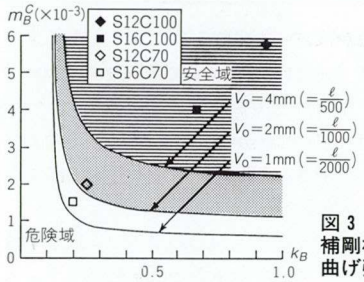


図3　補剛材の剛性・曲げ強度関係

$$\left(1-\frac{5}{48k_B}\right) m_B^C \geqq \frac{V_0}{\ell}\left[K_B=\frac{E_BI_B}{N_y\ell^2},\ m_B^C=\frac{M_B^C}{N_y\ell}\right] \quad -(1)$$

ここで、K_B：剛性パラメータ
m_B^C：曲げ強度パラメータ
V_0：平鋼の初期たわみ
ℓ：ブレース長
E_BI_B：ＲＣ壁の曲げ剛性
N_y；平鋼の降伏軸力
M_B^C：ＲＣ壁の曲げひび割れ強度

(1)式の K_B と m_B^C との関係を初期たわみをパラメータとすると**図3**のように示される。設計では、ＲＣ壁の K_B と m_B^C の座標点が、設定した初期たわみに対応する曲線の上側に位置するような壁厚、配筋を決定する。ここでRC壁の平鋼ブレースに対する有効幅は、平鋼幅の５倍と設定する。

b）端部補剛　ＲＣ壁の端部は平鋼の降伏軸力の５％の補剛力に対して押抜きせん断破壊（パンチングシャー破壊）しないようにする。**図4**に端部破壊機構と補剛の一例を示す。

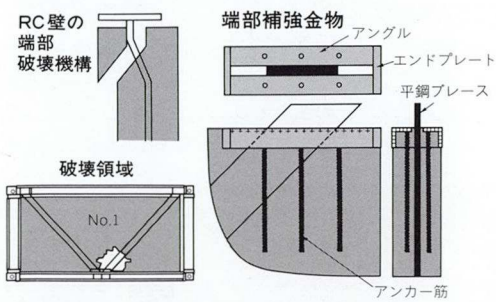


図4　ＲＣ壁の端部破壊機構と補剛例

2）単材タイプの補剛設計

単材タイプの補剛材も、アンボンド平鋼ブレースを内蔵して一体型で製作される場合は、壁版タイプと同様の設計条件を適用できる。

最近、**図5**に示すような２枚のPCa部材で平鋼ブレースをはさみ込み、中間部を面外への開き止めファスナーで結合させ、端部のみ PCa 部材相互をずれ拘束する重ね梁形式の補剛材を実用化している。このタイプは、一体型の補剛材に比べ曲げ剛性が６割程度に低下するが、ブレースとPCa 版が分離製作できるため、施工工程上のメリットが大きい。

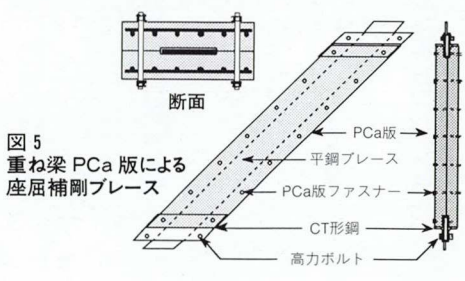
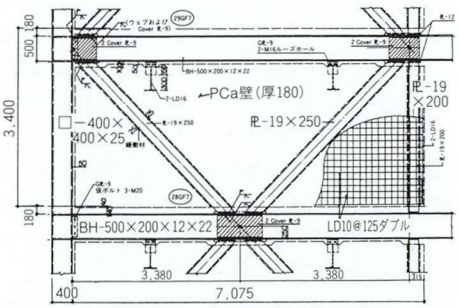


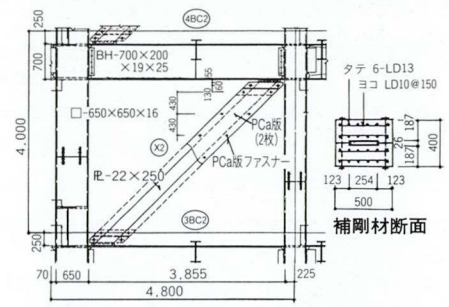
図5
重ね梁 PCa 版による座屈補剛ブレース

アンボンド平鋼ブレース適用例

図6（ａ）は、建物高層部のホテル客室間間仕切りに PCa 壁版タイプを使用している例である。ここではフレーム内に開口部が必要なため、壁版の開口側にアンボンド平鋼間柱を内蔵し、室内への部材突出を防いでいる。



(a)壁版補剛タイプ（アプローズタワー）



(b)重ね梁 PCa 版補剛タイプ（三宮グランドビル）

図6　アンボンド平鋼ブレース適用例

図6（ｂ）は、建物短辺方向に重ね梁形式の PCa 版補剛材を使用している例を示す。

アンボンド平鋼ブレース補剛材の理論的考察ならびに実験的検討は、大阪大学工学部建築工学科井上一朗助教授との共同研究として行われ、実建物への設計条件の設定については多大のご助言をいただいた。ここに深く感謝いたします。

参考文献
1）若林　實ほか：繰返し水平力を受ける絶縁ブレース内蔵ＰＣ壁板の弾塑性性状に関する実験的研究（その１、２），日本建築学会大会学術講演梗概集，1973，10
2）藤本盛久ほか：鋼管コンクリートにより座屈を拘束したアンボンドブレースに関する研究、構造工学論文集，Vol. 34 B，1988．3
3）井上一朗ほか：アンボンド平鋼ブレース内蔵コンクリート壁の座屈補剛設計，日本建築学会構造系論文報告集，No．432，1992．2
4）井上一朗ほか：アンボンド平鋼ブレース内蔵コンクリート壁端部の補剛設計，日本建築学会構造系論文報告集，No．443，1993．1

日本建築協会

月間の動き

【平成5年1月分】

理事会

第3回常任理事会
27日・4時～4時40分・於本会会議室
出席者　佐野会長ほか16名
議　事　(1)定時評議員会開催の件
(2)平成5年度事業計画（素案）の件
(3)名誉正会員推挙の件
(4)「建築情報センター20周年記念講演会及びシンポジウム」ほか3件の後援並びに協賛の件
(5)入退会者承認の件
(6)報告事項
(7)その他

評議員会

技術部門　評議員懇談会
19日・4時～5時・於本会会議室
出席者　下村委員ほか2名
議　事　技術部門選出評議員候補者3名推せんの件

編集委員会

第10回会員企画小委員会
12日・6時半～8時・於本会会議室
出席者　佐伯副委員長代行ほか3名
議　事　(1)シリーズものの報告と掲載予定
(2)新しい企画案について
第10回設備分科会
14日・4時半～8時・於本会会議室
出席者　日根特別幹事ほか5名
梶井幹事ほか6名
議　事　(1)単行本「設備知識」（仮称）の原稿の検討
(2)「劇場の設備」（仮称）特集の報告
(3)「設備の頁」の企画
第10回作品作風小委員会
14日・6時半～8時・於本会会議室
出席者　松田副委員長ほか5名
議　事　(1)作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(2)作品の選定
(3)「Gallery」掲載報告・予定
(4)「SKETCH BOOK」作品構成
会員企画小委員会「W」座談会
23日・2時～4時・於本会会議室
出席者　川本真澄、谷山紀子、広渡早苗、稲木委員
第10回広告企画小委員会
26日・4時～5時半・於本会会議室
出席者　溝神委員長ほか4名
議　事　(1)1月号「青年技術者」特集・「東畑建築事務所」特集広告経過報告
(2)2月号「大阪府営繕」特集広告途中経過報告
(3)3月号「東海支部」特集広告途中経過報告
(4)4月号「劇場の設備」特集報告
(5)独自特集企画、その他
(6)収支状況報告
第11回構造分科会
27日・6時～8時45分・於本会会議室
出席者　二宮委員ほか3名
議　事　(1)「建築の再生―構造技術とのかかわりにおいて―」（仮称）特集の企画
(2)「構造の頁」の企画
第7回計画系―インテリア・住宅―分科会
28日・7時～10時半・於本会会議室
出席者　北浦幹事ほか5名
議　事　「インテリア・住宅」分科会特集の検討
第5回施工材料分科会
29日・4時～6時・於本会会議室
出席者　植田幹事ほか2名
議　事　特集企画決定

事業委員会

第8回若い会員の集い小委員会
12日・6時半～9時・於本会会議室
出席者　杉本副委員長ほか6名
議　事　(1)今後の企画の予定
(2)杉本真一委員の時間
(3)新委員の紹介と挨拶
(4)平成5年度事業計画案の文面について
第6回広報小委員会
13日・6時半～8時15分・於本会会議室
出席者　原見副委員長ほか11名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)第1分科会からの報告と検討
(3)第2分科会からの報告と検討
第6回見学会小委員会
14日・6時～9時・於本会会議室
出席者　南副委員長ほか10名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)実施報告
(3)今後の予定説明の検討
(4)今後の候補について検討
第6回事業委員会
20日・4時～5時15分・於本会会議室
出席者　多井委員長ほか5名
議　長　各小委員会からの報告と検討

教育委員会

第3回工高生教育小委員会
7日・3時～6時・於本会会議室
出席者　和田副委員長ほか7名
議　事　次年度「第39回工高生デザインコンクール」設計課題（案）の検討
第3回講習会小委員会
20日・6時～7時45分・於本会会議室
出席者　藤井　孝晏（大林組）講師
金田副委員長ほか6名
議　長　(1)平成5年度・建築工事実務講習会テキストについて
(2)次年度の事業計画について
第4回工高生教育小委員会
25日・6時～8時・於本会会議室
出席者　和田副委員長ほか7名
議　事　次年度・第39回工高生デザインコンクールの募集規定原案の検討その他

建材委員会

第9回委員会
13日・3時半～5時半・於本会会議室
出席者　和田委員長ほか13名
材料説明：HEX型立体駐車場（大規模・高速立体駐車場）
担当：松本委員
議　事　今後の検討建材及び「新建材紹介コーナー」掲載予定

出版委員会

第9回出版委員会
21日・5時～6時・於本会会議室
出席者　須賀委員長ほか7名
議　事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定
第7回「水にまつわるトラブルの事例・解決策」小委員会
21日・3時～5時・於本会会議室
出席者　山田副委員長ほか7名
議　事　「水にまつわるトラブルの事例・解決策」について

講演会

構造設計者が語る「P＆G日本本社ビル」
28日・6時半～8明15分・於本会サロン
講　演　丸岡義臣氏／竹中工務店設計部次長
参加者　39名

建築クラブ

新年宴会
12日・6時～7時・於大阪グランドホテル
参加者　61名

建築関係11団体合同新年交礼会

4日・2時半～3時半・於大阪コクサイホテル
参加者　610名

1月の入会者（敬称略）

〔個人会員3名〕

城戸　義雄（大阪府建築部）
樋口　重敏（キョーワ）
東郷　悦郎（鹿島建設）



追悼

水谷頴介さんのこと

藤田　邦昭
都市問題経営研究所所長

奇才、異能の士、水谷頴介さんが亡くなった。大阪市立大学川名研究室在籍時代以来のお付き合いだから三十年以上になる。研究室当時、都市、住宅、建築を総合した部門での研究者はほとんど居らず、水谷さんの進んだ考え方、そしてその異能ぶりは既に全日本に及んでいた。自由奔放、談論風発、「そらあかん」「なにゆうてんねん」、生粋の大阪人の私にはかなり気になるアクセントでまくし立て、相手が誰であろうとおかまいなし、その彼が五十七歳の若さで去った。

おそらく九州の病院からであろう、彼が直接私に電話してきたのはこの一月の中頃過ぎである。相談を受けている福岡の再開発プロジェクトに本格的に取組みたいが、その初動期の調査研究費用の捻出の方法に関しての相談で、私に対しての彼の話しの内容としては珍しいものであった。彼の健康状態が随分と悪く、夏を越せないのではないかとの話が仲間に伝わったのは去年の初夏の頃である。その回復は共通の願いであり、「ゆっくり静養しろ」と機会ある毎に彼に話すのであったが、自身の状況について知っていたのか、知らされていなかったのか、関係するプロジェクト、研究部門について情熱を燃やし続けていた。阪神間の住宅をテーマにしたパネルディスカッションに、九州からパネラーとして参加、私も同席したのは昨年の十一月である。京都大学に提出した学位論文について、教授陣の気遣いをよそに長弁舌の説明をしたと聞いたのは年末のこと。鬼神に近い壮絶な生きざまである。

長い付き合いであったが、随分勝手気ままの士であった。自説を主張、一切の妥協をしない。私の説が通りかかると「僕は十年前からそんなことは言っている」と。いつか少々頭にきたので「専門家なんだから、大きな部門での十年先見通しについていくつかはあたるのが当り前、半年先のディテールについて話せるのが本当のプロだ」と言ってやった。彼はひどく以後そのことを気にしていつまでも拘り、今度はそのことで私がやりこめられた。友人として、研究仲間としてすばらしい存在であったが、一緒に仕事をするには全く困った相手で、いつまでも噛み合わず、妥協もせず、当方をアホ、バカ呼ばわりされるので全くやり切れない連続であった。

水谷逝くの悲報が伝わったのは二月四日水戸市での会合の席であった。六日朝、九州福岡の密葬に間に合った。多くの友人仲間が全国から来ていた。全員声が出なかった。奥さんが挨拶に立たれ「こんなに沢山集っていただいています。主人はきっと、『僕も呼んでよ』と言うと思います」と、同じ思いであった。強がりの淋しがり屋、こんな時には水谷さんはきっとこう主張するだろうな、この様に反論して困らすだろうな、仲間の研究者、計画者の中にこんな形でいつまでも水谷さんは生き続けてゆくと思います。　　合掌

（平成五年一月十四日　自宅にて記）

日本建築協会企画図書目録

日本建築協会創立60周年記念事業
建築技術選書発行：学芸出版社

NO	書籍名	税込価格
1	茶室の話（岡田孝男著）	￥1,339-
8	建具の知識と意匠（山片三郎著）	￥1,339-
9	エレベータ・エスカレータ（木村利雄著）	￥1,339-
13	医院・診療所の計画と設計（池田有隣・船越暉由著）	￥1,339-
15	PC建築の話（下伊豆隆三著）	￥1,236-
16	石垣と石積壁（窪田　祐著）	￥1,339-
17	基礎と地盤の手ほどき（中堀和英著）	￥1,339-
20	タイルの話（田中　弘著）	￥1,339-
24	鉄骨構造の話（金多潔・甲津功夫・西澤英和著）	￥1,339-
27	建築積算業務（生島道春著）	￥1,442-
28	建築金物の知識（立野一郎著）	￥1,339-
29	瓦と屋根構造（佐藤滋朗著）	￥1,442-
32	建築塗装の手引き（児島修二著）	￥1,442-
33	建築式典の実際（若林嘉津雄著）	￥1,339-
38	住宅の照明（大島　博監修）	￥1,442-

日本建築協会創立70周年記念事業
選書特装版発行：学芸出版社

NO	書籍名	税込価格
1	構造コストと経済設計（須賀好富著）	￥3,605-
2	建築設備の健康診断（牧野　茂著）	￥3,914-
3	新・建築と設備の接点（宮脇 毅・南部 武著）	￥3,605-
4	外壁構法チェックリスト（飯塚五郎蔵著）	￥3,399-
5	建築デザインのための構造計画（須賀好富著）	￥2,884-
6	場所打ち杭の設計と施工（阪口　理著）	￥3,296-

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇
〈プロのノウハウ〉シリーズ発行：学芸出版社

NO	書籍名	税込価格
1	TQCから見た建設業（荒木睦彦著）	￥1,648-
2	躯体工事監理のチェックポイント100（須賀好富著）	￥2,060-
3	パソコン会計術（西部明郎著）	￥1,854-
4	建築の値打ちの高め方（小林清周著）	￥1,751-
5	空調設備のトラブル50（建築設備トラブル研究会著）	￥2,060-
6	衛生設備のトラブル50（建築設備トラブル研究会著）	￥2,060-
7	火災安全学入門（岡田光正著）	￥1,700-
8	現場マンのアイデア発想（合原一夫著）	￥1,854-
9	建築基準法の実際（矢吹茂郎著）	￥1,854-
10	工務店の税金対策100ポイント（建設税務研究会著）	￥1,854-
11	工業化住宅・考（松村秀一著）	￥2,060-
12	鉄骨工事の現場学（石田満裔著）	￥2,060-
13	建築紛争の実際（岡本辰義著）	￥1,854-
14	仕上工事監理のチェックポイント（監理業務研究会著）	￥2,060-
15	ゼロ災への道（表　一郎著）	￥1,648-
16	木造住宅のしくみ（浅野平八・東　敏博著）	￥2,060-
17	コンクリート工事のチェックポイント100（加賀秀治著）	￥2,060-
18	インテリアコーディネートの100ポイント（町田ひろ子監修）	￥1,648-
19	建築基準法を読みこなすコツ（高木任之著）	￥2,060-
20	ニュー組積建築のすすめ（福嶋孝之著）	￥2,060-
21	木づくりの常識非常識（上村　武著）	￥1,700-

日本建築協会事務局でお求めの場合、建築技術選書と〉プロのノウハウシリーズが100円割引き、選書特装版が200円割引きでおのおの頒布しておりますのでせいぜいご利用下さい。

テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ―――― コーパータイト　オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264

大阪事務所 TEL06(391)1081～2 FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660

横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341

埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区常盤町1－3－8（日本生命谷町ビル）
TEL（06）943－6571（代）

■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー!



大和郡山市九条スポーツセンター屋根　エターノコアーF

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)
・鋼板製オリエンタルフネンシングル
・オリエンタルオリセラム
・オリエンタルエターノコアー(ETC-F)

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログをご請求下さい。

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660 尼崎市昭和南通り３―26　電話大阪(06)412―5131㈹
大阪支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・姫路
東京本社及工場　〒335 蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42―3115㈹
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営 業 所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出 張 所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空　気　調　和　　搬送機設備
給排水衛生　　設　計　施　工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満３丁目６番１４号
電話　０６－３６４－６６６１(代表)
本　　社　〒100 東京都千代田区丸の内３丁目３番１号
電話　０３－３２１１－８５１１(代表)

空気調和設備　　産　業　設　備
給　排　水　設　備　　水　処　理　施　設
電　気　設　備　　環　境　施　設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
大阪支店長　三田村嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話06(202)3071(代表)
本　　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(3502)6111(大代)
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町９－３　電0720－49－2128

空気調和設備
衛　生　設　備設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町３番５号　電話(352)１１３１(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町２－22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津６丁目８番４号　**電話大阪(458)3628番**
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03－3344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満４丁目６番18号　電話 06－363－1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・神戸・広島・福岡
営 業 所　札幌・京都・松江
出 張 所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・川崎・富山・福井・和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

大規模空間（天井金属パネル）に
地球を入れることはできませんが
地球規模の夢を入れることはできます

内外装創作パネル・システム天井・間仕切

OKUJU

スペース　クリエイター

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131 FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎

株式会社 オクジュー

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町２丁目11番16号(オートセンタービル１・２階)
郵便番号542　電話 大阪(06)768－５０３１　代表
メンテナンス部　電　話　大阪（０６）７６８－１６５１　代表
東京支店　東京都文京区小石川１丁目12番14号（日本生命小石川ビル７階）
郵便番号112　電話（０３）５６８９－２３５１代表

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長　依　藤　孝　行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351－5428(代)
FAX(06)351－5299

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町２０番地の１
電話(681) ５１０１～５・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話 (06)352－3501㈹
三重支店　津市栄町２－１１１　電話(0592)26－3610㈹
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431㈹
滋賀営業所　大津市中央２丁目4-28　電話(0775)22－9738㈹

Carrier

冷暖房はキャリア CARRIER

東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　吹田市豊津町４０番３８号
電話 大阪 (384) 1201～7

さわやかに心豊かな生活空間つくり。



— 電気・計装・空調・土木 —

K栗原工業株式会社

本社／〒530 大阪市北区角田町1番1号(東阪急ビル)
TEL.06(313)1101 FAX.06(315)0050
東京・東関東・横浜・名古屋・大阪南・神戸・広島・四国・九州・シンガポール

電気設備　設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本　社　大阪市北区中之島３－２－４　朝日ビル　TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所　TEL 大阪06(385)1361(代)　京都営業所　TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所　TEL 東京03(3574)0665　福岡出張所　TEL 福岡092(771)6168

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役 土 井 敏 裕

本　社　大阪市北区西天満２丁目６－８(堂ビル５階)
電　話　０６（３６１）３６７１(代)
支　店　東京都中央区日本橋茅場町２丁目１７番３号
電　話　０３（３６６６）１４７８（代）
営業所　堺・泉　州・泉　南・滋　賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
関西支社

支社長 馬 田 栄

大阪市中央区高麗橋４丁目３番７号　電話 大阪 (202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田１丁目４番５号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります

営業種目 設計・施工・監理

- ●電気設備
  - 受変電・幹線
  - 動力・制御装置
  - 電話、放送、インターホン
  - 防犯、防災
  - 中央監視制御
  - システム計装
- ●空調・給排水・衛生設備
  - 空気調和
  - 工場配管
  - 水処理
  - コージェネレーション
  - クリーンルーム
- ●プラント
  - プラント計装
  - システムエンジニアリング
- ●情報通信設備
  - 情報通信ネットワーク
  - 情報処理
  - 通信システム
  - 放送システム
- ●電力流通設備
  - 受変電
  - 架空送配電
  - 地中送配電

住友電設株式会社

大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 秀 一

本　社　〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル)　TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社　〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル)　TEL.03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店　〒462 名古屋市北区金城3-12-14　TEL.052(991)5131・FAX052(914)7535
神戸支店　〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル)　TEL.078(881)5571・FAX078(871)6261
堺研究所　〒590 大阪府堺市三宝町七丁369　TEL.0722(27)8408・FAX0722(27)1424

＊ 奉仕感謝の店

タイル及び規格石一式施工

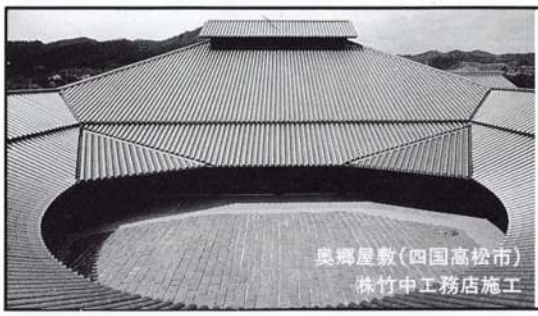
株式会社 川岸窯業商店

本　社　大阪市西区西本町１の13の33
TEL.06－532－0461(代表)
FAX.06－535－5181
天理営業所　天理市丹波市新町４９

学校建築のトータルアドバイザー

二葉工業株式会社

黒　板・掲示板・家　具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547 大阪市平野区加美北３－４－５
TEL.06(792)5858　FAX.06(792)2810



あらゆる屋根工事の相談は、

〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 五六一～七四一六
ファックス 五六一～七四五四

ナニワ瓦株式会社

ND
JAPAN ELECTRIC TYPESETTING CO.,LTD.

■情報処理　■編集・企画　■印刷・製本

日本電植株式会社

〒530 大阪市北区天満1-7-23
TEL.06(357)1803㈹　FAX.06(357)4950

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙 ●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－１
TEL(０７２９)３９－３６１０
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町２７４４
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

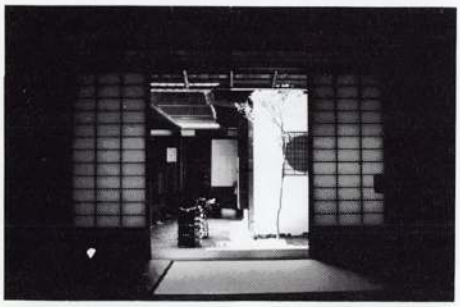
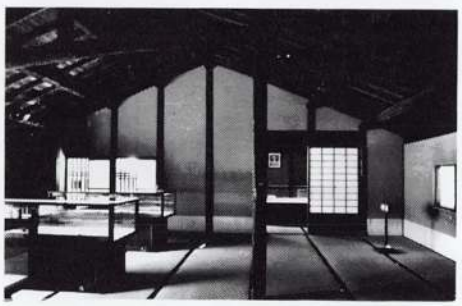
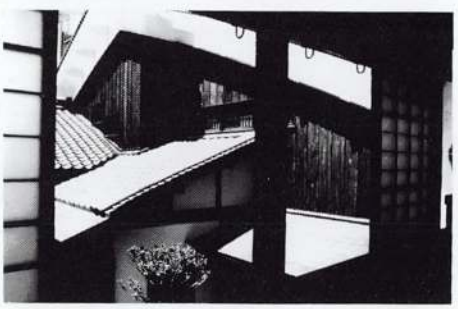
Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社エヌエムビー
株式会社ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木３－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

営業種目
●防　水　工　事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹　付　工　事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建　設　業　許　可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－21
星和地所扇町ビル201S
TEL06(315)０７０１
(株)特殊技研

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社　本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・綱野（０７７２７）２－２２２０
舞鶴（０７７３）７６－０１３３
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）３２７２－８５０１
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１
光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００
東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１
TEL 大阪（０６）８７７－１５８１



空　間　無　限

太陽光の角度によって時と共に変化する壁面
タイルのわずかな凹凸が表情を際立たせる。
ある時は壁面の背後に別の空間を感じさせるほど微妙な
無限のリズムの中の陰影、
タイル一枚一枚がまるで意思をもっているかのように語りかけてくる。
TOTOエクステリアタイル。

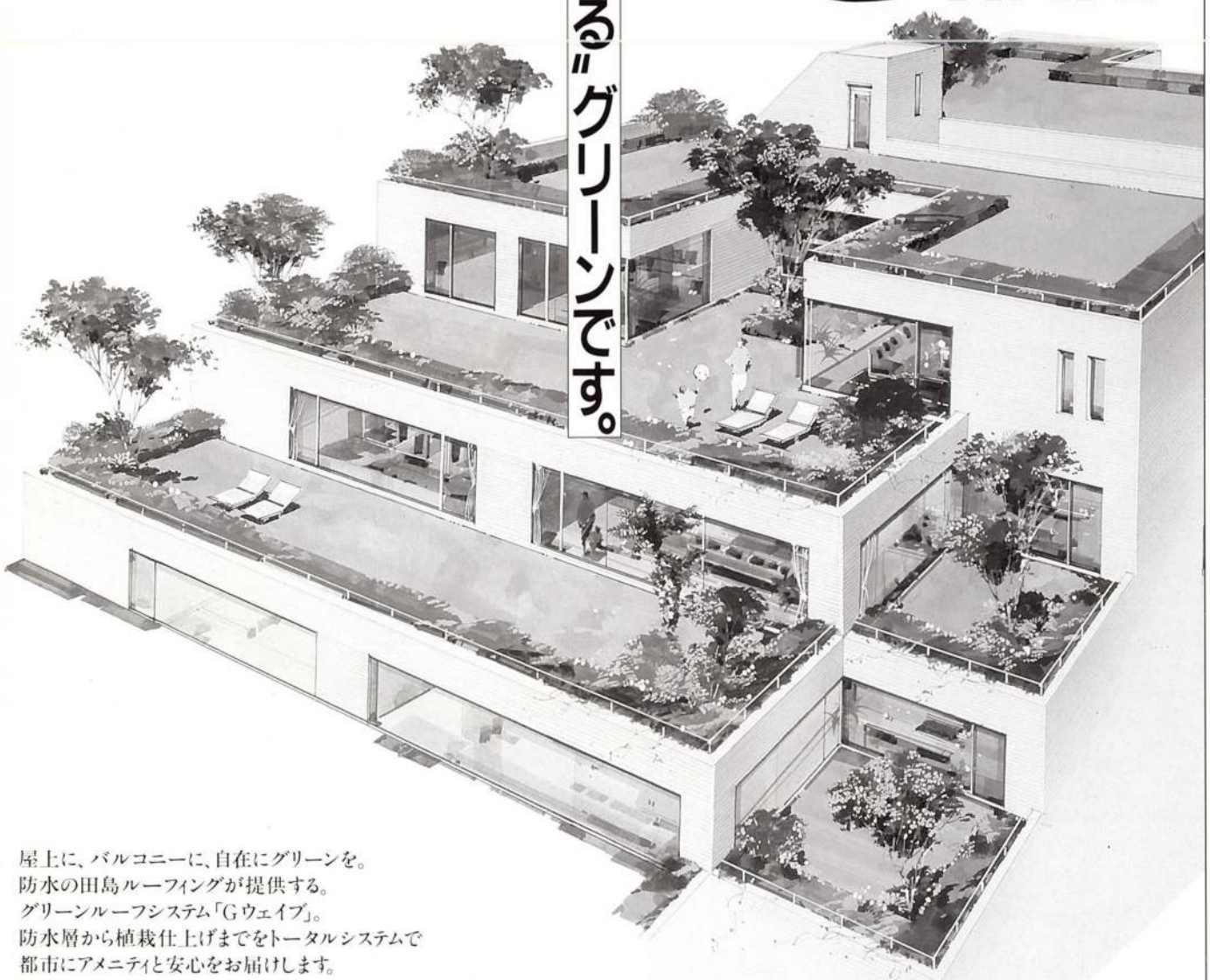
TOTOエクステリアタイル

カタログをご希望の方は、〒530 大阪市北区曽根崎2-3-7 梅新第一生命ビル東館 東陶機器㈱ 大阪支社までご請求ください。☎06(364)1181

●防水をトータルに考える。

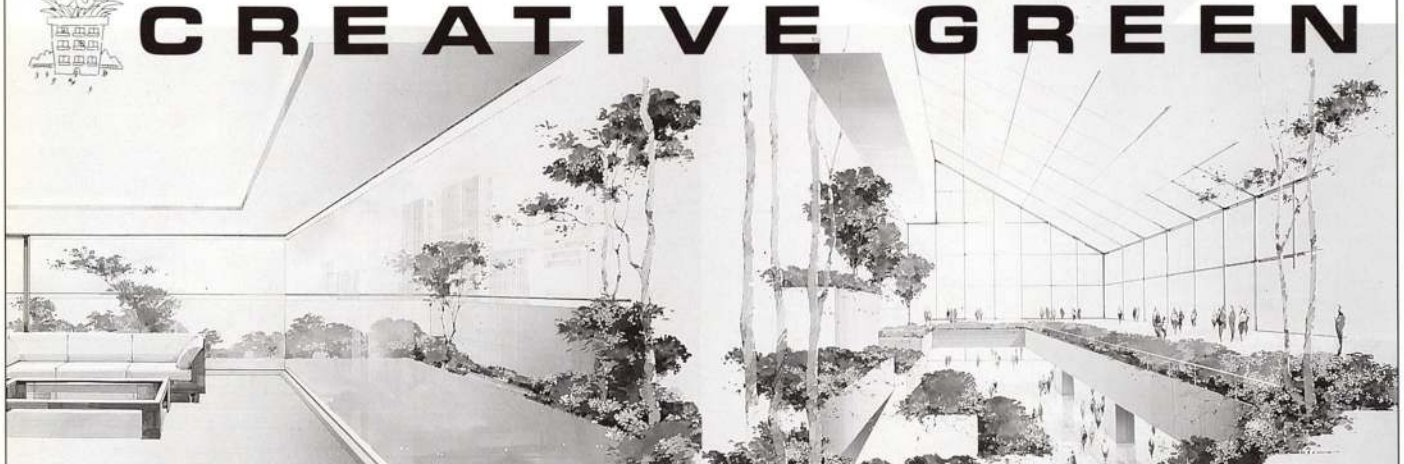
三星グリーンルーフシステム
G-WAVE

"使える"グリーンです。



屋上に、バルコニーに、自在にグリーンを。
防水の田島ルーフィングが提供する。
グリーンルーフシステム「Gウェイブ」。
防水層から植栽仕上げまでをトータルシステムで
都市にアメニティと安心をお届けします。

CREATIVE GREEN



東　京:電話(03)3863-5631　大　阪:電話(06)443-0431　仙　台:電話(022)261-3628　千　葉:電話(043)244-3711　金　沢:電話(0762)33-1030　広　島:電話(082)246-8625
　　:電話(03)3862-8531　札　幌:電話(011)221-4014　神　戸:電話(078)362-6121　横　浜:電話(045)651-5245　名古屋:電話(052)961-4571　福　岡:電話(092)521-3133

田島ルーフィング株式会社

建築と社会
第74輯3号

社団法人　日本建築協会　〒530　大阪市北区梅田1の1の3の2100　電話大阪06(348)0635　FAX06(348)0634

振替口座大阪一三九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九八〇円（本体九五一円　消費税二九円　送料共）

雑誌03379-3